

第46表 谷部出土遺物観察表(6)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
409 195	P 42	土師器	甑	(18.3)	[19.1]	—	1/3	雲角赤粒白粒	普通	橙		102-5
409 196	P 41	土師器	甑	(20.7)	22.2	(7.3)	1/4	雲角長石赤粒小礫	良好	にぶい褐		
409 197	P 42	土師器	甑	(15.6)	[26.5]	(11.0)	口縁~胴部	雲角石英赤粒白粒	普通	にぶい黄橙		
410 198	P 43	土師器	甑	22.4	29.6	9.2	ほぼ完形	雲角石英白粒針黒粒	良好	灰褐		117-3
410 199	P 42	土師器	甑	(19.2)	[28.7]	8.3	3/4	砂粒赤粒白粒	普通	橙		117-4
410 200	P 42	土師器	甑	(22.0)	[13.9]	—	口縁	雲赤粒黒粒	普通	にぶい橙		
410 201	P 42	土師器	甑	(24.6)	[18.5]	—	1/3	長石赤粒白粒	良好	にぶい褐		
410 202	M 47	土師器	甑	(23.6)	[29.6]	—	2/3	砂粒赤粒	普通	灰白	黒斑	118-1
410 203	P 42	土師器	甑	—	[6.7]	(4.0)	底部	雲赤粒	普通	灰白		
410 204	N 47	土師器	甑	—	[20.8]	8.8	胴部	雲白粒黒粒	普通	灰褐		
411 205	P 42	土師器	甑	(20.4)	32.0	(7.2)	1/3	雲長石赤粒白粒	普通	にぶい褐灰		
411 206	P 43	土師器	甑	22.2	29.0	8.4	3/4	角石英砂粒赤粒白粒	普通	淡黄		118-2
411 207	N 46	内黒土器	高台付壺	—	[3.7]	7.4	底部	雲角赤粒白粒	普通	灰黄		
411 208	N 46	灰釉陶器	高台付壺	(13.6)	4.4	(7.5)	1/2	白粒黒粒	良好	灰白	墨書「西」	84-8
411 209	O 44	灰釉陶器	壺	(12.8)	[2.3]	—	破片	石英黒粒	良好	灰白、釉灰白	ツケガケ	
411 210	O 44	灰釉陶器	高台付壺	—	[1.6]	(8.5)	破片	白粒黒粒	良好	灰白、釉灰白	ツケガケ	122-1
411 211	P 43	灰釉陶器	長頸瓶	—	[7.5]	—	破片	白粒黒粒	普通	灰白、釉灰白	ハケ塗り	122-1
411 212	O 46	瀬戸	緑釉小皿	—	—	—	破片		普通			124-1
411 213	O 45	緑釉陶器	皿	(13.6)	[1.2]	—	破片	白粒	普通	黄灰、釉灰白	黒	123
411 214	O 44	緑釉陶器	壺	—	[1.7]	—	破片	白粒	普通	灰、釉暗灰	オリーブ	123
411 215	O 47	瀬戸	壺	—	—	—	破片		普通			124-1
411 216	O 46	緑釉陶器	壺	(15.9)	[2.0]	—	破片	白粒	普通	黄灰、釉灰白	オリーブ	123
411 217	P 40	土製品	土玉	幅0.8長さ1.1重さ0.7			3/5					
411 218	P 42	石製品	白玉	径0.7長さ0.2重さ0.1			完形				滑石製	
411 219	P 42	石製品	白玉	径0.6長さ0.4重さ0.2			完形				滑石製	
411 220	P 42	石製品	白玉	径0.6長さ0.4重さ0.3			ほぼ完形				滑石製	128-2
411 221	P 42	石製品	白玉	径0.7長さ0.3重さ0.2			ほぼ完形				滑石製	128-2
411 222	P 42	石製品	白玉	幅0.7長さ0.6重さ0.4			ほぼ完形				滑石製	
411 223	P 42	石製品	白玉	径1.0長さ0.3重さ0.4			3/5				滑石製	
411 224	P 42	石製品	白玉	径1.0長さ0.5重さ0.7			1/2				滑石製	
411 225	P 42	石製品	白玉	径1.3長さ0.5重さ0.9			1/2				滑石製	
412 226	P 43	石製模造品	有孔円板	幅1.3長さ1.8厚さ0.4重さ1.5			1/2				滑石製	
412 227	P 42	石製模造品	剣形品	幅1.5長さ2.3厚さ0.5重さ2.1			4/5				滑石製	
412 228	P 43	石製模造品	有孔円板	幅1.8長さ2.8厚さ0.4重さ2.7			1/3				滑石製	
412 229	P 43	石製模造品	有孔円板	幅1.6長さ2.4厚さ0.5重さ3.1			1/3				滑石製	
412 230	P 42	石製模造品	有孔円板	幅2.4長さ2.3厚さ0.3重さ3.0			3/4				滑石製	128-1
412 231	P 42	石製模造品	剣形品	幅1.7長さ3.0厚さ4.0重さ3.9			1/3				滑石製	
412 232	P 43	石製模造品	不明品	幅1.6長さ3.0厚さ0.7重さ2.8			—				滑石製	
412 233	P 43	石製模造品	不明品	幅2.2長さ3.0厚さ0.4重さ3.1			—				滑石製	
412 234	P 42	石製模造品	不明品	幅1.4長さ2.9厚さ0.6重さ3.5			—				滑石製	
412 235	P 43	石製模造品	不明品	幅2.1長さ3.3厚さ0.4重さ2.6			—				滑石製	
412 236	O 44	石製模造品	剣形品	幅5.2長さ12.5厚さ1.2重さ113.1			完形				滑石製	127-2
412 237	P 40	金銅製品	耳環	径2.7×2.9幅径0.7重さ19.6			完形					130-1
412 238	O 46	鉄製品	鉄鎌	鎌幅2.3鎌身長3.4長さ9.7重さ8.8			完形					130-1
412 239	O 46	土製品	土錘	孔径0.5径1.5長さ[5.5]重さ9.6			4/5					129-2
412 240	P 42	石製品	紡錘車	孔径(0.7)径(3.0)厚さ1.2重さ9.8			2/5					
412 241	P 43	石製品	紡錘車未製品	長径6.9短径5.9厚さ1.6重さ89.6			完形				片岩	120-3
412 242	P 43	石製品	紡錘車未製品	長径12.3短径6.6厚さ2.5重さ237.0			完形				片岩	120-4
412 243	O 44	石製品	砥石	幅1.8長さ(3.7)厚さ1.3			4/5					120-5
412 244	O 44	石製品	砥石	幅5.2長さ10.0厚さ2.2			完形					129-1
413 245	N 46	木製品	田下駄	幅(11.0)長さ21.6厚さ2.2			4/5					135-5
413 246	N 47	木製品	台材	幅3.5長さ47.9厚さ0.9			ほぼ完形				円孔	135-6
413 247	O 46	木製品	側板	幅0.5高さ13.8直径44.9			ほぼ完形					136-3
414 248	N 46	木製品	建築材	幅12.9長さ105.9厚さ5.2			—					135-7
414 249	N 46	木製品	板材	幅[11.5]長さ115.7厚さ4.5			—				納穴2	135-8

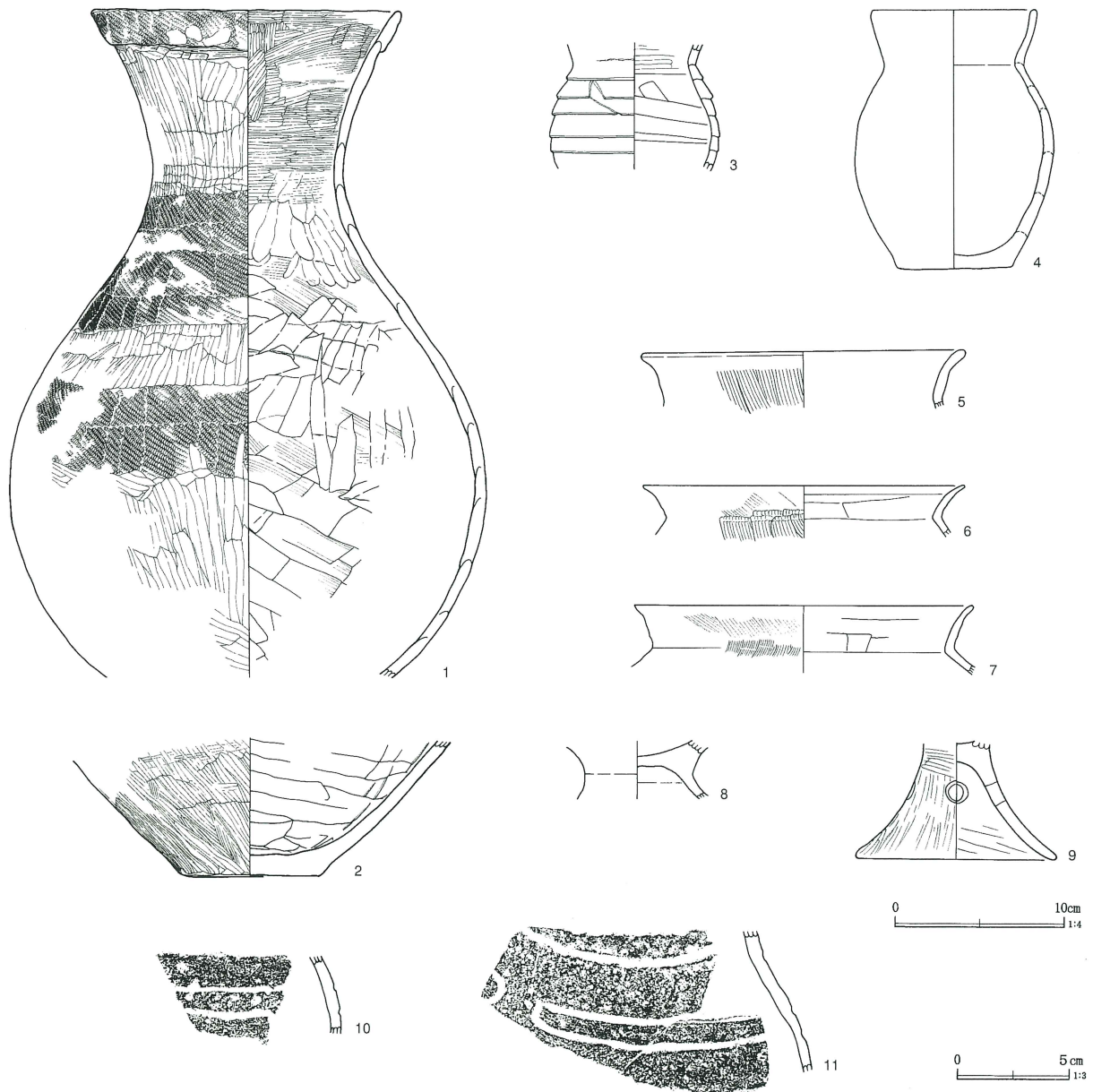
11. グリッド・表採遺物

遺構に伴わずグリッドで取り上げた遺物や遺構内から出土しているがその遺構の時期とは異なる混入品と考えられる遺物などをまとめて掲載した。

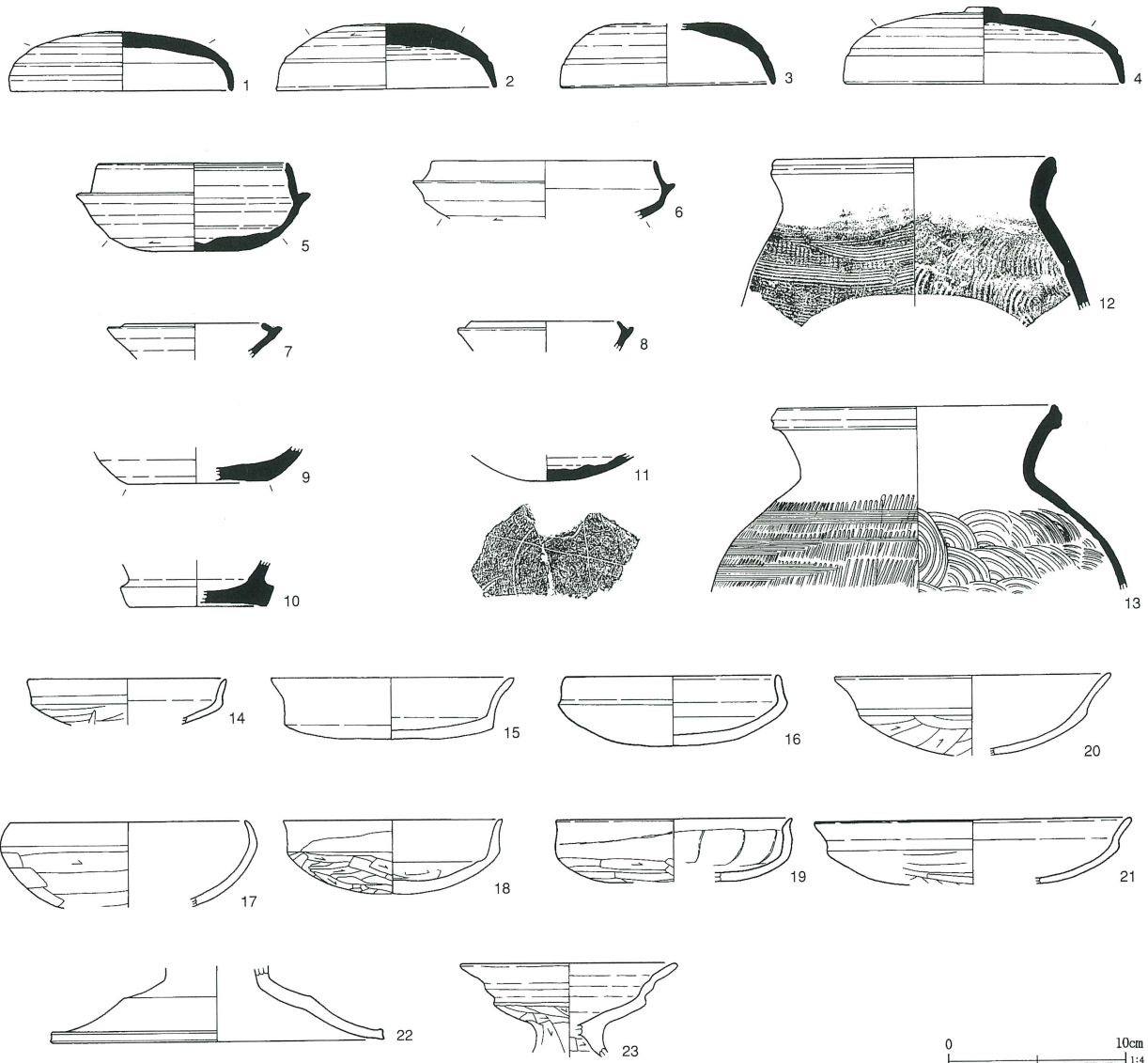
第415図は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器である。1と2は、第5次調査開始前に掘削した排水溝から出土した壺である。本来は遺構に伴っていたものと考えられるが、詳細な記録をとっていなかったため、出土地点が不明である。排水溝にかかる当該時期の遺構は少なく、可能性があるも

のとしては第14・17号方形周溝墓、第394号住居跡などがあげられるが、調査区際に存在した別の遺構に伴う遺物であった可能性も考えられる。1は、口縁部外面と胴部外面2段にR L縄文が施される。赤彩は認められない。3・4は小型の甕である。3は外面に輪積み痕を残す。4は、摩滅のため調整が不明である。

第416～417図は、古墳時代後期の須恵器と土師器である。4は、天井部に低いつまみが付く。5は、



第415図 グリッド・表採出土遺物 (1)



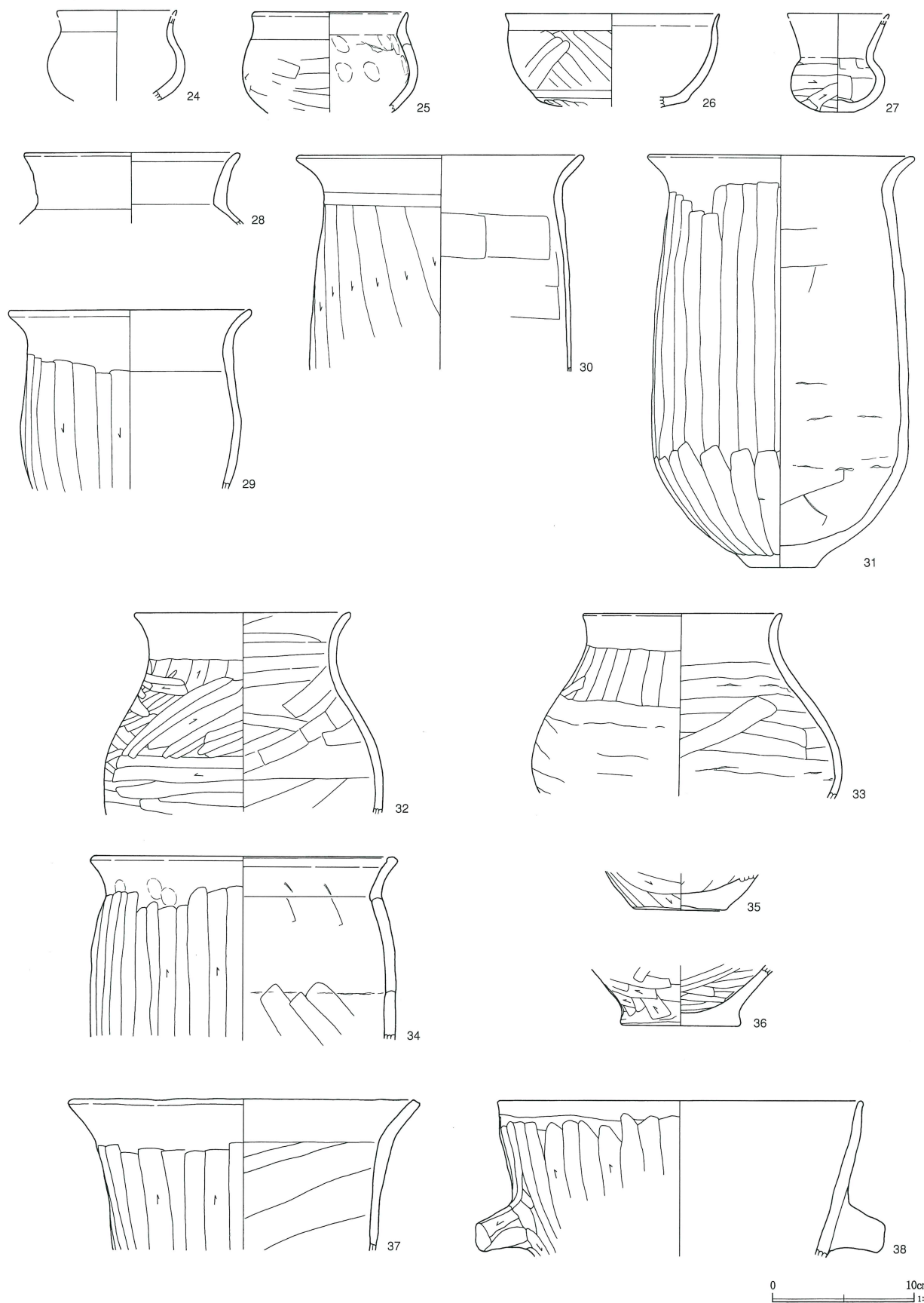
第416図 グリッド・表採出土遺物 (2)

東海産と考えられる坏身である、7・8は、湖西産の可能性のある口径の小さい坏身である。9は、末野産と考えられる坏で、底部外面は手持ちヘラケズリである。18・19の土師器坏は、口縁部外面から内面にかけて赤彩が施されている。

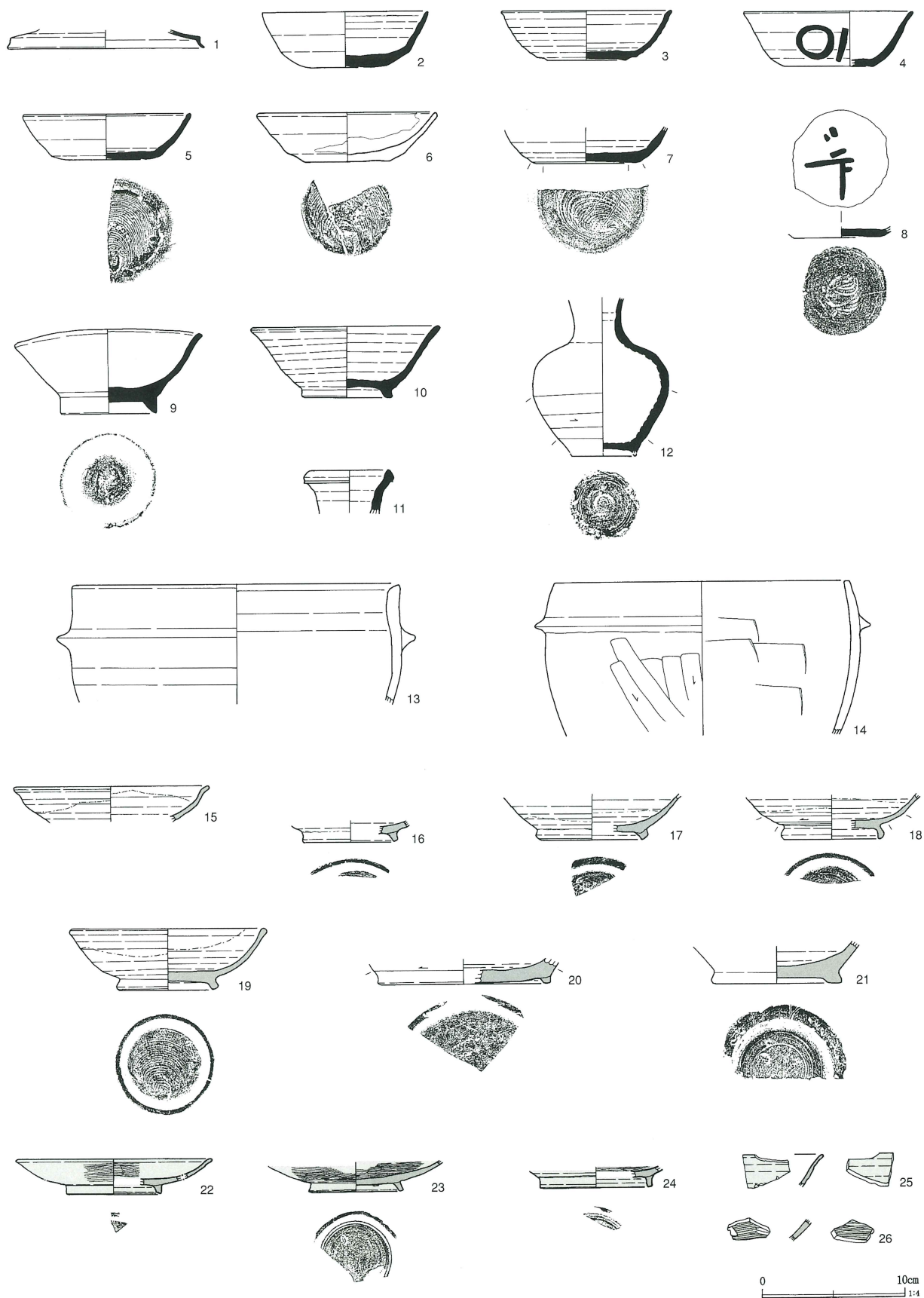
第418～419図は、奈良時代から中世までの土器と板碑である。1～14は須恵器、15～21は灰釉陶器、22～26は緑釉陶器、27～35が中世陶磁器である。4は、体部外面に記号と考えられる「○|」の墨書が認められる。8は、底部外面に判読不明の墨書が認められる。32～35は碗で、32が白磁、33・34が青磁、

35が天目茶碗である。36は、種子の部分から下が欠損する板碑片である。頂部は山形で、首部に二条線をもつ。枠線内に阿弥陀（キリーク）が認められる。

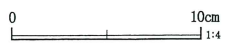
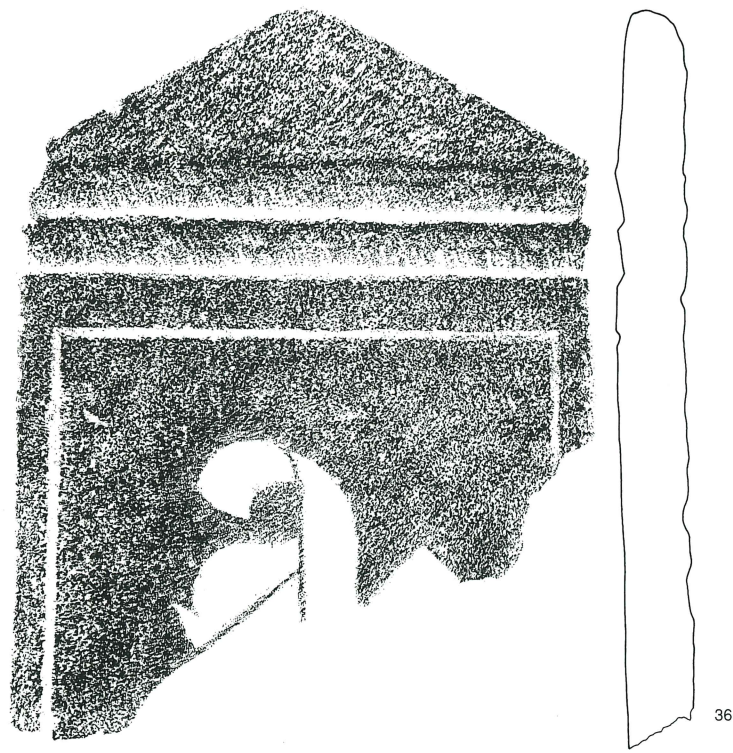
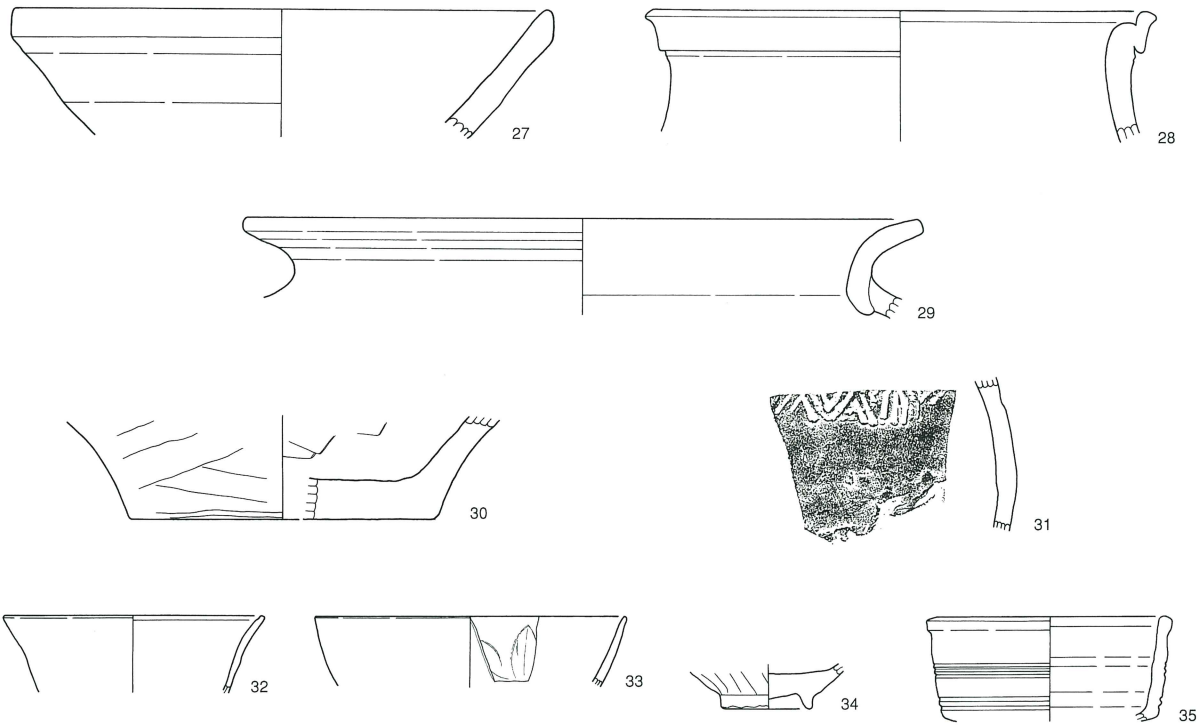
第420～421図は、石製品・土製品などの土器以外の遺物である。1から3は、勾玉である。1は、滑石製で、頭部部分が欠損しており、全体が不明であるため、勾玉ではない可能性も考えられる。8～21は白玉、22～25は有孔円板、26・27は剣形、28は勾玉形模造品である。29は、勾玉形と考えられる。30～32は、用途不明品で、32は剣形の可能性も考えられる。33は、石帯の巡方である。



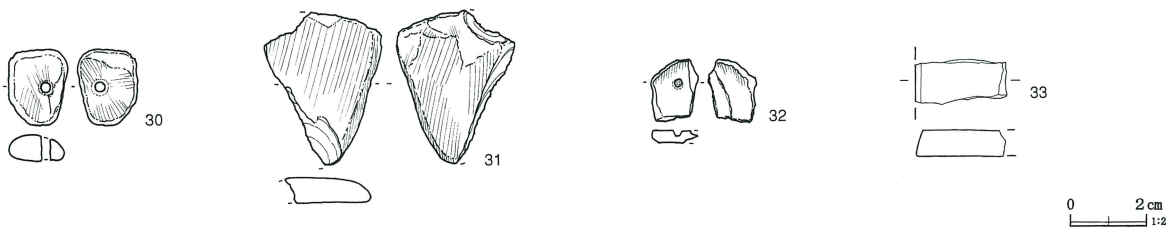
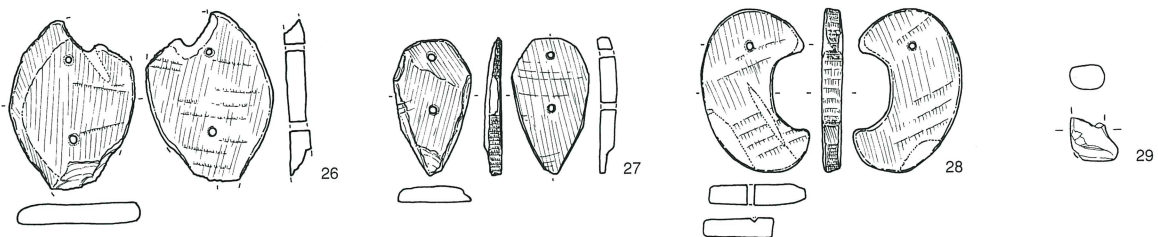
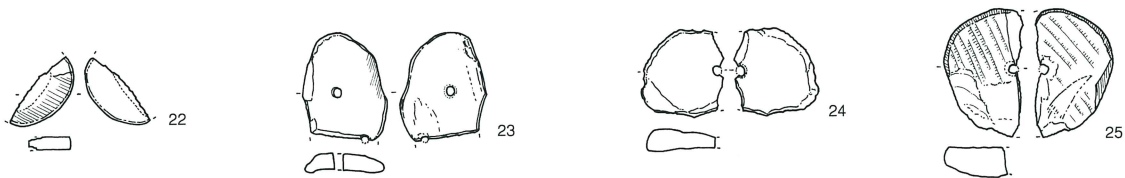
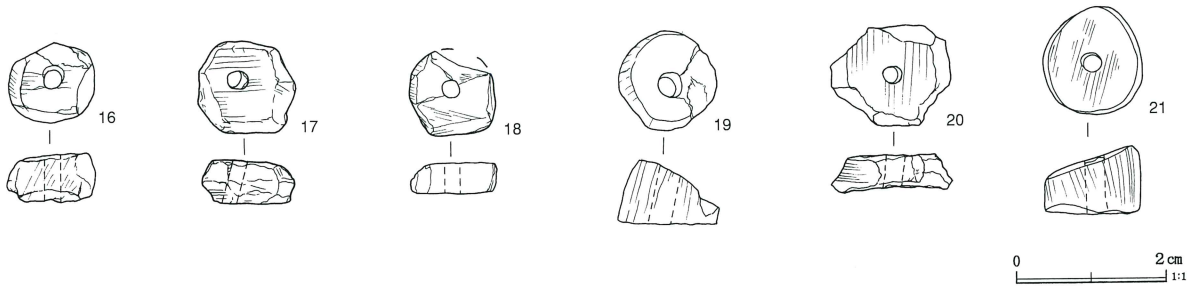
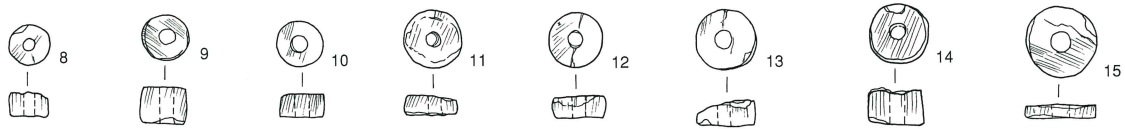
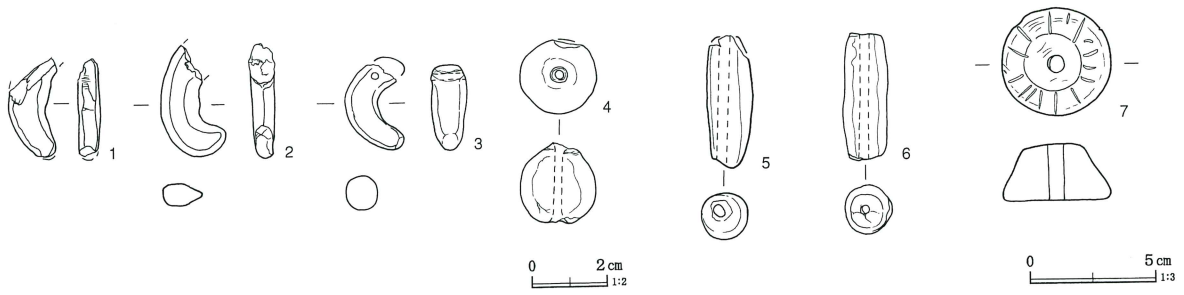
第417図 グリッド・表採出土遺物 (3)



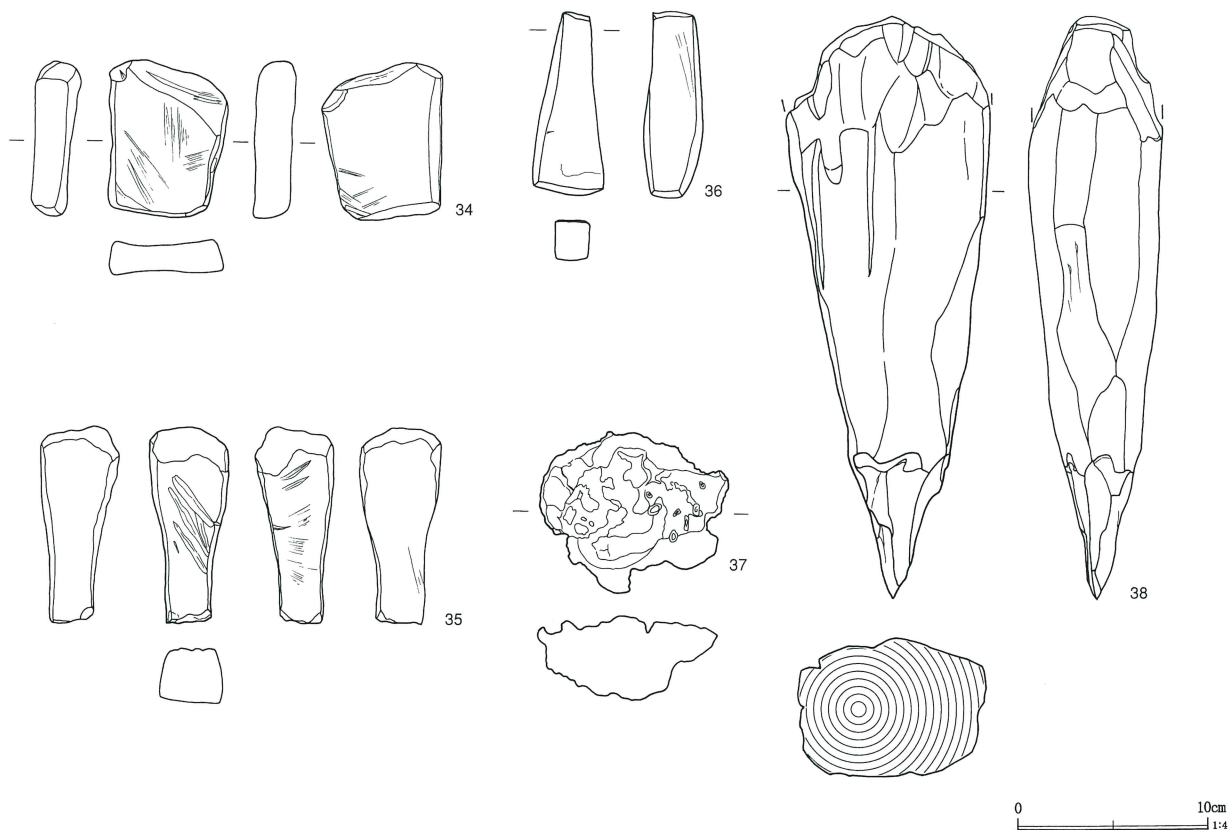
第418図 グリッド・表探出土遺物 (4)



第419図 グリッド・表採出土遺物 (5)



第420図 グリッド・表採出土遺物 (6)



第421図 グリッド・表採出土遺物 (7)

第47表 グリッド・表採出土遺物観察表(1)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
415 1	排水溝	土師器	壺	(18.2)	[39.0]	—	1/3	片角石英赤粒	良好	灰黄	RL多条	118-3
415 2	排水溝	土師器	壺	—	—	7.4	底部	片石英赤粒白粒針	良好	にぶい黄褐	赤彩	
415 3	SJ 389	土師器	甕	—	[7.4]	—	胴部破片	角白粒	普通	灰褐		
415 4	SJ 377	土師器	小型甕	12.0	15.2	6.8	4/5	石英砂粒赤粒白粒	普通	灰白		102-6
415 5	SJ 406	土師器	甕	(19.5)	[3.4]	—	口縁破片	雲	普通	灰褐	煤付着	
415 6	SJ 406	土師器	甕	(19.0)	[3.1]	—	口縁破片	雲白粒	普通	にぶい橙		
415 7	SJ 406	土師器	甕	(20.0)	[4.0]	—	口縁破片	雲赤粒	良好	にぶい褐		
415 8	SJ 406	土師器	台付甕	—	[3.5]	—	脚部	雲赤粒白粒	普通	明赤褐		
415 9	SD 792	土師器	高坏	—	[6.9]	11.5	脚部	赤粒	良好	明褐灰	赤彩	
415 10	SJ 397	土師器	壺	—	—	—	破片	雲赤粒	普通	にぶい褐	沈線による区画文	
415 11	SJ 397	土師器	壺	—	—	—	破片	雲赤粒	普通	にぶい褐	沈線による区画文	
416 1	O 34	須恵器	蓋	12.8	3.3	—	3/4	砂粒白粒	良好	灰赤		84-9
416 2	SD 753	須恵器	蓋	12.4	3.7	5.0	2/3	石英白粒	普通	灰白		
416 3	SE 411	須恵器	蓋	(12.0)	[3.5]	—	破片	白粒黒粒	良好	灰	煤付着	
416 4	SD 745	須恵器	蓋	17.9	4.4	—	2/3	雲石英軽石白粒	良好	灰白		84-10
416 5	SD 762	須恵器	坏身	(10.9)	5.0	—	1/2	白粒	普通	黄灰	東海産	85-1
416 6	SD 814	須恵器	坏身	(12.8)	[3.3]	—	1/5	白粒	普通	青灰		
416 7	SD 762	須恵器	坏身	(8.0)	[2.0]	—	破片	白粒	良好	灰	湖西産	
416 8	SD 762	須恵器	坏身	(8.4)	1.7	—	破片	白粒	良好	淡灰	湖西産	
416 9	SJ 333	須恵器	坏	(8.0)	[2.0]	8.0	底部破片	雲	良好	灰白	末野産	
416 10	SD 760	須恵器	播り鉢	—	[2.6]	(8.0)	底部破片	白粒黒粒	良好	青灰		
416 11	SD 680	須恵器	壺	—	—	—	破片		良好	灰	ヘラ記号「×」	
416 12	SD 754	須恵器	甕	15.8	[8.3]	—	口縁1/4	白粒	良好	灰		121-2
416 13	排水溝	須恵器	甕	(15.6)	[10.4]	—	1/3	白粒	良好	青灰		103-1
416 14	SE 411	土師器	坏	(11.2)	[2.5]	—	1/5	赤粒白粒	普通	にぶい橙		

第48表 グリッド・表採出土遺物観察表(2)

挿図番号	遺構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
416 15	O 35	土師器	坏	13.8	3.4	4.3	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐	模倣坏	85-2
416 16	SD 792	土師器	坏	12.2	3.9	—	底部	角 赤粒	普通	明褐灰	身模倣坏	85-3
416 17	SD 797	土師器	坏	(13.2)	[4.8]	—	底部	雲 赤粒	普通	赤褐		
416 18	SD 820	土師器	坏	(13.4)	4.2	—	1/2	雲 石英 砂粒	普通	にぶい赤褐	比企型坏、赤彩	85-4
416 19	SJ 407	土師器	坏	13.2	[3.5]	—	ほぼ完形	石英 赤粒 白粒	普通	赤褐	比企型坏、赤彩	85-5
416 20	SD 825	土師器	坏	(15.6)	[4.5]	—	4/5	赤粒 白粒	普通	橙	模倣坏	
416 21	SE 420	土師器	坏	(18.8)	[3.6]	—	完形	角 赤粒 白粒 針	普通	橙		
416 22	SJ 329	土師器	高坏	—	[4.2]	(18.9)	1/2	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
416 23	SR 17	土師器	高坏	(12.4)	[5.3]	—	4/5	砂粒 赤粒 白粒	良好	浅黄橙		
417 24	SD 745	土師器	壺	—	[4.5]	—	ほぼ完形	雲 石英 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		
417 25	K 34	土師器	壺	(11.0)	[7.0]	—	2/3	角 赤粒	普通	灰白~浅黄橙		
417 26	K 32-33	土師器	壺	(15.2)	[6.5]	—	破片	石英 赤粒	普通	橙		
417 27	SD 806	土師器	ミニチュア	—	[6.4]	2.2	破片	雲 赤粒 白粒	良好	明赤粒		103-2
417 28	SD 745	土師器	小型甕	(15.2)	[5.0]	—	破片	石英 赤粒	普通	橙		
417 29	SD 745	土師器	甕	16.9	[12.5]	—	2/3	砂粒 白粒	普通	にぶい橙		
417 30	SD 745	土師器	甕	19.8	[15.1]	—	—	砂粒 赤粒 白粒 小礫	普通	にぶい赤褐		103-3
417 31	排水溝	土師器	甕	18.4	28.7	4.6	1/3	雲 砂粒 赤粒	普通	にぶい赤褐		118-4
417 32	排水溝	土師器	甕	(15.2)	[13.9]	—	1/5	雲 長石	普通	明赤灰		103-4
417 33	排水溝	土師器	甕	(14.0)	[12.8]	—	1/5	長石 赤粒 黒粒	普通	褐灰		103-5
417 34	SD 760	土師器	甕	(21.4)	[12.6]	—	破片	雲 砂粒	普通	褐灰		
417 35	SD 745	土師器	甕	—	—	6.6	1/2	砂粒	普通	赤褐		
417 36	SD 745	土師器	甕	—	[4.2]	8.4	破片	雲 白粒	普通	にぶい橙		
417 37	SD 764	土師器	甕	24.0	[10.5]	—	破片	角 長石 砂粒 赤粒 小礫	普通	黄橙		
417 38	SD 760	土師器	甕	(25.6)	[10.9]	—	破片	石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	淡橙		
418 1	SJ 340	須恵器	蓋	(12.8)	[2.0]	—	1/4	白粒	普通	灰	重ね焼き	
418 2	SD 762	須恵器	坏	(11.8)	[3.9]	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰オリーブ	秋間産	85-6
418 3	SD 762	須恵器	坏	11.9	3.5	5.5	破片	石英 白粒 針	良好	褐灰		
418 4	SD 762	須恵器	坏	(12.0)	3.9	(6.3)	破片	針	良好	灰	「○」墨書	119-11
418 5	SD 762	須恵器	坏	(11.7)	3.2	5.5	破片	針 黒粒 小礫	良好	灰		85-7
418 6	SE 408	かわらけ	坏	(12.5)	3.5	6.1	2/3	雲 黒粒	普通	にぶい橙		
418 7	SD 762	須恵器	坏	—	[2.5]	7.8	1/4	角 石 砂粒 白粒 針	良好	黄灰	ヘラ記号	119-12
418 8	M 27	須恵器	坏	—	[0.8]	6.5	破片	針	良好	灰	墨痕	
418 9	K 33	須恵器	高台付壺	13.0	5.9	6.6	1/2	片 角 長石 赤粒 砂粒	不良	灰	末野産	85-8
418 10	SD 762	須恵器	高台付壺	13.0	5.0	5.8	完形	角 石 砂粒 赤粒 白粒 針 小礫	普通	黄灰		85-9
418 11	SJ 333	須恵器	壺	(5.6)	[2.8]	—	—	白粒 黒粒	良好	黒灰		
418 12	SJ 333	須恵器	壺	—	10.8	4.7	3/4	片 石英	良好	灰	末野産	103-6
418 13	SD754-755	在地	羽釜	23.2	[8.3]	—	破片	石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
418 14	SD 760	在地	羽釜	(21.0)	[10.1]	—	—	赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
418 15	L 29	灰釉陶器	壺	(13.6)	[2.5]	—	2/3	石英 黒粒	良好	灰白		
418 16	N 34	灰釉陶器	壺	—	[1.5]	(6.8)	ほぼ完形	白粒 黒粒	良好	灰白		
418 17	SJ 342	灰釉陶器	壺	—	[3.2]	(8.0)	1/5	白粒 黒粒	普通	灰白		
418 18	SJ 406	灰釉陶器	壺	—	[3.1]	(7.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白、釉灰白	ツケガケ	
418 19	SD 745	灰釉陶器	壺	(13.3)	4.3	7.6	1/2	白粒 黒粒	普通	灰白、釉灰白	ツケガケ	85-10
418 20	SD 714	灰釉陶器	長頸瓶	—	[1.8]	(12.3)	1/3	白粒 黒粒	普通	灰白		
418 21	SE 404	灰釉陶器	壺	—	[2.6]	9.0	1/3	白粒 黒粒	普通	灰白		
418 22	SD 762	緑釉陶器	皿	(13.7)	[2.5]	(6.7)	4/5	白粒 黒粒	普通	灰、釉オリーブ		123
418 23	SD 792	緑釉陶器	皿	—	[2.1]	(6.7)	完形	白粒	普通	灰、釉オリーブ		123
418 24	SD 762	緑釉陶器	壺	—	[1.4]	(8.0)	3/4	白粒	普通	淡黄、釉オリーブ黄		123
418 25	表採	緑釉陶器	壺	—	—	—	底部	白粒	普通	灰、釉オリーブ灰		123
418 26	表採	緑釉陶器	壺	—	—	—	1/2	黒粒	普通	淡黄、釉浅黄		123
419 27	R 47	在地	片口鉢	28.6	[6.8]	—	脚部	雲 長石 赤粒 白粒	普通	灰黄褐		
419 28	SJ 393	常滑	甕	25.6	[6.9]	—	口縁破片	石英 砂粒 赤粒 白粒	良好	灰オリーブ		125-1
419 29	SD 797	渥美	甕	(36.0)	[5.0]	—	完形	雲 赤粒 白粒	普通	灰		
419 30	SD 753	常滑	甕	—	[5.4]	(16.6)	1/3	砂粒	普通	黄橙		
419 31	SD 797	常滑	甕	—	8.0	—	—	砂粒	良好	灰白		126-1
419 32	Q 47	白磁	碗	—	—	—	—	—	良好	—		124-1

第49表 グリッド・表採出土遺物観察表(3)

挿図番号	遺構番号		種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
419 33	SJ	414	青磁	碗	(16.5)	[3.7]	—	口縁破片		良好	オリーブ黄		124-1
419 34	表採		青磁	碗	—	—	4.8	底部1/2		良好	明オリーブ灰		124-1
419 35	Q	47	古瀬戸	天目茶碗	—	—	—	口縁破片		良好			124-1
419 36	Q	46	石製品	板碑	幅30.9高さ[39.1]厚さ3.6			1/2					120-6
420 1	SD	822	石製品	勾玉	厚さ[2.6]重さ3.1			4/5				滑石	
420 2	SE	422	石製品	勾玉	厚さ[2.9]重さ2.6			3/4					127-1
420 3	Q	46	土製品	勾玉	幅[1.5]長さ[2.2]厚さ0.9重さ3.0			4/5					129-2
420 4	N	35	土製品	土玉	径2.0高さ2.1重さ8.3			ほぼ完形					129-2
420 5	O	30	土製品	土錘	孔径0.4長さ5.2厚さ1.9重さ16.1			完形					129-2
420 6	SE	414	土製品	土錘	孔径0.3径1.7長さ4.9重さ13.9			ほぼ完形					129-2
420 7	N	33	石製品	紡錘車	孔径0.6径4.4厚さ2.2重さ55.8			完形					120-1
420 8	SD	758	石製品	白玉	径0.5長さ0.3重さ0.1			ほぼ完形				滑石	128-2
420 9	Q	44	石製品	白玉	径0.6長さ0.5重さ0.3			ほぼ完形				滑石	128-2
420 10	SD	793	石製品	白玉	径0.6長さ0.3重さ0.2			ほぼ完形				滑石	128-2
420 11	SD	798	石製品	白玉	径0.8長さ0.3重さ0.2			4/5				滑石	128-2
420 12	SE	414	石製品	白玉	径0.76長さ0.3重さ0.3			ほぼ完形				滑石	128-2
420 13	O	34	石製品	白玉	径0.8長さ0.3重さ0.3			3/5				滑石	
420 14	表採		石製品	白玉	径0.8長さ0.5重さ0.5			ほぼ完形				滑石	
420 15	Q	48	石製品	白玉	径0.9長さ0.2重さ0.1			ほぼ完形				滑石	128-2
420 16	M	33	石製品	白玉	径1.2長さ0.6重さ1.0			3/5				滑石	
420 17	M	29	石製品	白玉	径1.3長さ0.6重さ1.5			4/5				滑石	
420 18	表採		石製品	白玉	径1.0長さ0.4重さ0.8			4/5				滑石	
420 19	SD	714	石製品	白玉	径0.8長さ1.3重さ1.5			3/5				滑石	
420 20	032,P21	32	石製品	白玉	径1.6長さ0.5重さ1.4			2/5				滑石	
420 21	Q	46	石製品	白玉	径1.3長さ0.9重さ2.4			ほぼ完形				滑石	128-2
420 22	SD	816	石製模造品	有孔円板	幅1.2長さ1.8厚さ3.0重さ1.4			1/3				滑石	
420 23	SD	753	石製模造品	有孔円板	幅2.2長さ2.7厚さ0.4重さ5.5			1/3				滑石	
420 24	L	31	石製模造品	不明品	幅2.2長さ2.3厚さ0.6重さ4.5			—				滑石	
420 25	表採		石製模造品	有孔円板	幅2.0長さ3.3厚さ0.8重さ8.4			1/2				滑石	
420 26	SD	797	石製模造品	剣形品	幅3.3長さ4.4厚さ0.5重さ14.5			4/5				滑石	128-1
420 27	SJ	329	石製模造品	剣形品	幅2.1長さ3.6厚さ0.5重さ5.1			完形				滑石	127-2
420 28	表採		石製模造品	勾玉形	幅2.6長さ4.4厚さ0.6重さ11.3			ほぼ完形				滑石	127-2
420 29	SJ	329	石製模造品	不明品	長さ[1.1]重さ1.2			破片				滑石	
420 30	SD	795,796	石製模造品	不明品	幅1.5長さ2.0厚さ0.7重さ3.6			2/3				滑石	
420 31	SR	17	石製模造品	不明品	幅3.1長さ4.0厚さ0.7重さ9.9			—				滑石	
420 32	N	34	石製模造品	不明品	幅1.3長さ1.7厚さ0.4重さ1.2			—				滑石	
420 33	K	30	石製品	石帯巡方	幅(2.4)厚さ0.7重さ4.0			破片					
421 34	Q	44	石製品	砥石	幅(6.4)長さ(8.1)厚さ(2.4)			完形					129-1
421 35	Q	45	石製品	砥石	幅(3.1)長さ(10.2)厚さ(2.3)			完形					129-1
421 36	SD	745	石製品	砥石	幅3.6長さ9.3厚さ1.8			完形					129-1
421 37	SJ	343	鉄滓	椀型滓	長径9.9短径8.3厚さ4.4			—					
421 38	O	28	木製品	杭	幅10.0長さ[30.7]厚さ7.2			—					

縄文時代の石器

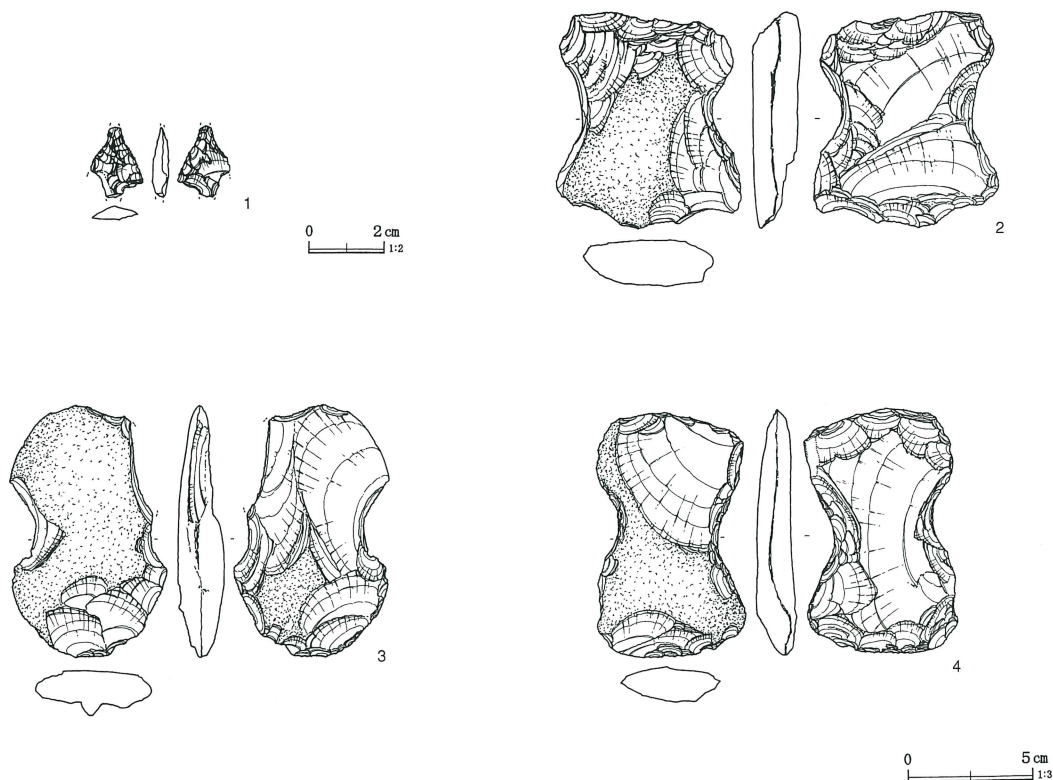
今回の調査区内では、縄文時代の石器が溝跡やグリッドなどから出土した。石器以外の土器などの遺物は出土していない。1は打製石鏃、2～12が打製石斧である。

1は基部が有茎で、大きく突出する。先端や基部などの一部が欠損している。長さ1.4cm、幅1.9cm、厚さが0.5cmである。石質は黒曜石である。

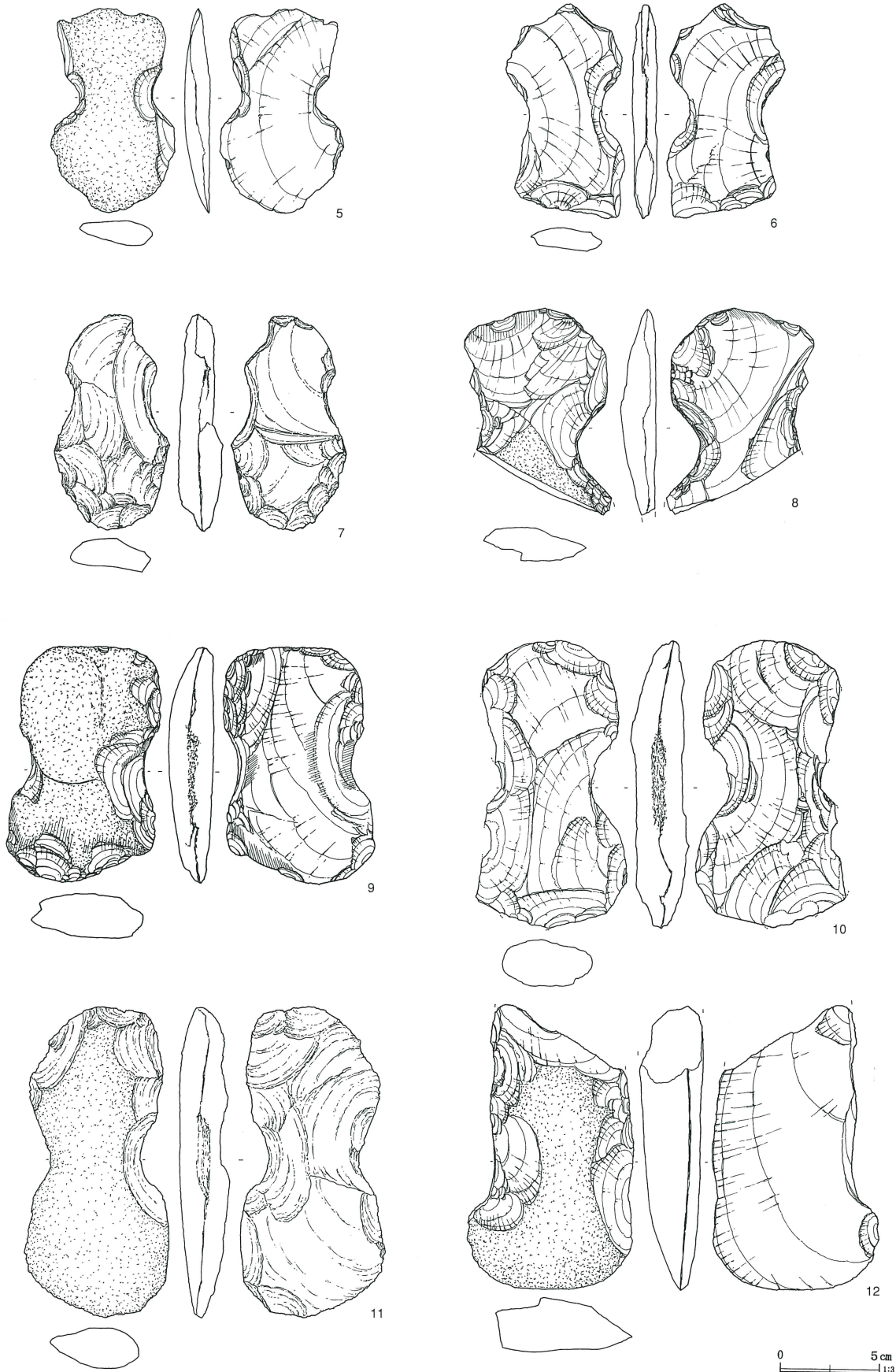
2～11は、両側縁部に抉りが入る分銅形のもので、12は側縁部に抉りが入らず、直線的に刃部へと至る短冊形のものである。2は側縁部に大きな抉りが入り、刃部・基部とも直線的に調整される。長さ8.5cm、幅7.4cm、厚さ1.9cm、石質はホルンフェルスである。

3は、表面に自然面を大きく残す。長さ9.9cm、幅6.0cm、厚さ1.8cm、石質は砂岩である。4は、長さ9.8cm、幅5.8cm、厚さ1.6cm、石質は黒色頁岩である。5は調整が側縁部のみ認められ、刃部や基部が無調整のものである。表面には大きく自然面を残す。長さ

10.2cm、幅6.3cm、厚さ1.3cm、石質はホルンフェルスである。6は刃部が偏刃で、1次剥離面を大きく残す。長さ10.7cm、幅5.9cm、厚さ0.8cm、石質はホルンフェルスである。7は刃部が丸刃で、細かい調整を加える。長さ10.7cm、幅5.7cm、厚さ2.2cm、石質はホルンフェルスである。8は刃部を欠損する。側縁部の抉りが大きく、表面の一部に自然面を残す。長さ10.3cm、幅7.5cm、厚さ1.8cm、石質は黒色頁岩である。9は側縁部の抉りが小さく、表面に自然面を大きく残し、風化が著しい。長さ11.7cm、幅7.4cm、厚さ2.3cm、石質はホルンフェルスである。10は、長さ14.3cm、幅7.6cm、厚さ2.7cm、石質は黒色頁岩である。11は表面に大きく自然面を残し、風化が著しい。長さ15.5cm、幅7.2cm、厚さ2.5cm、石質はホルンフェルスである。12は側縁部の片側が外反するもので、刃部は丸みを帯びる。表面に自然面を残す。長さ14.2cm、幅8.4cm、厚さ3.2cm、石質はホルンフェルスである。



第422図 縄文時代の石器 (1)



第423図 縄文時代の石器 (2)

V まとめ

1. 遺構の変遷

今回の調査では古墳時代前期を遡る遺構は検出されなかった。第2次調査では弥生時代中期後半の方形周溝墓が検出されている。第2～5次の調査区内においては弥生時代の遺構の分布は薄く、集落は遺跡の北西部に展開しているものと思われる。

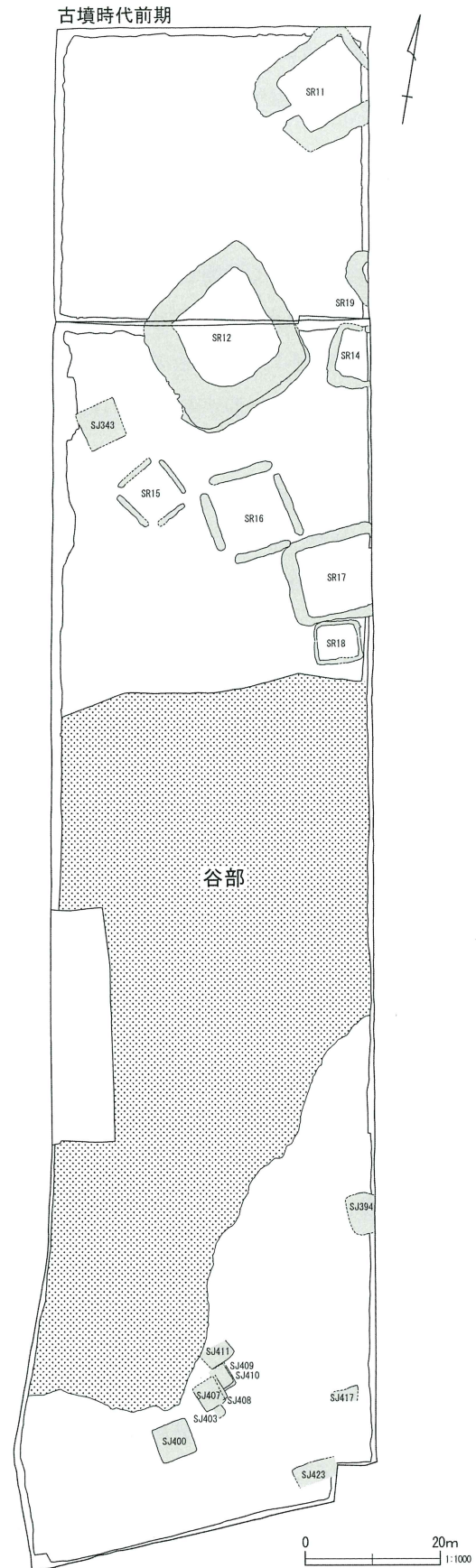
以下、遺構が検出された古墳時代前期以降の各時期における集落像について略述する。第5次調査区中央には谷部が入り込み、地形が南北に大きく分断されていたため、便宜上、調査区北半部を北集落、調査区南半部を南集落と呼ぶことにする。

なお、古墳時代前期以降の土器については、『下田町遺跡Ⅲ』に編年案を提示しているのので、そちらを参照していただきたい。

古墳時代前期

本時期の遺構は、北集落で方形周溝墓8基と住居跡1軒、南集落で住居跡10軒が検出された。

北集落では、調査区西端で炉跡を複数もつ住居跡が検出され、その東には前方後方型を含む方形周溝墓群が展開していた。住居跡は第4次調査で検出された集落の東限で、遺跡の西側に集落が広がっているものと思われる。方形周溝墓は、四隅が切れるもの2基、全周するもの3基、一辺に陸橋部をもつもの1基、前方後方型1基、不明のもの1基とさまざまな形態のものが検出された。四隅が切れるタイプの方が古く、全周するものがそれに続く。第17号方形周溝墓は、近接する第16・18号方形周溝墓と周溝を接していたが、その部分の周溝幅は狭くなっており、先代の墓を意識して築造されたことがわかる。第12号方形周溝墓は、方台部にマウンドを持ち、本遺跡最大規模の周溝墓である。他の周溝墓は、後世の住居跡などに壊され残りが悪いが、本周溝墓は他の遺構との重複がほとんどないことは興味深い点である。また、これだけの規模にも関わらず、他の周溝墓と比べ、出土遺物の量や質がやや貧弱であるこ



第424図 遺構変遷図 (古墳前期)

とも特徴としてあげられる。北集落においては、第343号住居跡の東に住居跡が検出されなかったことから、集落域と墓域が明確に区分されていたことがわかる。

南集落では、谷際に小型の住居跡がまとめて検出された。標高の高い東側は点在する状況であったが、集落の東に大きく展開しているものと思われる。

出土土器は、東海系のS字状口縁台付甕などの非在地の遺物が僅かに認められるが、比企丘陵を中心に分布する吉ヶ谷式土器が多く認められる。

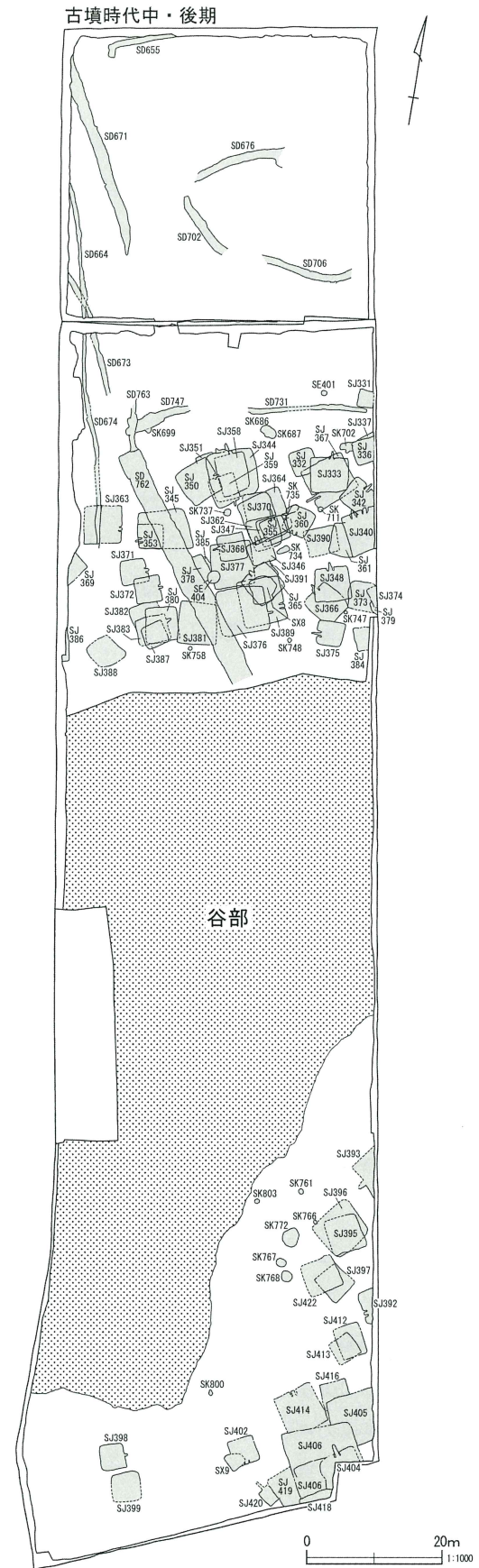
古墳時代中・後期

古墳時代中期の遺構は、北集落で第331号住居跡のみが検出された。5世紀代の遺構は、本遺跡内では密度が希薄となり、前段階との連続性が認められない。洪水等により生活環境に適さない時期があった可能性も考えられる。

遺物では、ほぼ完形の土師器埴・鉢4点が第12号方形周溝墓西溝の中位から出土している。土器は正位に置かれた出土状況で、墓前祭祀を行った可能性も考えられる。

古墳時代後期には、住居跡67軒、大溝、土坑が検出された。本遺跡がピークを迎える時期である。中でも主体となるのは、6世紀第中葉から後半にかけての時期である。

北集落では、谷部に近い標高がやや高い微高地上に住居跡群が形成され、調査区北側の低くなった範囲には溝跡のみが検出された。6世紀前半の遺構としては、第363号住居跡、第674号溝跡が該当する。第363号住居跡は、長胴化していない胴部が張るタイプの甕が多く出土しており、古い様相を示す。溝跡は、南北に走行する幅狭のもので、TK47段階の須恵器高帯が出土している。6世紀中葉では、第364・365・367・376・381・384号住居跡が該当する。住居の規模が大きくなり、カマドは西か東向きのもので多くみられる。遺構数も大幅に増え、生産基盤が最も安定した時期にあったと考えられる。6世紀後半は、模倣坏に代わり、有段口縁坏、身模倣坏が主体



第425図 遺構変遷図（古墳時代中・後期）

少するのは、居住域を低地部から台地部へと移動した可能性が指摘されている。

奈良時代の遺構は、第324・325・326・330・334号住居跡、第395・405号井戸跡、第675・678・683号土坑が該当する。住居跡は、標高の低い調査区北側に集中しており、北側の第3次調査東区でも点在した状況を示す。第675・678・683号土坑は、土師器焼成土坑である可能性が高い。

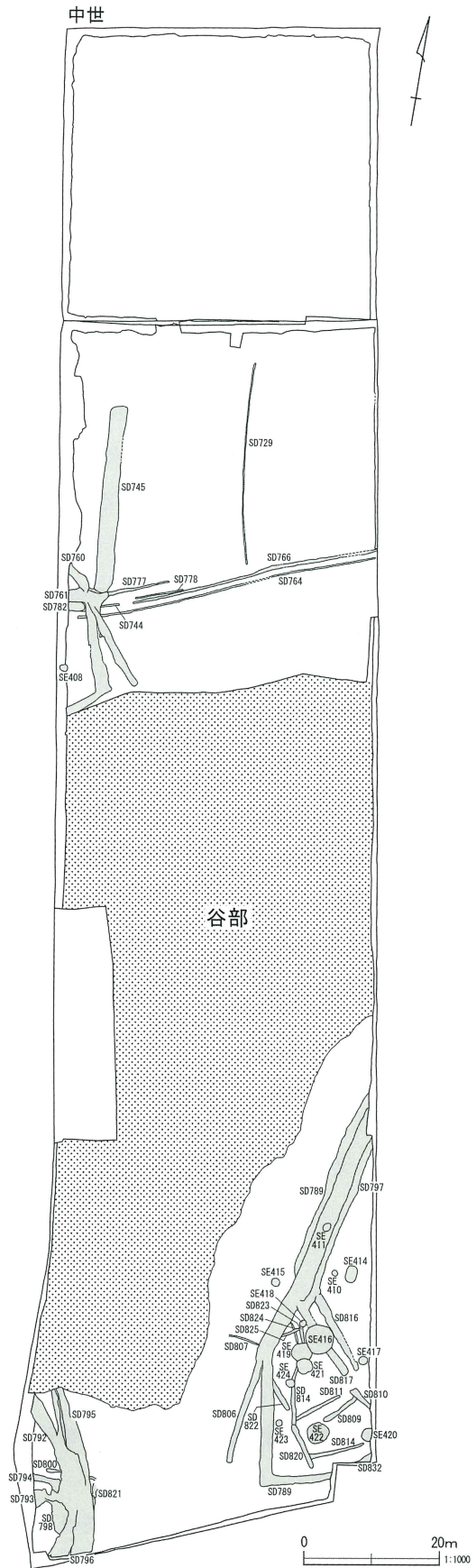
平安時代の遺構は、第357号住居跡、第391・396・397号井戸跡、第666・667・675・680・753号溝跡、第3号道路状遺構などが該当する。第338号住居跡からは鉸具が出土しており、本時期に該当する可能性が高い。第3号道路状遺構は、第2次調査で検出された延長部分が検出された。

中世

前代までは減少化傾向にあった集落は、中世に入り再び活気を取り戻すことになる。北集落では集落の東限に当たるため、遺構の密度は希薄であったが、南集落では井戸跡や溝跡が多数検出されている。

北集落で検出された第745号溝跡は、第4次調査西区で検出された第585・589号溝跡と同一遺構と考えられ、集落を不整形に囲繞する区画溝である。区画内からは大型の井戸跡が多数検出されており、複数の建物跡も存在していた可能性が高い。

南集落でも谷部に沿った標高の高い部分を囲む区画溝である第789・797号溝跡が検出されている。第789・816・817号溝跡は一連のもので、下層から多量の桃の種が出土しており、当時の食生活の一端が伺える。第810号溝跡も同一遺構と考えられ、集落の出入口部の可能性が高い。第789号溝跡は、前述した溝跡を壊しており、集落域を拡張したものと考えられる。西端で検出された第792・795・796号溝跡は、12世紀後半から13世紀後半にかけてのろくろ皿などの遺物が多量に出土している。谷部に連結しており、用排水的な機能を有していたと思われ、溝跡の南西部に当該期の集落が展開しているものと思われる。



第427図 遺構変遷図 (中世)

2. 下田町遺跡の方形周溝墓について

下田町遺跡第2～5次調査で検出された方形周溝墓の総数は19基となった。

平面形態別にみると、四隅が切れるタイプのA1類(註)が8基(第1・5・6・8～10・15・16号周溝墓)、全周するタイプのD1類が2基(第12・18号周溝墓)、一隅が切れるタイプのC1類が2基(第3・4号周溝墓)、周溝の二箇所が切れるタイプのC2類が1基(第2号周溝墓)、一辺の中央が切れるタイプのE1類が2基(第11・14号周溝墓)、全容が不明のもの4基(第7・13・17・19号周溝墓)である。不明のものでも、第7号周溝墓は四隅切れ、第17号周溝墓は全周するタイプと思われる。第13・19号周溝墓は、周溝の一部のみが検出されただけであり、方形周溝墓ではない可能性もある。E1類とした第11号周溝墓は、陸橋部分の周溝幅が広く発達しており、前方後方型を呈するものである。

規模は、10m未満のやや小型のものが6基(第1・4・9・14・15・18号周溝墓)、10～15mの中型のものが8基(第2・3・5・6・8・10・16・17号周溝墓)、15mを超える大型のものが2基(第11・12号周溝墓)で、うち1基が前方後方型周溝墓である。第12号周溝墓は全長22mのマウンドを持つ本遺跡最大の方形周溝墓で、盟主墓であると考えられる。A1類のものは、規模が10m前後と相似形をしていたが、一番南に位置していた第16号周溝墓は13.38mとA1類中では最大規模をしていた。

方台部の形態は、方形あるいは隅丸方形が主となるが、第11・17号周溝墓のように長方形を呈するものが僅かに認められた。第12号周溝墓は、歪んだ不整形をしており、各コーナー部は東西南北を指していた。

方台部上にマウンドが残存していたのは、第12号周溝墓のみであった。第11号周溝墓では方台部に僅かな高まりが確認できたことから、マウンドの名残の可能性も考えられる。他の方形周溝墓については、後世の遺構に壊されていることが多く、マウンドの

有無を確認する手立てはなかった。第12号周溝墓のマウンドは、高さが76cmで、方台部の中央部分にのみ残存していた。周溝の掘削により発生した土量を考えると、あまりにも貧弱なものと言えるだろう。周溝の深さは1m程であることから、全ての廃土が盛られていないことは明白である。視覚的に訴えられる程度の高さがあれば、十分であったのかもしれない。また、本周溝墓だけは、後世の遺構に大きく壊されることなく、残存状態は他の方形周溝墓と比べ良好であった。周溝は、上層から平安時代の土器片が出土していることから、完全に埋没したのが8世紀以降であることがわかっている。古墳時代後期の住居跡も本遺構を避けるように構築されず、狭い範囲の中で繰り返し建てられている。第12号周溝墓が、古墳時代後期の人々にも意識されていたことが窺える。埋葬施設は、マウンドが残存する第12号周溝墓も含め、全く検出することができなかった。ただ、第12号周溝墓マウンド内から刀子片や、第4次調査では腕輪形石製品が出土していることを考えると、存在していた可能性は高い。

溝中土坑と考えられる周溝内に掘り込みをもつ方形周溝墓は、第6・10・11・14・17号周溝墓の5基である。第11・17号周溝墓では、土坑内から胴部に穿孔された壺、割れ口に朱の痕跡がある壺など多量の遺物が出土しており、墓坑あるいは儀礼的行為を行った場所と考えられる。

方形周溝墓同士の重複は、第17号周溝墓と第16・18号周溝墓の切り合いを除いては認められなかった。第11・13号周溝墓、第14・19号周溝墓については、該当部分が調査区外にあるため、詳細が不明である。第13・19号周溝墓は、遺構に共伴する遺物がないため、不明な点が多い。第13号周溝墓が周溝墓であった場合は、第11号周溝墓と周溝を共有することになる。

群構成としては、第2～4号周溝墓、第5・6号周溝墓、第8・9号周溝墓、第11・13号周溝墓、第12・14・19号周溝墓、第15・16号周溝墓、第17・18

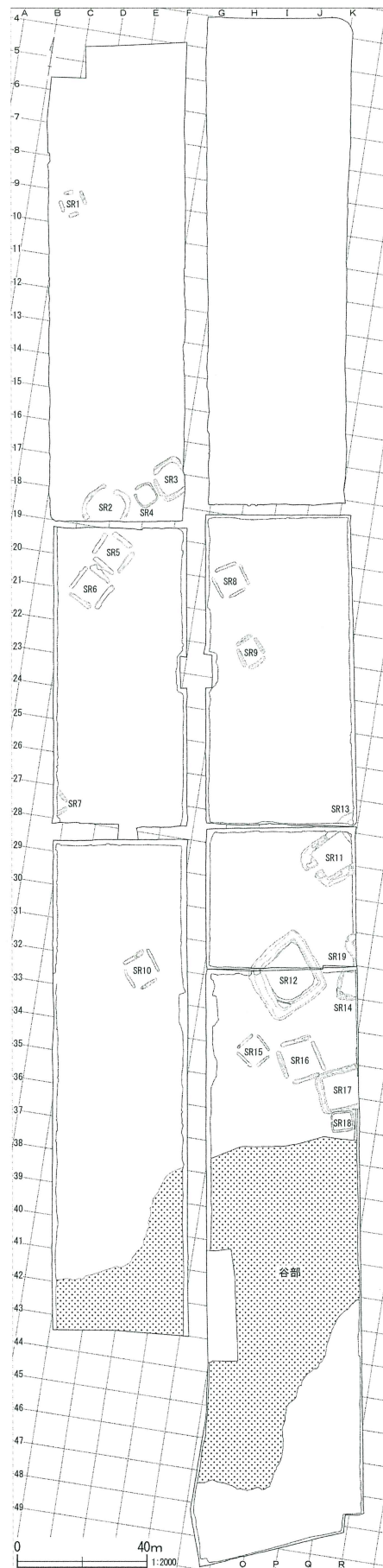
号周溝墓と2～3基からなる7つのグループが形成されていたことがわかる。第1・7・10号周溝墓は1基単独で位置しているが、第1・7号周溝墓については西側に方形周溝墓が近接している可能性がある。単独といえるのは第10号周溝墓で、当該期の集落域と近接しており、異質な感を受ける。

方形周溝墓が築造される墓域と集落域との関係では、同時期の住居跡と方形周溝墓の重複は認められず、明確に区分ができていたことが看取される。方形周溝墓は集落の外縁部分に築造され、住居跡は水利用にも困らない谷部に近い、やや標高が高い地点に形成されていたようである。

時期別でみた場合、調査区北端で検出された、四隅切れの第1号周溝墓が弥生時代中期後半で最古となる。周溝の一边の長さが短く、他の四隅切れの周溝墓と比べ幅広であるのが特徴である。残りの方形周溝墓は、古墳時代前期の範疇に収まるものと思われる。第11・12号周溝墓はやや新しい様相を示し、本遺跡の造墓は大型化に伴って終焉を迎えるようである。

今回の調査区の南西地点で行われた第1次調査では弥生時代の土坑墓が検出されている。詳細が公表されていないため、異なった墓制を持った集団がいたのか、方形周溝墓を採用する以前あるいは並行した墓制であったのかは不明であるが、本遺跡における弥生時代の墓制変遷を考える上で重要な資料となりえる。また、第3次調査東区でも第9号周溝墓と第13号周溝墓のほぼ中間から、弥生時代中期後半の第516号土坑が単独で検出されている。周辺には同時期の遺構がみられないことから、墓である可能性も考えておくべきだろう。

以上、雑駁ではあるが、下田町遺跡で検出された方形周溝墓について検証を行った。今回は時間と紙幅の関係で、出土遺物や周辺遺跡との比較・検討を行うことができなかったため、今後の課題としたい。(註) 方形周溝墓の形態分類は、伊藤敏行が提示した分類に依る。(伊藤1986)



第428図 方形周溝墓分布図

3. 下田町遺跡の木材利用

熊谷市下田町遺跡では、古墳時代後期から中世の木製品532点の報告を行った。古墳時代後期の鋤・馬鍬・竪杵・横槌・田下駄・紡錘車・下駄・槽・曲物・机・柱・井戸杵・杭、奈良・平安時代の田下駄・漆椀・皿・曲物・指物容器・木錘・火鑽板・横櫛・下駄・壺鐙・梯子・柱・井戸杵、中世の槌・糸巻き・漆椀・曲物・柄杓・指物容器・木札・横櫛・楔・柱・井戸杵・杭などである。このうち142点については樹種同定を行っている。

本稿では、この樹種資料を基に下田町遺跡における利用樹種の変遷や器種と樹種の間をみていきたい。そして、下田町遺跡と同じく低地に位置する熊谷市北島遺跡や行田市・熊谷市小敷田遺跡との比較から、木材利用の様相を明らかにしていきたい。

遺跡周辺の植生

埼玉県内の植生については、『北島遺跡 XIII』で弥生時代から奈良・平安時代までの植生と樹種がまとめられている(磯崎・山本2005)。ここでは、新たな分析の資料を加え、下田町遺跡・小敷田遺跡・北島遺跡周辺の植生をまとめる(註1)。

下田町遺跡は和田吉野川左岸の自然堤防上に位置する遺跡である。古墳時代前期には、針葉樹のマキ属・ツガ属・マツ属・コウヤマキ属、広葉樹のハンノキ属・コナラ属・アカガシ属・ニレ属・ケヤキ属・ツタ属が地域周辺、後背の丘陵・山地に生育していた可能性がある。

古代には、コナラ属アカガシ属の照葉樹林、コナラ属コナラ属などの落葉広葉樹、スギ・ヒノキ科などの針葉樹の生育が推定されている。

中世には、マキ属、スギ、コナラ属コナラ属、コナラ属アカガシ属などが生育していた。

小敷田遺跡は、熊谷扇状地の東側氾濫原の自然堤防域に位置する遺跡である。樹種の化石が大変少ないことから、周辺ではあまり森林が発達していなかったと推定される。

弥生時代中期から古墳時代初頭、コナラ属を主

体にし、エノキ属—ムクノキ属を伴う落葉広葉樹林であった。照葉樹林を構成するアカガシ属は連続的に出現するが、落葉広葉樹材の構成要素に卓越する位置を占めるまでには至らない。

古墳時代後期にはコナラ属を主体にする落葉広葉樹林に代わって、スギ属・イチイ科—イヌガヤ科を主体にした針葉樹林が拡大し始める。

奈良・平安時代には、スギ属・イチイ科—イヌガヤ科にコナラ属を伴った針葉樹林が成立する。

北島遺跡は、熊谷扇状地末端と妻沼低地末端が錯綜する地の自然堤防上に位置する遺跡である。

奈良・平安時代には、コナラ属、アカガシ属の木本花粉が多い。また、針葉樹が多く、特にモミ属、ツガ属が低地に比べて高い傾向にある。

中近世には、クリ林やマツの二次林が増加したと考えられる。

これら三遺跡の植生をまとめると、弥生時代中期から古墳時代前期には、コナラ属にエノキ属—ムクノキ属を伴う落葉広葉樹林が存在した。古墳時代後期には、コナラ属主体の落葉広葉樹の存続、スギなどの針葉樹の拡大があった。奈良・平安時代には、コナラ属などの落葉広葉樹林、アカガシ属などの照葉樹林、スギ属・モミ属・ツガ属・マツ属などの針葉樹林が存在していた。中近世には、奈良・平安時代の植生に加えてクリ林やマツの二次林が増加した。

以上主な植生のみだが、遺跡周辺にはこのような植生が木製品生産の背景となっていたのである。

使用樹種の傾向

次に、使用樹種の全体的な傾向について時代を追ってみたい。樹種資料を表1に示す。

(1) 古墳時代後期

下田町遺跡では、51点について樹種は8種である。モミ属、スギ、ヒノキ、アカガシ属でほとんどが占められる。使用樹種が少ないのは、アカガシ属に農具の使用樹種が偏っていることが一因である。

小敷田遺跡では、142点について樹種は27種である。

第50表 使用樹種傾向

時代・遺跡	樹種	針葉樹											広葉樹											合計																	
		マツ科モミ属	マツ科ツガ属	マツ科マツ属アカマツ	スギ科スギ属スギ	ヒノ科ヒノキ属ヒノキ	ヒノ科ヒノキ属サワラ	ヒノ科クロベ属ネズコ	ヒノ科アスナロ属アスナロ	ヒノ科ヒノキ属	ヒノ科	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ	イチイ科カヤ属カヤ	針葉樹	クルミ科クルミ属オニグルミ	ヤナギ科ヤナギ属	カバノキ科ハンノキ属ハンノキ節	カバノキ科カバノキ属	カバノキ科マシデ属イヌシデ節	カバノキ科マシデ属クマシデ節	カバノキ科アサダ属アサダ	ブナ科コナラ亜属クヌギ節	ブナ科コナラ亜属コナラ節		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	ブナ科クリ属クリ	ブナ科スタジイ属	ブナ科ブナ属	ニレ科ムクノキ属ムクノキ	ニレ科エノキ属	ニレ科ニレ属	ニレ科ニレ属アキニレ	クワ科コウゾ属	クワ科クワ属ヤマグワ	モクレン科モクレン属	クスノキ科クスノキ属クスノキ	クスノキ科クロモジ属	カツラ科カツラ属カツラ	ツバキ科ツバキ属ツバキ	ツバキ科サカキ属サカキ	バラ科サクラ属ヤマザクラ
古墳前期	小敷田北島	153	3	1	57	28	19	5	3	30	5	19	26	2	2	1	1	55	20	43	7	2	9	37	5	5	7	110	2	2	1	1	11	3	3	1	2	1			
	下田町北島	11			8	6				1								1	2	20																					
古墳後期	小敷田北島	35			11	11	9	1	1	2	8	1	8		1					9	2	19	1	2	1	2			5												
	下田町北島	2			7	4			2		1	1	1	1						7	4	3	4					1		1								1			
古代	小敷田北島	29	2		34	34	10		4	3	3	1	10					1	16	1	12	6			5		1	1	10							2		4	3		
	下田町	1			2	6			2														5			4				3											
中世	下田町				3	8	2			1	1				1							2						6								2			1		
古墳前期	小敷田北島	9	18	3	6	2	2	19	3	7	13	22	37	14	2	5	1	4	3	2	1	1		1																906	
	下田町北島				1			3		1			1																											30	
古墳後期	小敷田北島									1	2	3	1							1																				51	
	下田町北島				1																																			2	
古代	小敷田北島							1		4		2	1														1		2											42	
	下田町北島							1																																207	
中世	下田町							1																				1												25	
	下田町													2										1																45	

下田町遺跡と同様の樹種傾向がみられ、モミ属・スギ・ヒノキ・アカガシ亜属の使用が多い。

北島遺跡については、木製品および樹種資料がほとんどないが、上記二遺跡に多い樹種はみられない。

(2) 奈良・平安時代

下田町遺跡では42点について樹種は17種である。古墳時代に比べ使用樹種の種類が増え、特定の樹種に極端に偏ることがない。これは農具の出土が減少したことによる。スギ、クヌギ節はそれぞれ5器種7点とやや集中する。また、モミ属・アカガシ亜属は大幅に減少し、クヌギ節の使用が増加している。

小敷田遺跡では、207点について樹種は30種である。利用樹種の傾向は下田町遺跡とやや異なり、スギ・クヌギ節に加えて、モミ属・ヒノキ・アカガシ亜属の使用が多い。モミ属・アカガシ亜属の大幅な減少はみられない。

北島遺跡では、25点について樹種は9種である。他2遺跡と異なり、ヒノキ・クリ・エノキ属の使用がやや多い。またクヌギ節を使用していない。

(3) 中世

下田町遺跡では、45点について樹種は15種で、樹種数は奈良・平安時代とほぼ同じである。なかでも、ヒノキにやや集中し、6器種8点でヒノキが使用される。次いでケヤキ・トネリコ属が多いが、これは漆椀に由来する。また、スギの利用が減少しモミ属・コナラ節・アカガシ亜属の利用がなくなる。

(4) 使用樹種の変遷

ここまでで明らかになったのは各遺跡の使用樹種傾向に違いがみられることである。

古墳時代後期には、下田町遺跡と小敷田遺跡における高使用率の樹種や農具の樹種がほぼ同じだが、北島遺跡では異なる傾向を示す。

奈良・平安時代には、下田町遺跡と小敷田遺跡で高使用率の樹種が一部共通するが、異なる傾向を示し、北島遺跡は全く異なる傾向を示す。下田町遺跡では、遺跡周辺に生育する樹木を主として用いており、山地に生育するヒノキ科の使用は曲物など必要

最小限の利用にとどまっている。この傾向は北島遺跡でも同様である。対して小敷田遺跡では、植生に沿った木材利用に加えてヒノキ・サワラなどヒノキ科の利用が非常に多く、曲物だけでなく多器種の利用にわたることからヒノキへの執着が窺える。

ヒノキの多用・多器種への利用は、小敷田遺跡・下田町遺跡における古墳時代後期にみられる傾向である。小敷田遺跡では奈良・平安時代にも変わりなく引き継いでおり、下田町遺跡の利用傾向が変化したのである。

古墳時代後期には同じ利用傾向をもった下田町遺跡と小敷田遺跡は、奈良・平安時代に差が表れてくる。北島遺跡については、古墳時代前期以降二遺跡とは全く異なる樹種の認識を持ち続けている。

もう一点、スギとヒノキの一定量の継続的利用が明らかになった。いずれも板状加工に向いており各時代を通して多器種にわたり利用されている。

ヒノキ・サワラ・アスナロなどのヒノキ科は、山地に生育したということから、山地からの持込が考えられる。それにもかかわらず、いずれの時代にもヒノキに一定量の利用がみられたのは、ヒノキの有用性からくる需要の高さを示していると考えられる。

木製品と樹種

(1) 農具

農具について各遺跡の使用樹種を表2に示した。

古墳時代前期、小敷田遺跡ではアカガシ亜属とクヌギ節をほぼ同数使用している。北島遺跡ではアカガシ亜属ではなくクヌギ節を用いる。

古墳時代後期になると、下田町遺跡・小敷田遺跡ではアカガシ亜属を主に用いる。北島遺跡では古墳時代前期同様クヌギ節を用いる。

奈良・平安時代になると、下田町遺跡では、鋤をクヌギ節へ変更している。

このように、時代による利用樹種の変化や、遺跡間での利用樹種の差異が窺える。

まず、時代による利用樹種の変化については、周辺の植生変化との関連は考えにくい。小敷田遺跡で

第51表 農具の樹種

			針葉樹						広葉樹																		
			マツ科モミ属	スギ科スギ属スギ	キヒノキ科ヒノキ属ヒノ	ラヒノキ科ヒノキ属サワ	ヒノキ属	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ	ギ節	ブナ科コナラ亜属クヌ	ラ節	ブナ科コナラ亜属コナ	シ亜属	ブナ科コナラ属アカガ	ノキ	ニレ科ムクノキ属ムク	ラ	カツラ科カツラ属カツ	キ	ツバキ科サカキ属サカ	バラ科サクラ属	ガシワ属アカメガシワ	トウダイグサ科アカメ	デルシ科ウルシ属ヌル	ムクロジ科ムクロジ属	モクセイ科トネリコ属	
古墳 前期	小敷田	鋏						1		5																	
		又鋏						2		2																	
		三又鋏						2																			
		横鋏									1																
		鋤						6	1	6														1		1	
		えぶり						1		1																	
		横杵							1																		
		横槌		1					3		2			1					1								
		縦杵							3	2	3	1													3		
		田下駄	1																								
	田下駄横木																							2			
	鋏柄	1						1																			
	北 島	鋏身						2																			
		鋏柄						2																1			
		鋤						2		1																	
縦杵							2		1																		
横槌		1																									
鎌			1																								
古墳 後期	下田町	鋏身								1																	
		鋤								2																	
		馬鋏台木									1																
		馬鋏齒									6																
		横槌			1																						
		縦杵									1							2									
		田下駄	1		1																						
	小敷田	又鋏									1																
		横槌									3																
		縦杵							1		2																
		田下駄		1	1																						
		田下駄外枠		5		1						2	1														
		大足		1																							
		鋏柄					1					1															
	北 島	諸手鋏							1																		
諸手鋏柄																						1					
奈良・ 平安	下田町	鋏						1																			
	小敷田	杵			1																						
		田下駄	1	1		2																					
		俵叩き			1																						

の花粉分析の結果からは、古墳時代前期から後期にかけてアカガシ亜属・クヌギ節の出現率に大きな変化はみられないのである。

他県の鋏・鋤の例を見てみると、群馬県高崎市新保遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭にクヌギ類とカシ類が約2：3で使用される。神奈川県逗子市池子遺跡では、古墳時代前期にカシ類がほとんどを占める。

古墳時代前期、小敷田遺跡でアカガシ亜属とクヌギ節を併用するのは新保遺跡と同様である。北島遺跡でのクヌギ節への偏りは特異な状況である。

古墳時代後期、下田町遺跡や小敷田遺跡のアカガシ亜属への偏りは南関東以西との関係が考えられる。

下田町遺跡・小敷田遺跡でアカガシ亜属が一定量出土するのは、アカガシ亜属の入手経路を確保できていたことの表れである。

(2) 横櫛

下田町遺跡では平安時代・中世の製品にイスノキが使用されている。イスノキを使用する例は多く、関東での出土例もある。イスノキは温暖帯常緑照葉樹林に生育することから、西日本からの搬入が考えられている。

小敷田遺跡では奈良・平安時代の製品がイヌガヤ・カナメモチであった。イヌガヤは遺跡周辺からの採集と考えられる。横櫛にイヌガヤを使う例は全く異質である。カナメモチは、現在、暖帯の東海道以西に生育することから搬入の可能性はある。イスノキ同様、原材料または製品を遠方から得ていたと考えられる。静岡県伊場遺跡などの出土例がある。

(3) 曲物

曲物については、下田町遺跡では古墳時代後期・平安時代・中世の製品で、側板にスギ・ヒノキ・アスナロ、底板にモミ属・スギ・ヒノキ・サワラが使われている。小敷田遺跡では、奈良・平安時代の製品で、側板にヒノキ、底板にスギ・ヒノキが使われている。北島遺跡では、奈良・平安時代の製品で、側板にスギ・ヒノキ・ヒノキ属が使われている。

ヒノキが20点中9点で、45%とその割合はやや少なく、ヒノキ入手の難易度が表れている。

(4) 井戸枠

井戸枠については、下田町遺跡と北島遺跡で木組の構造の分かる井戸跡が検出されている。

下田町遺跡では、古墳時代後期の縦板組横棧留の井戸枠にモミ属とヒノキを使っている。奈良・平安時代の横板井籠組にはクリ、クリとヒノキを使っている。縦板組横棧留の井戸枠にはヒノキを使っている。円形縦板組（註2）の井戸枠にはクヌギ節を使用している。中世の横板井籠組にはスギとアスナロを使った井戸跡、ヒノキを使った井戸跡がある。円形縦板組ではクヌギ節を使っている。

北島遺跡では、奈良・平安時代の井戸跡で横板組井籠組の井戸枠にエノキ属を使った井戸跡、スギ・ヤマグワ・キハダを使った井戸跡がある。

下田町遺跡と北島遺跡で井戸枠の使用樹種がほとんど重ならないのは特徴的である。これは、前述の通り使用樹種傾向が二つの遺跡間で異なっていることとも関係があると考えられる。

また、下田町遺跡の井戸枠の半数はヒノキ科で、周囲に生育する樹木と山地から持ち込んだ木を合わせて使っていたことが窺える。

まとめ

下田町遺跡では、古墳時代後期、近隣の遺跡同様に遺跡周辺の樹木を用いていた。農具についてはアカガシ亜属にこだわるという古墳時代前期の南関東的な利用傾向が見られ、南関東との関係が窺われる。また、小敷田遺跡と似た樹種利用傾向であることから遺跡間で共通の認識を持っていたと考えられる。

奈良・平安時代には、周辺の樹木を主として用い、補助的に山地の樹木を用いていた。それは、木製品全体の使用樹種傾向や、井戸枠・曲物の樹種から判断できる。また、横櫛・壺箆のような、西日本から材料・製品を入手する経路も確保していた。小敷田遺跡との利用樹種に関する共通性はやや薄れてくる。

中世にも横櫛など製品入手の経路を確保していた。

また、樹種の使用傾向には時期・遺跡による差があることが明らかになった。それは、木製品全体の使用樹種傾向でも、各器種における樹種でもいえることである。特に農具については、特徴的な傾向が見られることから、他県の資料との比較・検討が必要である。

註1 下田町遺跡周辺の植生については、古環境研究所（2006）パリノ・サーヴェイ株式会社（2006）、小敷田遺跡周辺の植生については、橋谷（1991）、鈴木（1991）、北島遺跡周辺の植生については、パリノ・サーヴェイ株式会社（1998）・古環境研究所（2004）の分析報告に基づいてまとめたものである。

註2 円形縦板組は割材を縦に差込んで井戸側とする構造で、分類にあてはまらないことから付した名称である。

4. 第2～5次調査のまとめ

下田町遺跡の発掘調査は、平成13～16年度の4次にわたって実施した。総面積は40,300㎡である。

下田町遺跡で検出された遺構の総数は、以下のとおりである。

方形周溝墓	19基
竪穴住居跡	403軒
掘立柱建物跡	49棟
井戸跡	423基
土坑	748基
土壙墓	1基
火葬土坑	35基
ピット	7,172基
溝跡	778条
柱穴列	9条
道路状遺構	3条
竪穴状不明遺構	4基
円形周溝状遺構	3基
焼土跡	1基

今回の調査では、考古学的にも、また地域史を語るうえでも、欠くことのできない多くの成果を上げることができた。

以下、時代ごとにその概要を紹介し、本事業のまとめとしたい。なお、紹介した遺構の報告書掲載ページは、巻末の検出遺構全索引を参照されたい。

弥生時代中期後半

下田町遺跡で最初に人々の痕跡がみられる時期である。第2次調査西区の北西に四隅が切れる形態の方形周溝墓（SR1）が1基、第3次調査東区で土坑（SK516）が1基、それぞれ単独で検出されている。

方形周溝墓は、この時期には群を形成するのが一般的であり、調査区の西側に分布が広がっている可能性がある。遺構数はきわめて少ないが、グリッド出土の遺物に、該期の土器が少量ではあるが含まれており、近辺の集落の存在を示唆している。

古墳時代前期

この時期には、方形周溝墓群とともに集落が形成

される。検出された方形周溝墓は17基で、第2次調査西区の南西から、第5次調査区北の谷部際まで分布する。数基もしくは単独で点在するのが特徴である。形態は、四隅が切れるタイプ（第5～8、10・15・16号）と、全周もしくは一部が途切れるタイプ（第2～4、11・12・14・17・18号）とが存在する。後者のほうが相対的に新しいと考えられる。第12号方形周溝墓は、一辺約20mと、周溝墓群の中で最大規模であり、盛土が一部残存していた。築造時期は4世紀中葉と推定され、もっとも新しく位置づけられる。

当期に属する竪穴住居跡は46軒で、第4次調査区の中央部を中心とする範囲と、第5次調査区の南端、谷を挟んだ対岸に検出された。前者の集落は、方形周溝墓群の南西側から谷部までの範囲に形成されており、墓域と集落域は明確に区別されている。方形周溝墓群を築造した集団の成員が居住していた集落と考えられる。

出土遺物で注目されるのは、第157号住居跡から出土した骨角器や、集落から発見された腕輪形石製品であろう。腕輪形石製品は石釧と彫刻文のある腕輪形石製品の2種類があり、前者は完形品、後者は破片である。ともに方形周溝墓群との関連が指摘される。

古墳時代中期

当期に属する竪穴住居跡は19軒で、第3次調査西区の南際から第4・5次調査区谷部北側にかけて検出された。遺構の密度は、この前後の時期と比較して希薄である。

興味深いのは、第12号方形周溝墓の周溝埋土中層から、当期に属する土器が完形で出土したことである。その出土状況から、第12号方形周溝墓が築造された後、周溝が半分ほど埋没した時点で、溝内に供献されたものと考えられる。この仮定が正しければ、当期の集落を形成した集団は、少なくとも第12号方形周溝墓を祖先にかかわる墳墓として認識しており、

墓前祭祀をおこなっていたものと推定される。

古墳時代後期

当期になると、住居跡の軒数は302軒と爆発的に増加し、その分布は、第2次調査区北部から第5次調査区南端まで広域にわたっている。大きく分けて第2次調査区中央～第3次調査西区中央（1群）、第3次調査区南端～第4次調査西区・第5次調査区谷部北岸（2群）、第5次調査区谷部南（3群）という3つのまとまりが認められる。

1群では、カマドをもたない住居跡が多く検出され、居住以外の用途が想定されている。また、周溝を巡らせた住居跡や、それと近接して倉庫と推定される建物跡が存在する。

集落の北端を東西に横切る大規模な第80号溝跡からは、大量の土器や木製品とともに、動物や魚介類の骨、貝殻などが出土した。この溝跡は自然流路を生活水路として利用したものと考えられ、カキなどの海棲貝類やイルカの骨などは、東京湾周辺に居住する集団との、直接的な交易を裏付けるものとして重要である。

2群は、もっとも軒数の多い集団で、激しい重複を形成しながら、谷に沿って密になる傾向にある。前期において墓域とされた地域へも、住居跡が分布するようになるが、第11・12号方形周溝墓が立地する第4次調査東区には住居跡はみられない。少なくともこの2基の方形周溝墓は、当期においても墳墓として認識されていた可能性がある。

出土遺物で特徴的なのは石製模造品や紡錘車、白玉など、石製品の量の多さである。異なる時期の子持勾玉も2点出土しており、その質も高い。第200号住居跡からは、滑石類の原石が出土している。薄片の量も少なく、未製品が見当たらないことから、工房とする積極的な理由はないが、ある程度の加工を行っていたと判断される。第201・294号住居跡などからは、紡錘車の未製品が出土しており、当期の集落もしくは周辺で、石製品の製作が行われていた可能性は強いと考えられる。

奈良時代

当期になると、集落の規模は急激に縮小し、第3次調査区から第5次調査区谷北側にかけて散漫に分布する。軒数は16軒で、7世期末葉から8世紀初頭のもものが中心となる。第319号井戸跡から出土した黒漆塗壺鐙は、材質こそ異なるものの、正倉院や法隆寺に献納された壺鐙と同型式の優品であり、当期、下田町遺跡の周辺に、馬に騎乗できる身分の人物が居住、もしくは滞在していた可能性は高い。

平安時代

当期でもっとも繁栄していたのは、9世紀末から10世紀にかけてであり、第2次調査区において大規模な建物跡群が検出された。灰釉陶器や緑釉陶器などの供給量も多く、周辺から黒漆塗鞍や黒作大刀柄頭などの遺物も出土しており、在地領主層の館跡である可能性がある。また、ロクロ整形で酸化焰焼成された土器や漆の付着塊、椀形鍛冶滓、羽口などの出土から、手工業生産に携わる工人の存在もうかがわれる。

中世

当期になると、本遺跡では第2次調査区から第5次調査区にいたる広範囲で、おおむね方形に区画する大規模な区画溝が形成され、区画内には多数のピットや井戸跡、火葬土坑などが検出された。区画の広さに規則性はないが、おそらくは居住域を区画したものと考えられ、ピット群はそこに建物跡が存在していたことを表すものと推定される。こうした区画溝を有する遺跡の様相は、街道沿いに形成された集落の調査例に類似しており（大澤伸啓氏のご教示による）、当期、この地は街道沿いの交通の要衝として繁栄していたと考えられる。

第5次調査区谷部南西端には、区画溝とは異なる切り合う3条の溝跡が検出された。そのうち、第795号溝跡では、かわらけや陶磁器、木製品などが杭で囲われた内側に廃棄されていた。また、この溝跡から出土したかわらけには、12世紀後半に遡るものが含まれており、県内でも古い事例として注目される。

引用・参考文献

- 赤熊浩一・岡本健一 2004 『下田町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集
- 赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子 2005 『下田町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集
- 赤熊浩一・瀧瀬芳之ほか 2006 『下田町遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第319集
- 浅野晴樹 1989 『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集
- 磯崎一・山本靖 2005 『北島遺跡Ⅻ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第305集
- 伊藤敏行 1986 「東京湾西岸流域における方形周溝墓の研究Ⅰ」『研究論集』Ⅳ (財)東京都埋蔵文化財センター
- 伊藤敏行 1988 「東京湾西岸流域における方形周溝墓の研究Ⅱ」『研究論集』Ⅵ (財)東京都埋蔵文化財センター
- 大谷 徹 1991 『北島遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集
- 株式会社古環境研究所 2004 「17地点の自然化学分析」『北島遺跡Ⅶ』
- 北村四郎・村田源 1971 『原色日本植物図鑑・木本編Ⅰ』保育社
- 北村四郎・村田源 1979 『原色日本植物図鑑・木本編Ⅱ』保育社
- 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
- 相山林継・山岸良二編 2005 『方形周溝墓研究の今』雄山閣
- 鈴木孝之 1998 『北島遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集
- 鈴木正貴・堀木真美子 2003 「豊田市郷上遺跡出土井戸材の樹種について」『研究紀要』第4号 (財)愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
- 鈴木三男 1991 「小敷田遺跡の植物的自然」『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 鈴木三男 2002 『日本人と木の文化』八坂書房
- 高橋重男 1998 「埼玉の裸子植物」『埼玉県植物誌』埼玉県教育委員会
- 高橋重男 1998 「埼玉の被子植物」『埼玉県植物誌』埼玉県教育委員会
- 宅間清公 2005 『北島遺跡Ⅺ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第303集
- 楯真美子・中垣内薫・服部俊之 1993 「自然科学分析データの活用 その1—花粉分析と樹種同定—」『年報 平成4年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 田中広明 2004 『北島遺跡Ⅸ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第293集
- 永野 巖 1973 「埼玉の植生」『埼玉の文化財』第13号 埼玉県文化財保護協会
- 中村倉司 1989 『北島遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1998 「北島遺跡の古環境変遷」『北島遺跡Ⅳ』
- 樋上 昇 2002 「樹種からみた尾張地域の木製品」『考古学フォーラム』15
- 福田 聖 2000 『方形周溝墓の再発見』ものが語る歴史3 同成社
- 松下まり子 2004 『花粉分析と考古学』同成社
- 山岸良二編 1996 『関東地方の方形周溝墓』同成社
- 山田昌久 1986 「くわとすきの来た道」『新保遺跡Ⅰ』群馬県教育委員会
- 山田昌久・鈴木三男・能城修一 1990 「考古学における木製遺物の樹種選択研究の現状」『木と民具』雄山閣出版
- 山田昌久 2003 「関東・東北地方の木・繊維製品 製品移送と材移送—縄文技術の残存」『考古資料大観』第8巻 小学館
- 山本 靖 2005 『北島遺跡Ⅹ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第302集
- 吉田 稔 1991 『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 吉田 稔 2003 『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集
- 吉田稔・富田和夫・久保田睦子 2004 『北島遺跡Ⅶ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第291集

VI 下田町遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

目 次

1. 下田町遺跡の自然科学分析（遺構編）

はじめに

(1) 周溝内土壌の微化石分析

(2) 炭化材の樹種

(3) 赤色顔料のX線回折分析

2. 下田町遺跡の自然科学分析（遺物編）

はじめに

(1) 樹種同定

(2) 種実同定

(3) 骨同定

1. 下田町遺跡の自然科学分析（遺構編）

はじめに

下田町遺跡では、古墳時代～中世の遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器等のほか、木製品、種実遺体、人骨や獣骨等の動物遺体も多数出土している。

本報告では、古墳時代前期の周溝内の埋積土を対象として、古環境の検討を目的として珪藻分析と花粉分析を実施する。また、周溝底部から出土した赤色顔料の材質を明らかにするためにX線回折分析を実施する。さらに、古墳時代後期の竪穴住居跡から出土した炭化材を対象として、木材利用に関する資料を得るための樹種同定を実施する。

(1) 周溝内土壌の微化石分析

1. 試料

珪藻分析および花粉分析を実施する試料は、古墳時代前期の周溝SR12のB-B'断面より採取された土壌試料6点（試料番号4, 10, 13, 18, 21, 23）である。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991a, 1991b）などを参照する。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示

す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能を示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性か判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性についてはAsai & Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

3. 結果

(1) 珪藻分析

結果を表1、図1に示す。試料番号10を除き珪藻化石が豊富に産出する。完形殻の出現率は50%以下と化石の保存状態が悪い。産出分類群数は、17属56分類群である。以下に珪藻化石群集の特徴を述べる。

6試料（試料番号4, 10, 13, 18, 21, 23）は、珪藻化石群集が近似しており、陸上のコケ等に生育可能な陸生珪藻が全体の約70%前後産出することが特徴である。主要種は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*と*Navicula mutica*で、いずれの試料でも2種合わせると約50-80%を占めている。また、試料番号4を除く4点では、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の*Eunotia praerup-*

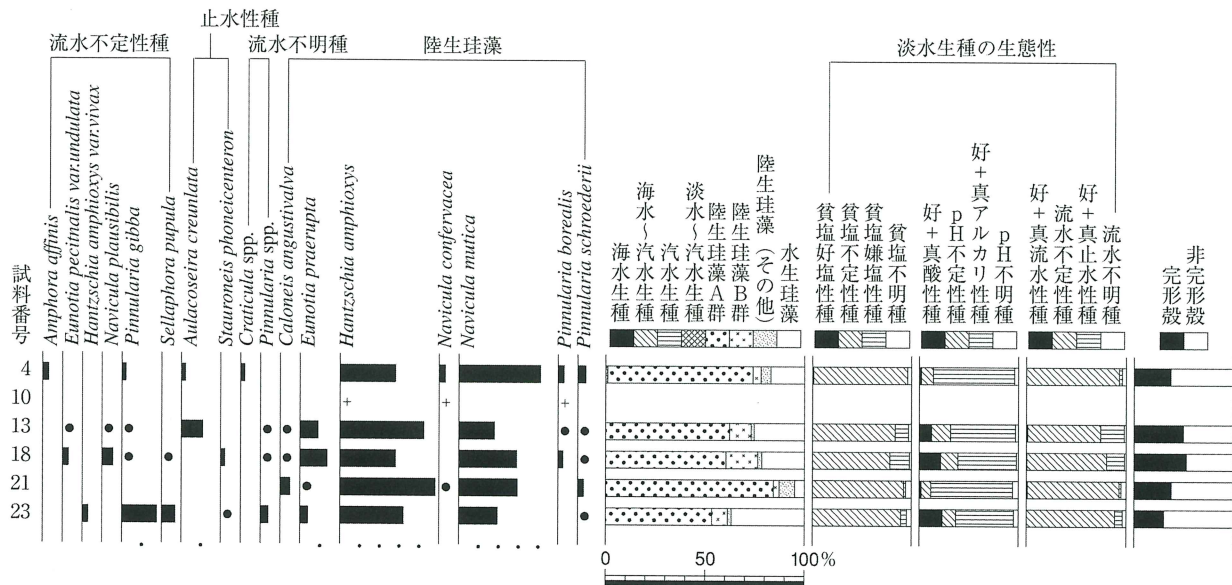
表1 珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	SR12					
	塩分	pH	流水		4	10	13	18	21	23
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	-	-	-	-	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA, U	-	-	-	-	2	-
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	2	2	-	2
Aulacoseira crenulata (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		2	-	22	-	-	-
Caloneis angustivalva Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	-	-	1	1	5	-
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	1	-
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-
Craticula halophila (Gran. ex V.Heurck) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Craticula spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	-	-	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	1	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	3	1	-	-
Eunotia gracialis Meister	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	1	-	-	-
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	2	6	-	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O, T	-	-	18	27	1	4
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O	-	-	-	-	1	1
Eunotia praerupta var. inflata Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RI	-	-	-	1	-	-
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	1	-	4	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	3	1	-	-
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	-	-	1	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	28	5	85	56	49	33
Hantzschia amphioxys var. vivax (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	3
Navicula arietensis Okuno	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-	-
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	3	1	-	-	1	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	1	-	-	-	1	1
Navicula contenta fo. biceps (Arnott) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	-	-	1	-	-	-
Navicula elginensis (Ehr.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	1	1	2	3	2	2
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	3	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	41	-	36	58	30	20
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	-	-	1
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	2	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		-	-	4	11	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	2	1	1	1
Orthoseira roeseana (Rabh.) O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	2	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	1	1	5	-	-
Pinnularia borealis var. brevicostata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	1	1	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O, U	2	-	1	3	-	18
Pinnularia hemiptera (Kuetz.) Cleve	Ogh-hob	ind	l-ph		-	-	2	-	-	1
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	1	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	1	-	-
Pinnularia ornata H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-	-	-
Pinnularia schroederii (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	4	-	1	2	3	1
Pinnularia streptorraphe Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	-	-	-	1	-	1
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	1	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1	-	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	1	-	4
Sellaphora bacillum (Ehr.) Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	2	-	7
Sellaphora rectangularis (Greg.) Lange-B. & Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	1	1	1
Stauroneis borrichii (Pet.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	2	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	4	-	2
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	1	-	-	-
Synedra ulna (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
海水生種					0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					1	0	0	0	0	0
淡水生種					99	9	201	200	102	103
珪藻化石総数					100	9	201	200	102	103

凡例 H.R.:塩分濃度に対する適応性 pH:水素イオン濃度に対する適応性 C.R.:水流に対する適応性
 Ogh-Meh:淡水～汽水生種 al-bi:真アルカリ性種 l-bi:真止水性種
 Ogh-hil:貧塩好塩性種 al-il:好アルカリ性種 l-ph:好止水性種
 Ogh-ind:貧塩不定性種 ind:pH不定性種 ind:流水不定性種
 Ogh-hob:貧塩嫌塩性種 ac-il:好酸性種 r-ph:好流水性種
 Ogh-unk:貧塩不明種 ac-bi:真酸性種 r-bi:真流水性種
 unk:pH不明種 unk:流水不明種

環境指標種群

J:上流性河川指標種, G:中～下流性河川指標種, O:沼沢湿地付着生種 (以上は安藤, 1990)
 S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)
 R:陸生珪藻 (RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内, 1991)



海水-汽水-淡水水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水水生種の生態性の比率は淡水水生種の合計を基数として百分率で算出した。なお、●は2%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

図1 主要珪藻化石群集の層位分布

ta等を伴う。*Eunotia praerupta*は、沼よりも浅く水深が1 m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地の環境指標種（沼沢湿地付着生種群）である（安藤，1990）。淡水域に生育する珪藻は、多い試料でも全体の20-30%前後と多くはないが、流水不定性種（流水にも止水にも生育する種）で沼沢湿地付着生種群の*Pinnularia gibba*、*Eunotia pectinalis* var. *undulata*、流水不定性の*Sellaphora pupula*、*Navicula plausibilis*、止水性の*Aulacoseira crenulata*等が産出する。

なお、珪藻化石の少なかった試料番号10は、前述したような陸生珪藻が多く産出する傾向がある。

(2) 花粉分析

結果を表2に示す。表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

いずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られない。検出される種類は、木本花粉がマキ属、ツガ属、マツ属、コウヤマキ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属、ツタ属、草本花粉のイネ科、サナエタデ節-ウナギ

ツカミ節、マメ科、ヨモギ属である。これら僅かに検出される花粉化石の保存状態は悪く、花粉外膜が

表2 花粉分析結果

種類	試料番号	SR12					
		4	10	13	18	21	23
木本花粉							
マキ属		-	-	-	1	-	-
ツガ属		-	-	-	-	1	-
マツ属		-	1	-	-	-	-
コウヤマキ属		1	-	-	-	1	-
ハンノキ属		-	-	-	-	2	-
コナラ属コナラ亜属		-	-	1	-	-	1
コナラ属アカガシ亜属		-	-	-	-	1	-
ニレ属-ケヤキ属		-	1	-	1	-	-
ツタ属		-	-	-	1	-	-
草本花粉							
イネ科		1	1	-	-	1	2
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	1	-	-	-	-
マメ科		-	-	-	-	1	-
ヨモギ属		-	3	-	-	3	2
不明花粉		-	-	-	2	-	-
シダ類胞子							
イノモトソウ属		-	-	-	-	1	-
他のシダ類胞子		20	20	17	19	33	19
合計							
木本花粉		1	2	1	3	5	1
草本花粉		1	5	0	0	5	4
不明花粉		0	0	0	2	0	0
シダ類胞子		20	20	17	19	34	19
総計(不明を除く)		22	27	18	22	44	24

壊れている状態で産出する。プレパラート内の状況写真を図版に示す。

4. 考察

(1) 珪藻化石群集からみた堆積環境

SR12覆土では、全般に亘って耐乾性の高い陸生珪藻A群が優占する。また、産出の割合や産出種は異なるが、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定性種や止水性種が付随して産出した。陸生珪藻以外の種類は、試料により種類構成が多少異なるが、多い種類でも20%前後の産出率となり、流水不定性種、止水性種、流水不明種等が混在する。このような珪藻化石群集は、沖積段丘堆積物等の氾濫堆積物等によくみられる(堀内ほか, 1996)。遺跡の立地を考慮すれば、これらの周溝が掘りこまれた地山の堆積物中にも由来する可能性がある。したがって、周溝内は基本的には好気的な環境で、常に滞水している状態ではなく、周囲から土壌が流れ込んで埋積が進んだと推定される。

(2) 花粉分析からみた古植生

溝状遺構であるSR12の覆土からは、木本類ではマキ属、ツガ属、マツ属、コウヤマキ属などの針葉樹、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ケヤキ属、ツタ属などの広葉樹に由来する花粉が検出される。これらは、本地域周辺および後背の丘陵・山地に生育する種に由来する可能性がある。

ただし、花粉化石の検出個数が少なく、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは取り込まれた花粉が消失したなどのことが考えられる。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている(中村, 1967; 徳永・山内, 1971)。検出された花粉化石は保存状態が悪く、外膜が破損・溶解しているものが多い。上記

したように、周溝SR12内に常に滞水する状態でなかったことから、今回花粉が検出されないのは、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子が、その後の経年変化により分解・消失したためと考えられる。

(2) 炭化材の樹種

1. 試料

試料は、竪穴住居跡(SJ376)から出土した炭化材で、合計8点(炭No.1-5, 9, 11, 12)ある。この中から、比較的状态の良い4点(炭No.1, 5, 9, 12)を選択した。いずれも住居構築材の一部と考えられている。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柃目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表3に示す。炭化材は、広葉樹2種類(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同列放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと同列放射組織とがある。

表3 樹種同定結果

遺構	試料名	樹種
SJ376	炭No.1	コナラ属アカガシ亜属
	炭No.5	コナラ属アカガシ亜属
	炭No.9	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	炭No.12	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

4. 考察

炭化材は、いずれも住居跡から出土しており、住居構築材の一部が炭化・残存したものと考えられている。樹種同定の結果、炭化材にはクヌギ節とアカガシ亜属の2種類が認められた。いずれも重硬で強度が高い材質を有する。この結果から、住居構築材には強度の高い種類が少なくとも2種類利用されていたと推定される。

本遺跡では、これまでも古墳時代後期、奈良時代、平安時代の木製品等について樹種同定を実施しているが、アカガシ亜属は農具などを中心に最も多く出土した種類である（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004）。また、クヌギ節も出土数は少ないが、古墳時代後期と平安時代の木製品に使用が認められる。現在の本地域では、クヌギ節はクヌギ、アカガシ亜属はシラカシ、アラカシが生育している（高橋, 1998）。花粉分析で古植生を十分に推定することができなかったが、現在の本地域の植生（宮脇編著, 1986）などを考慮すれば、いずれも遺跡周辺に生育しており、木材の入手は比較的容易であったと考えられる。ま

た、住居構築材は、遺跡周辺に生育していた中から強度の高い種類を選択・利用したことが推定される。

本地域では、古墳時代後期の住居構築材について樹種同定を行った例がほとんどないため、当該期の住居構築材の木材利用については詳細不明である。一方、東松山市籠田遺跡の奈良・平安時代とされる住居構築材の樹種同定結果（高橋, 1982）では、アカガシ亜属を中心にクヌギ、スギ、ヒノキ属が認められている。この結果は、今回の結果と類似しており、興味深い。住居構築材の木材利用については、今後さらに周辺での類例を蓄積する必要がある。

(3) 赤色顔料のX線回折分析

1. 試料

周溝SR17底部付近から出土した赤色顔料1点(No.3)である。

2. 分析方法

粘土塊から分離した赤色顔料を105℃で乾燥し、メノウ乳鉢で微粉碎した後、アセトンを用いて無反射試料板に塗布し、測定試料とする。作成したX線回折測定試料について以下の条件で測定を実施する。

検出された物質の同定解析は、Materials Data, Inc.のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

装置：理学電気製 MultiFlex

Target：Cu (K α)

Monochrometer：Graphite湾曲

Voltage：40KV

Current：40Ma

Detector：SC

Calculation Mode：cps

Divergency Slit：1°

Scattering Slit：1°

Receiving Slit：0.3mm

Scanning Speed：2°/min

Scanning Mode：連続法

Sampling Range：0.02°

Scanning Range：5～45°

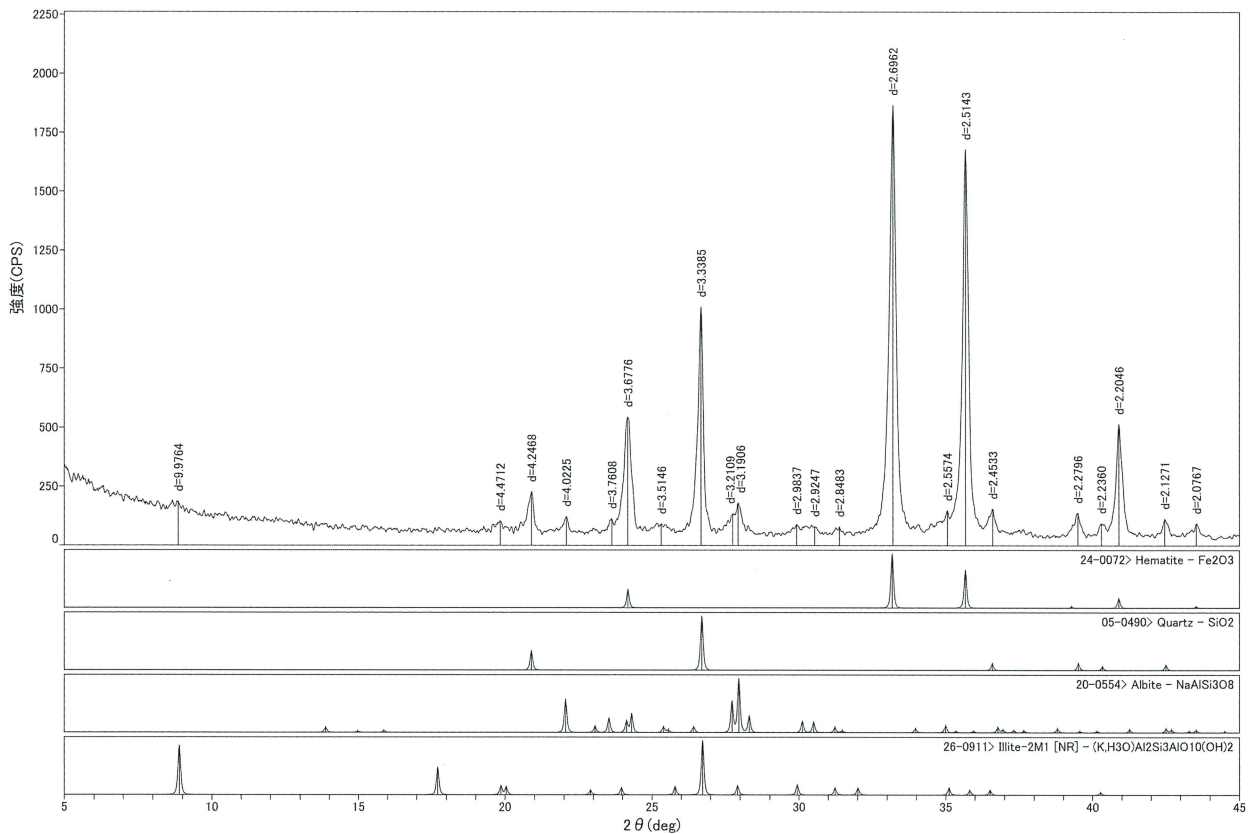


図2 赤色顔料のX線回折図

3. 結果

X線回折図を図2に示す。SR17から出土した赤色顔料から検出された鉱物は、赤鉄鉱 (hematite)、石英 (quartz)、曹長石 (albite)、雲母鉱物 (illite) の4鉱物である。

4. 考察

遺跡で検出される代表的な赤色顔料にはベンガラ (赤鉄鉱; hematite [$\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$]) のほか、水銀朱 (辰砂; cinnabar [HgS])、鉛丹 (鉛丹; minium [Pb_3O_4]) などがある。本試料では赤鉄鉱が検出されているが、辰砂および鉛丹は検出されなかった。この結果から、赤色顔料はベンガラに同定される。同時に検出された他の鉱物は、土壌や岩石中に見られる一般的な造岩鉱物であることから、顔料採取時に混入した土壌

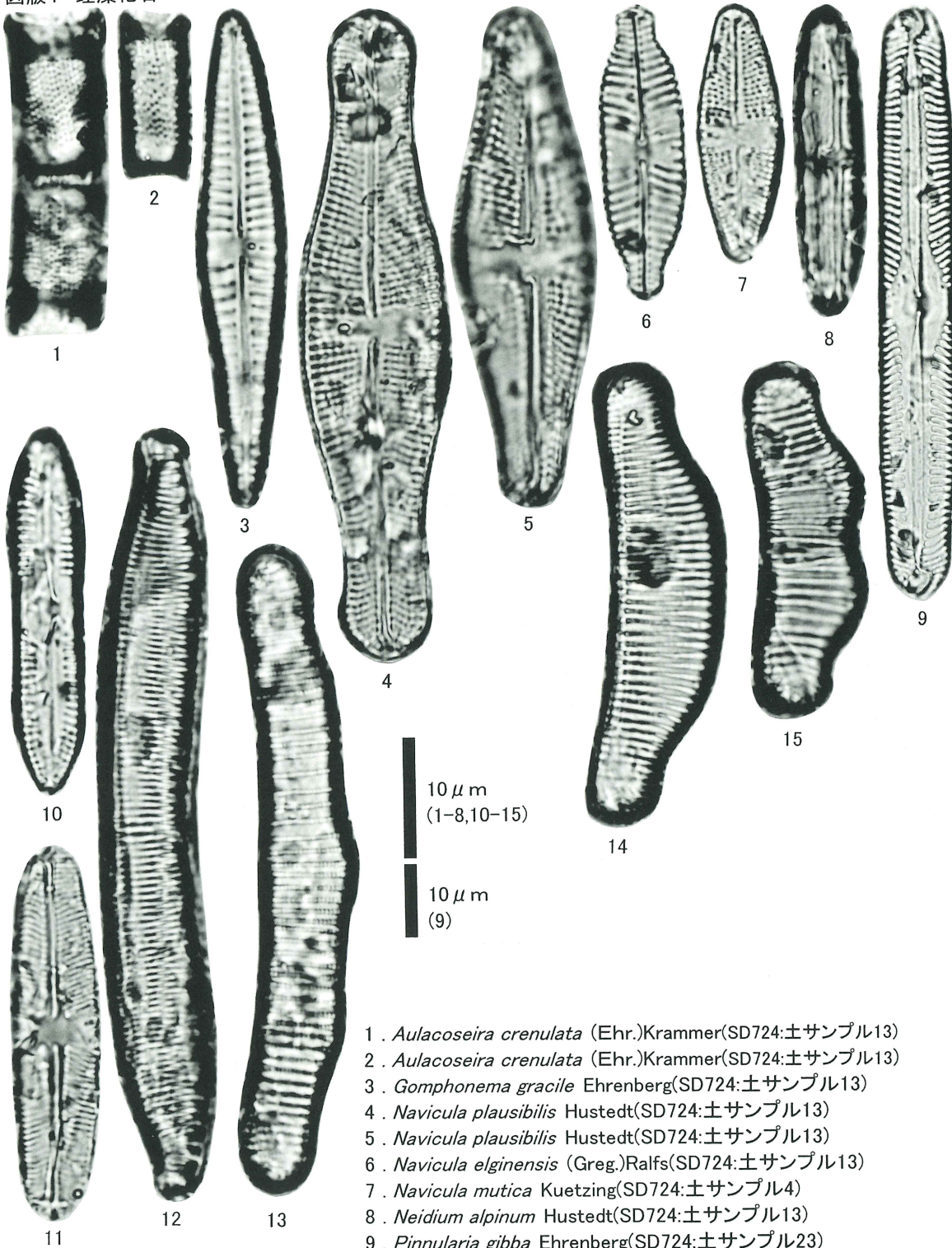
鉱物と考えられる。

なお、ベンガラには天然の赤鉄鉱を利用する場合のほか、含水水酸化鉄を焼成して得られる赤鉄鉱を利用する場合がある。また、赤鉄鉱にはパイプ状構造をなすものと、非パイプ状構造のものがあり、前者については沼沢地などにおいて鉄バクテリアが生成する含水水酸化鉄 (いわゆる高師小僧) が出発物質であることが判明している (岡田, 1997; 織幡・沢田, 1997)。一遺跡において同一時期に使用されるベンガラはパイプ状もしくは非パイプ状のどちらかが支配的な傾向にあるとされる (成瀬, 1998)。よって、電子顕微鏡などを利用してパイプ状構造の有無を観察し、本遺跡で用いられていたベンガラが、どちらに属するタイプなのか知ることも意義があると思われる。

引用文献

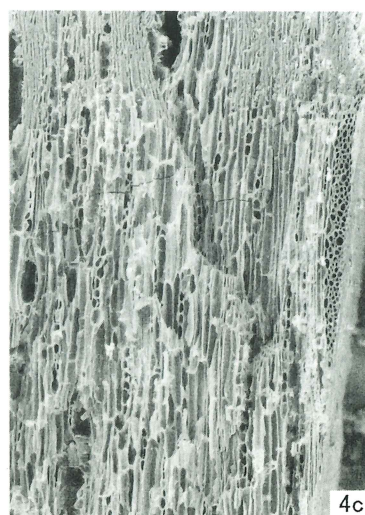
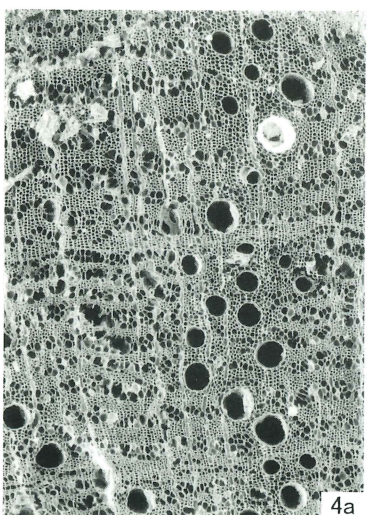
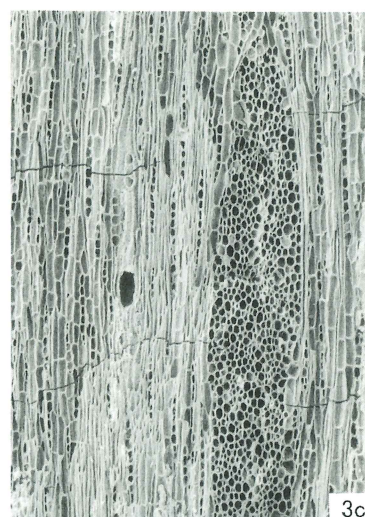
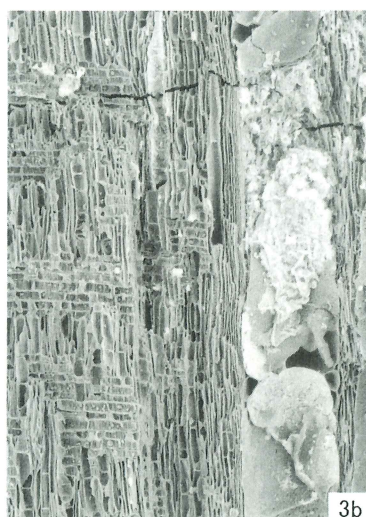
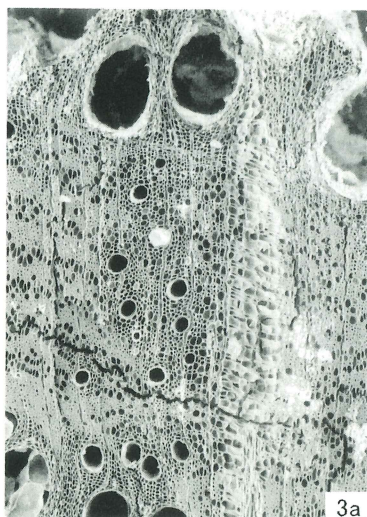
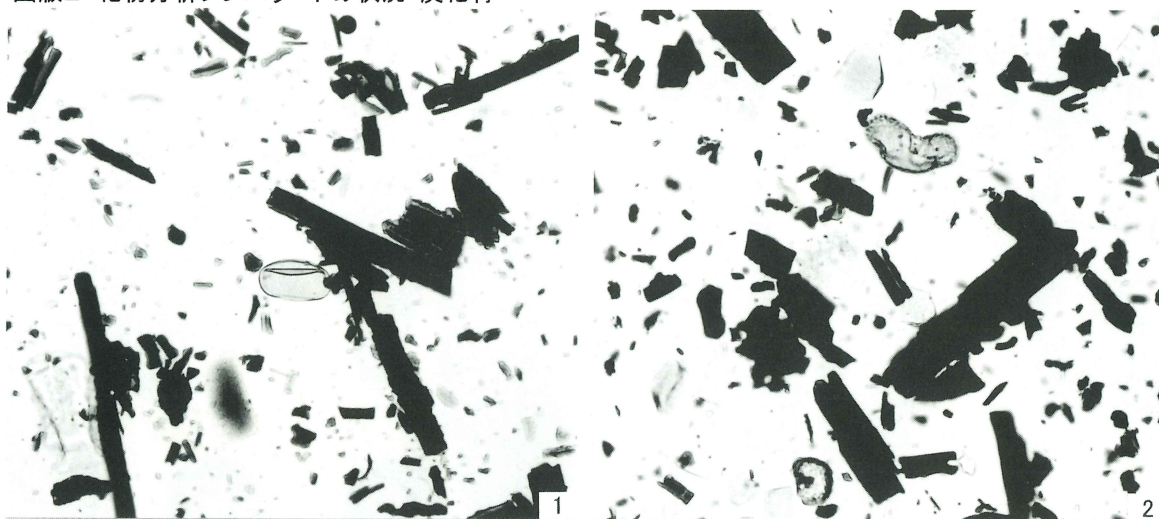
- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophyllous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- 原口和夫・三友清史・小林弘, 1998, 埼玉の藻類 珪藻類. 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 堀内誠示・高橋敦・橋本真紀夫, 1996, 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について. 本文化財科学会第13回大会研究発表要旨集, 62-63.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer, K., 1992, PINNULARIA. eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J. CRAMER, 353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1986, Bacillariophyceae. 1. Teil:Naviculaceae. In:Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/1. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, Bacillariophyceae. 2. Teil:Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In:Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/2. Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, Bacillariophyceae. 3. Teil:Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In:Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/3. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, Bacillariophyceae. 4. Teil:Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In:Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- 宮脇 昭 (編著), 1986, 日本植生誌 関東, 至文堂, 641p.
- 中村 純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 成瀬正和, 1998, 縄文時代の赤色顔料 I. 考古学ジャーナル, 438, 10-14.
- 岡田文男, 1997, パイプ状ベンガラ粒子の復元. 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39.
- 織幡順子・沢田正昭, 1997, 酸化鉄系赤色顔料の基礎的研究. 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 76-77.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2004, 下田町遺跡の科学分析. 「下田町遺跡 I 〈第 2 分冊〉」, 国土交通省関東地方整備局・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 440-453.
- 高橋重男, 1998, 埼玉の被子植物. 伊藤洋 (編) 「1998年版 埼玉県植物誌」, 埼玉県教育委員会, 87-490.
- 徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・孢子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

図版1 珪藻化石



1. *Aulacoseira crenulata* (Ehr.)Krammer(SD724:土サンプル13)
2. *Aulacoseira crenulata* (Ehr.)Krammer(SD724:土サンプル13)
3. *Gomphonema gracile* Ehrenberg(SD724:土サンプル13)
4. *Navicula plausibilis* Hustedt(SD724:土サンプル13)
5. *Navicula plausibilis* Hustedt(SD724:土サンプル13)
6. *Navicula elginensis* (Greg.)Ralfs(SD724:土サンプル13)
7. *Navicula mutica* Kuetzing(SD724:土サンプル4)
8. *Neidium alpinum* Hustedt(SD724:土サンプル13)
9. *Pinnularia gibba* Ehrenberg(SD724:土サンプル23)
10. *Pinnularia schroederii* (Hust.)Krammer(SD724:土サンプル4)
11. *Sellaphora pupula* (Kuetz.)Mereschkowsky(SD724:土サンプル23)
12. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow(SD724:土サンプル4)
13. *Eunotia pectinalis* var.
undulata (Ralfs)Rabenhorst(SD724:土サンプル18)
14. *Eunotia praerupta* Ehrenberg(SD724:土サンプル13)
15. *Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow(SD724:土サンプル13)

図版2 花粉分析プレパラートの状況・炭化材



1. 分析プレパラート内の状況写真(SD724;土サンプル13)
2. 分析プレパラート内の状況写真(SD724;土サンプル18)
3. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(SJ376;炭No.9) a: 木口, b: 柾目, c: 板目
4. コナラ属アカガシ亜属(SJ376;炭No.5) a: 木口, b: 柾目, c: 板目

50 μ m 200 μ m 200 μ m
 (1,2) (3,4a) (3,4b,c)

2. 下田町遺跡の自然科学分析（遺物編）

はじめに

下田町遺跡は和田吉野川と荒川が合流する地点に位置し、両河川によって形成された氾濫原の自然堤防上に立地する。弥生時代から中世までの複合遺跡で、主体を占めるのは古墳時代後期、平安時代にわたる集落である。今回の自然科学分析調査では、遺跡から出土した木製品、種実、獣骨の種類を同定し、当時の生業に関する情報を得ることを目的とする。

(1) 樹種同定

1. 試料

試料は、古墳時代後期の椀、火きり板、平安時代の曲物、櫛、下駄、柱、中世の井戸枠、椀、曲物、箱、木札、杭、建築部材で合計39点（試料番号1-40）である。

2. 分析方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）およびWheeler他（1998）、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1990）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にした。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹5種類（モミ属・スギ・ヒノキ・アスナロ・ヒノキ科）と広葉樹9種類（ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・ケヤキ・サカキ・イスノキ・トチノキ・ハリギリ・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂細胞および樹脂道は認められない。仮道管早材部から晩材

部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・アスナロ (*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-15細胞高。

表1 樹種同定結果

番号	巻次	挿図番号	種類	遺構	No.	時期	樹種	
1	Ⅲ	403	9	井戸枠	SE306	19	中世	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
2	Ⅲ	403	10	井戸枠	SE306	21	中世	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
3	Ⅲ	408	12	井戸枠	SE317	3	中世	スギ
4	Ⅲ	409	17	井戸枠	SE317	5	中世	アスナロ
5	Ⅲ	409	23	井戸枠	SE317	46	中世	スギ
6	Ⅳ	250	8	井戸枠	SE421	10	中世	ヒノキ
7	Ⅲ	426	13	椀	SE357	1	古墳時代後期	ケヤキ
8	Ⅲ	—	—	椀	SD002 G-28G		中世	トチノキ
9	Ⅳ	243	6	椀	SE408 下層		中世	ケヤキ
10	Ⅲ	481	3	椀	SD583	1	中世	クリ
11	Ⅲ	478	17	椀	SD585	1	中世	ハリギリ
12	Ⅲ	478	18	椀	SD585	2	中世	ブナ属
13	Ⅲ	478	16	椀	SD585	3	中世	トチノキ
14	Ⅲ	481	7	椀	SD586	1	中世	トネリコ属
15	Ⅲ	481	8	椀	SD586	3	中世	トネリコ属
16	Ⅲ	404	19	椀	SE307		中世	ケヤキ
17	Ⅲ	415	17	椀	SE324		中世	トネリコ属
18	Ⅲ	361	3	椀	SE327	1	中世	トネリコ属
19	Ⅲ	371	6	椀	SE348		中世	ケヤキ
20	Ⅳ	245	11	椀	SE414	1	中世	クリ
21	Ⅲ	418	10	曲物底板	SE333	2	平安時代	スギ
22	Ⅲ	418	9	曲物側板	SE333	4	平安時代	ヒノキ
23	Ⅳ	413	247	曲物側板	谷下 O-46G	43	平安時代	アスナロ
24	Ⅳ	249	5	曲物底板	SE419	9	中世	ヒノキ
25	Ⅳ	243	7	曲物側板	SE408		中世	ヒノキ
26	Ⅳ	243	7	曲物底板	SE408		中世	ヒノキ
27	Ⅳ	249	4	箱	SE419	4	中世	ヒノキ
29	Ⅳ	239	16	櫛	SE396		平安時代	イスノキ
30	Ⅳ	236	9	下駄	SE394	1	平安時代	スギ
31	Ⅳ	413	245	下駄	谷下 N-46G	2	平安時代	モミ属
32	Ⅲ	446	31	火きり板	SK641		古墳時代後期	スギ
33	Ⅳ	373	14	木札	SD832		中世	ヒノキ
34	Ⅳ	—	—	柱	SB53 P5		平安時代	針葉樹
35	Ⅳ	—	—	柱	SB53 P6		平安時代	ヒノキ科
36	Ⅳ	357	47	杭	SD792	29	中世	ヒノキ
37	Ⅳ	362	34	杭	SD795	167	中世	サカキ
38	Ⅳ	365	46	杭	SD795	215	中世	クリ
39	Ⅲ	466	2	建築部材	J-37G P-7		中世	スギ
40	Ⅳ	360	28	建築部材	SD795	81	中世	ヒノキ科

上記ヒノキ、アスナロを含むヒノキ科であり、放射柔細胞内に樹脂が認められない等の特徴はヒノキに似ている。しかし、分野壁孔が認められないなど、観察が不十分であるため同定には至らなかった。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に

配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-8細胞幅、1-60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有するが、段数は5段前後で少ない。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で階層状に配列する。

・ハリギリ (*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) ウコギ科ハリギリ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状または

対列状に配列する。放射組織は同性～異性、1-5細胞幅、1-30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

4. 考察

樹種同定を実施した木製品の時期は、古墳時代後期、平安時代、中世の4時期に分けられ、中世の木製品が29点で最も多く、次いで平安時代の8点、古墳時代後期の2点となる。これらの木製品には、合計14種類が確認された。各時期別・機種別の種類構成を表2に示す。

古墳時代後期では、火きり板と椀について樹種同定を実施し、火きり板がスギ、椀がケヤキであった。スギも木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。このことが利用された背景として考えられる。また、火きり板(白)については、これまでも各地で樹種同定が実施されているが、スギの利用が多く見られる(島地・伊東, 1988)。この背景には、スギ材の着火性などの材質も考慮されていることが推定される。なお、スギは県内に植栽が広くみられるが、自生もあるとされ、都幾川、坂戸、飯能等には巨樹も知られている。本遺跡では、これまでも古墳時代後期の木製品について樹種同定を実施しているが、槽、紡錘車、角材、板等にスギが認められ、針葉樹材ではモミ属に次いで多く利用されている樹種である。そのため、遺跡周辺でも木材が入手できた可能性があるが、自生の有無については今後の検討課題である。一方、椀に認められたケヤキは、重硬で強度および耐朽性が高いが、加工はやや困難である。椀・皿の樹種としては最もよく確認されている樹種の一つであり、多くの報告例が知られている(島地・伊東, 1988)。また、戸田市鍛冶谷・新田口遺

跡の古墳時代とされる漆器・容器ではトチノキ、ブナ属、エノキ、ケヤキ、ヤナギ属、オニグルミが確認され（能城・鈴木, 1986）、行田市・熊谷市の小敷田遺跡から出土した古墳時代（五領期）の刳物にはキハダやトネリコ属が確認されている（鈴木・能城, 1991）。ただし、古墳時代後期の椀は、埼玉県内では調査時例が少ないため、今後資料を蓄積し比較検討していくことが望まれる。

平安時代の木製品は、柱、曲物、櫛、下駄がある。柱は、ヒノキ科と針葉樹、曲物はスギ、ヒノキ、アスナロ、櫛はイスノキ、下駄はモミ属とスギであった。櫛を除く木製品は、いずれも針葉樹材である。曲物は、これまでの調査でもモミ属、スギ、ヒノキが認められており、今回の結果とも調和的である。同様の結果は、深谷市矢島南遺跡でも報告されている（鈴木・能城, 1994）。また、今回の結果から、アスナロも曲物として利用されていたことが判明した。下駄は、本遺跡ではこれまでに古墳時代後期の出土例があり、ヒノキに同定されている。今回の結果も針葉樹を利用している点では、古墳時代後期の事例と調和的であり、同様の木材利用が平安時代にも引き続き行われていたことが推定される。平安時代の柱は、これまでの調査でも出土しているが、重硬で強度の高い広葉樹材（クヌギ節、コナラ節、クリ）

の利用が多く、針葉樹はカヤが1点認められているのみであった。これまで確認されている種類は、カヤも含めて現在の遺跡周辺地域に分布している種類である。ヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ、クロベ等の有用材が含まれる。いずれも木理が通直で割裂性が高く、加工が容易で耐水性が高い。埼玉県内にはヒノキ、サワラ、ホンドリヤマネズ、ネズミサシ、ネズコ、アスナロが西部の山地を中心に分布する（高橋, 1998a）。ヒノキやサワラについては、県央から東部の低標高地にも分布するが、これらは植栽によるものである。ヒノキ科が尾根筋に生育する種類が多いことを考慮すれば、本来は遺跡周辺には分布していなかった可能性がある。木材を山地から搬入した可能性もある。

櫛に認められたイスノキは、極めて緻密な材を有し、重硬で強度も高い。民俗事例では、櫛の材としてツゲ（柘植）に次ぐ良材とされる。本遺跡では、これまでも平安時代の櫛に認められた例がある。イスノキは、暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、現在の埼玉県には分布していない。本遺跡に関わらず、新潟県曾根遺跡や長野県屋代遺跡群など、現在イスノキが分布していない地域からイスノキの櫛が出土した例は他にも知られている（川村, 1983; 高橋・辻本, 1999）。これらの櫛は、いずれもイスノキ

表2 時代別・器種別種類構成

時期・種類	樹種	モミ属	スギ	ヒノキ	アスナロ	ヒノキ科	針葉樹	ブナ属	クヌギ節	クリ	ケヤキ	サカキ	イスノキ	トチノキ	ハリギリ	トネリコ属	合計
古墳時代後期	火きり板		1														1
	椀										1						1
平安	柱					1	1										2
	曲物		1	1	1												3
	櫛												1				1
	下駄	1	1														2
中世	建築部材		1			1											2
	井戸枠		2	1	1				2								6
	杭			1						1		1					3
	木札			1													1
	箱			1													1
	曲物			3													3
	椀							1		2	3			2	1	4	13
合計		1	6	8	2	2	1	1	2	3	4	1	1	2	1	4	39

の分布している西日本から持ち込まれた可能性がある。

中世の木製品は、建築部材、井戸枠、杭、木札、箱、曲物、椀がある。建築部材はスギとヒノキ科、井戸枠はスギ、ヒノキ、アスナロ、クヌギ節、杭はヒノキ、クリ、サカキ、木札、箱、曲物は全てヒノキ、椀はブナ属、クリ、ケヤキ、トチノキ、ハリギリ、トネリコ属であった。全体的にヒノキを主とした針葉樹材の利用が多いが、椀では広葉樹が利用され、針葉樹は利用されない。

本遺跡では、これまでに中世の曲物と椀について樹種同定を実施している（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004）。曲物はスギに同定されているが、今回のヒノキも針葉樹が利用されている点で調和的である。また、ヒノキは、平安時代の曲物にも利用されており、引き続き利用されていたことが推定される。一方、椀にはこれまでにクリ、カツラ、トネリコ属が確認されている。今回の結果を合わせると、本遺跡では中世の椀にブナ属、クリ、ケヤキ、カツラ、トチノキ、ハリギリ、トネリコ属が利用されており、トネリコ属、クリ、ケヤキが比較的多い。比較的種類数が多いが、いずれも椀の樹種として確認例があり（島地・伊東, 1988）、現在の埼玉県内に分布している（高橋, 1998b）。これらの木材は、木材組織から環孔材（クリ、ケヤキ、ハリギリ、トネリコ属）と、散孔材（ブナ属、カツラ、トチノキ）に分けられる。橋本（1979）によれば、環孔材は、木目が明瞭に表れ、堅硬であるが靱性もあり、薄手物に適するとされる。また、散孔材のうち、ブナ属やトチノキは、軟らかくて加工が容易であり、大量に入手できるので使用量も多いが、乾燥が難しく狂いも大きい。本遺跡でのこれまでの結果をみると、環孔材系の木材の利用が多かった可能性がある。

埼玉県内では、騎西町小沼耕地遺跡、本庄市大久保山遺跡、寄居町末野遺跡等で中世の木製品について樹種同定が実施されている（能城・鈴木, 1991; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995, 1998）。それらの結果を見ると、曲物にはスギ、ヒノキ、ヒノキ属、札状製品にはモミ族、ヒノキ、ヒノキ属、井戸枠にはクリ、漆椀にはケヤキが認められる。この結果は、今回の結果とも調和的である。

(2) 種実同定

1. 試料

種実同定を実施する試料は、中世とされるSD-792から検出された種実遺体（試料番号46）で、複数個がビニール袋1点に入っている。

2. 分析方法

種実遺体を双眼実体顕微鏡下で観察し、形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川, 1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか, 2000）等と比較し、種類を同定し個数を求める。分析後の種実遺体は容器に入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

3. 結果および考察

種実遺体は、全て栽培植物のモモ（*Prunus persica* Batsch;バラ科サクラ属）の核（内果皮）に同定され、完形個体が74個、破片個体が24個確認された（表3）。核は茶褐色、広楕円体でやや偏平。頂部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ2～3 cm、幅1.5～2.5 cm、厚さ1.5～2 cm程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に分かれた個体がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。なお、表面に齧歯類（ネズミなど）による食害痕と考えられる円形の孔が開いた個体が、

表3 種実同定結果

番号	巻次	遺構名	時期	科名	属名	種名	学名	部位	状態	個数	備考
46	IV	SD792	中世	バラ科	サクラ属	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	完形	74	11個食害痕
									破片	24	

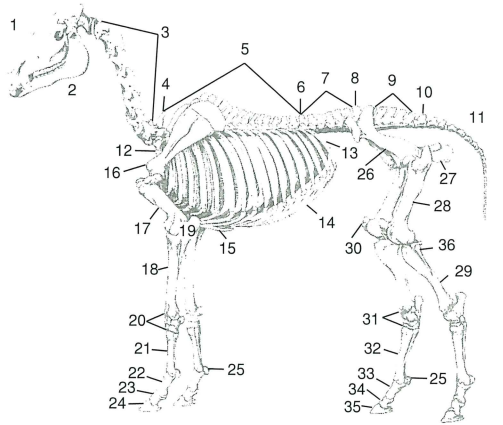
完形11個に確認された。モモは、栽培のために渡来した植物で（南木, 1991）、観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用されることから、当時の本遺跡周辺で利用されていたことが推定される。1つの遺構からまとめて出土しており、モモ（あるいは食用後の核のみ）が遺構内に投棄されたとみられる。モモの核がまとめて出土する例は各地で見ついているが、祭祀目的などの理由が考えられている（久世, 2002など）。

(3) 骨同定

1. 試料

試料は、4次および5次調査のSD2、SE316、SJ406、SE408、Q47グリッドP11から採取された獣骨の計5点（試料番号41-45）で、中世の遺構から出土したものとされている。

試料数は、SE408（試料番号44）が下顎骨1点と上顎骨2点があり、その他の試料が1試料中に1点の骨がみられる。いずれも保存状態が良好で、既にクリーニングされた状態である。試料の詳細については、結果とともに示す。



- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 頭蓋 | 2. 下顎骨 | 3. 頸椎 |
| 4. 第一胸椎 | 5. 胸椎 | 6. 最後位胸椎 |
| 7. 腰椎 | 8. 最後位腰椎 | 9. 仙骨 |
| 10. 第一尾椎 | 11. 尾椎 | 12. 第一肋骨 |
| 13. 最後位肋骨 | 14. 軟肋骨 | 15. 剣状軟骨 |
| 16. 肩甲骨 | 17. 上腕骨 | 18. 橈骨 |
| 19. 尺骨 | 20. 手根骨 | 21. 中手骨 |
| 22. 指骨(墓節骨) | 23. 指骨(中節骨) | 24. 指骨(末節骨) |
| 25. 墓節骨種子骨 | 26. 腸骨 | 27. 坐骨 |
| 28. 大腿骨 | 29. 脛骨 | 30. 膝蓋骨 |
| 31. 足根骨 | 32. 中足骨 | 33. 趾骨(墓節骨) |
| 34. 趾骨(中節骨) | 35. 趾骨(末節骨) | 36. 腓骨 |

図1 ウマの骨格 (加藤・山内, 2003を改変)

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、出土骨の種類と部位を明らかにする。骨格各部位の計測は、デジタルノギスを使用する。図1に骨格各部の名称をウマの骨格図を用いて示す。なお、同定および考察は、金子浩昌先生の協力を得た。

3. 結果および考察

検出された種類は、イヌ (*Canis familiaris*)、ウマ (*Equus caballus*)、ニホンジカ (*Cervus nippon*) の3種類である（表4・5）。保存状態は良好であるが、低湿地に特有なピビアナイト（藍鉄鉱）が沈着する。以下、各試料の結果を示す。

a) 試料別出現傾向

〈試料41：SE316 最下層〉

ほぼ完存するウマの左橈尺骨である。尺骨は、橈骨と癒着するが、滑車切痕部を残すのみである。切痕部分には、金属器による切り込みが深く付く。解体のために刃物で切り込んだとみられる。また、近位端はほとんど失われているが、周辺に咬み痕が多数みられることから齧られたことがうかがえる。

橈骨は、両端を残すが、骨端部の損傷が著しい。近位端は内外側とも深い齧り痕がみられ、原状をとどめない。また、人為的に切り込みと思われる痕跡もみられる。遠位骨端も損傷著しく、内側の一部を残す程度である。細かい齧り痕が全面に付き、かつ金属刃による切り込みが加えられたようである。斜め上方からの切り込みもあったらしい。骨体部は、骨端の損傷に比べると咬み跡や切痕などがほとんどみられない。解体に直接かかわる傷はごく一部だったと思われる。橈骨の全長は、317.0mm程度である。

〈試料42：SD2 G-28グリッド〉

ほぼ完存するイヌの左下顎骨である。第2乳臼歯が植立し、第3乳臼歯の歯根部が残存する。第4乳臼歯は、脱落する。骨体下部が破損し、永久歯の歯冠が形成されているのが観察される。第4乳臼歯の遠心側の歯槽には、幅1mm、長さ6mmのレンズ状の開口をみる。生後数週間程度の幼獣である。

〈試料43：SJ406 P16〉

ニホンジカの右尺骨近位端片であるが、近位端部分が破損する。また、滑車切痕より遠位側が破損する。この部分を観察すると、鋭利であり、切断している可能性もある。肘突起間の幅は40mmを計る。

〈試料44：SE408〉

ウマの右上顎骨片と左下顎骨である。出土状況、咬耗の状況、歯牙の大きさから、上顎骨と下顎骨は同一個体と推定される。

右上顎骨は、第3前臼歯～第1後臼歯部と第2～3後臼歯部の破片であり、それぞれ歯牙が植立する。咬耗は著しい。特に、第1後臼歯の舌側は象牙質がほとんど摩滅する状態で、全歯高10mm未満と推定される。

左下顎骨は、ほぼ完存し、第2前臼歯～第3後臼歯までが植立するが、近心端が折られて門歯部分が見られず、また筋突起端が欠損する。上顎骨同様に咬耗が進む。

〈試料45：グリッドピット Q-47グリッド P11〉

ほぼ完存するウマの左中足骨である。遠位端の縦稜が欠損し、その部分に刃物による鋭角的な切痕が見られる。全長243mm前後、近位端幅42.61mm、遠位端幅37.36mmを計る。

b) 種類別傾向

本遺跡からは、中世の遺構等からイヌ、ウマ、ニホンジカが確認された。イヌは、幼獣であり、遺跡近隣で生まれたと思われる。中近世の遺跡などの調査では、今回のように成長段階にあるイヌの幼体が出土する事例がある。おそらく自然死した個体であったと思われる。ニホンジカは、前回の調査でも出土しており、骨体に解体に伴うと思われる痕跡がみ

られることから、食用等として利用されていたと思われる。

また、今回出土したウマは、頭骨1個（試料44）、他に四肢骨2点（試料41, 45）であった。これらについて、西中川ほか（1991）を参考として、年齢・体高を推定すると次の通りとなる。試料44は、全歯高10mm程度であり、20歳に近い高齢馬であったとみられる。一方、体高を推定すると、試料41の橈骨、試料45の中足骨は、その計測値から日本在来馬の中でも中小型に属する御崎馬の雄個体に近い大きさである。西中川ほかの調査によると（1989, 1991）、全国の古代、中世、近世の遺跡から出土するウマは小型～中型であるとされている。本遺跡で出土するウマも同様であったことがわかる。なお、四肢骨には、解体と思われる痕跡がみられ、屍馬を解体、毛皮、肉を採取することがあったと思われる。そのような扱いは屍体の処理をめぐって、ほとんど全国的にみられていたようである。このように、今回確認された獣類は、当時の人間と深く関わっていたことが推定される。これらの種類がどのように活用されていたか、今後も資料を蓄積していくことが望まれ、さらに検証を重ねていきたい。

表4 動物遺存体出土分類群

脊椎動物門	Phylum	Vertebrata
哺乳綱	Class	Mammalia
ネコ目（食肉目）	Order	Carnivora
ネコ亜目	Suborder	Fissipedia
イヌ科	Family	Canidae
イヌ		<i>Canis familiaris</i>
ウマ目（奇蹄目）	Order	Perissodactyla
ウマ科	Family	Equidae
ウマ		<i>Equus caballus</i>
ウシ目（偶蹄目）	Order	Artiodactyla
シカ科	Family	Cervidae
ニホンジカ		<i>Cervus nippon</i>

表5 骨同定結果

番号	巻次	遺構	グリッド等	時期	分類群	部位	左	右	部分	備考
41	Ⅲ	SE316	最下層	中世	ウマ	橈尺骨	左		ほぼ完存	
42	Ⅲ	SD2	G-28G	中世	イヌ	下顎骨	左		ほぼ完存	
43	Ⅳ	SJ406	P16	中世	ニホンジカ	尺骨		右	近位端	
44	Ⅳ	SE408		中世	ウマ	上顎骨(2片)		右	破片	P3-M3植立
						下顎骨	左		ほぼ完存	P2-M3植立
45	Ⅳ	Q-47G P11		中世	ウマ	中足骨	左		ほぼ完存	

凡例) P：前臼歯 M：後臼歯

引用文献

- 橋本鉄男, 1979, ろくろ (ものと人間の文化史31), 法政大学出版局, 444p.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 3, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 川村恵洋, 1983, 曽根遺跡出土木材の識別. 新大演報, 16, 75-82.
- 久世康博, 2002, 井戸検出に伴う土坑の検討. 財団法人京都市埋蔵文化財研究所研究紀要, 8, 155-167.
- 南木陸彦, 1991, 栽培植物, 古墳時代の研究 4 生産と流通Ⅰ, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, 雄山閣, 165-174.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 西中川駿・本田道輝・松元光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99p.
- 西中川駿・上村俊雄・松元光春, 1989, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究—とくに日本在来種との比較—. 昭和63年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 197p.
- 能城修一・鈴木三男, 1986, 鍛冶谷・新田口遺跡出土木材の樹種. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集 鍛冶谷・新田口遺跡」, 埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 398-410.
- 能城修一・鈴木三男, 1991, 埼玉県騎西町小沼耕地遺跡から出土した木製品の樹種. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第100集 北埼玉郡騎西町 小沼耕地遺跡 県立騎西養護学校関係埋蔵文化財発掘調査報告」, 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 163-166.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1995, A2道路地区における自然科学分析. 早稲田大学本庄校地文化財調査室編「大久保山Ⅲ 早稲田大学本庄校地文化財調査報告3」, 早稲田大学, 262-282.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1998, 末野遺跡の須恵器窯燃料材等の樹種. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第196集 寄居町 末野遺跡Ⅰ 県道広木折原線関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅲ—」, 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 289-292.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004, 下田町遺跡の自然科学分析. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集 大里郡大里町 下田町遺跡Ⅰ 大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅰ—(第2分冊)」, 国土交通省関東地方整備局・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 440-453.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 76p.
- 島地 謙・伊東隆夫(編), 1988, 日本の遺跡出土木製品総覧. 雄山閣, 296p.
- 鈴木三男・能城修一, 1991, 小敷田遺跡の木材化石群集. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 行田市・熊谷市 小敷田遺跡 一般国道17号線熊谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告〈河川跡遺物

編・第Ⅱ分冊)], 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 268-318.

鈴木三男・能城修一, 1994, 埼玉県矢島南遺跡出土木材の樹種. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第149集 深谷市矢島南遺跡 一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅶ—」, 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団, 108-111.

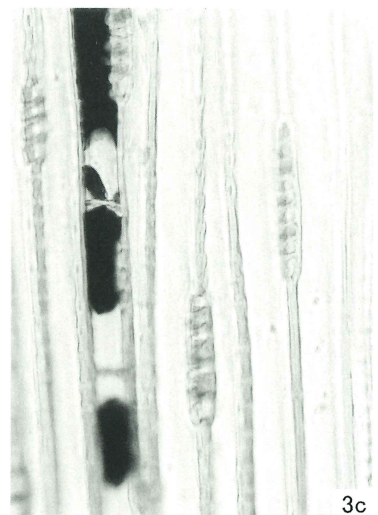
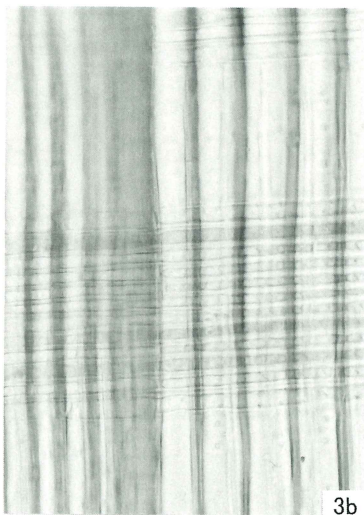
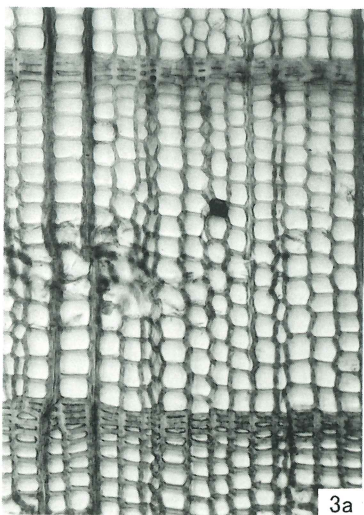
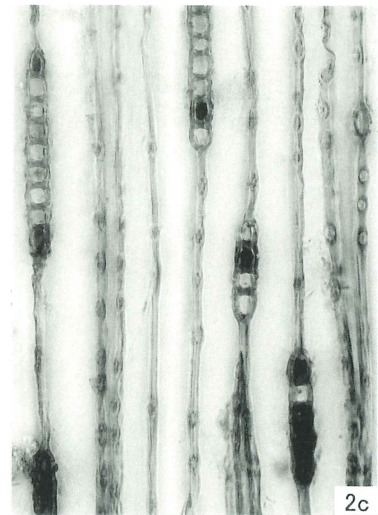
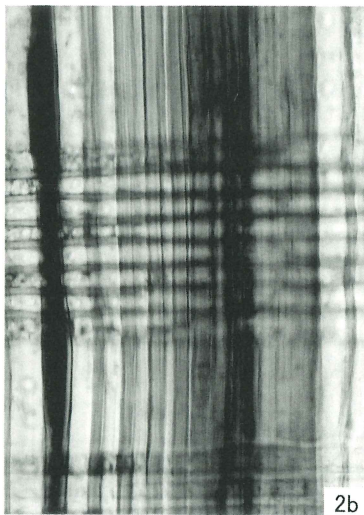
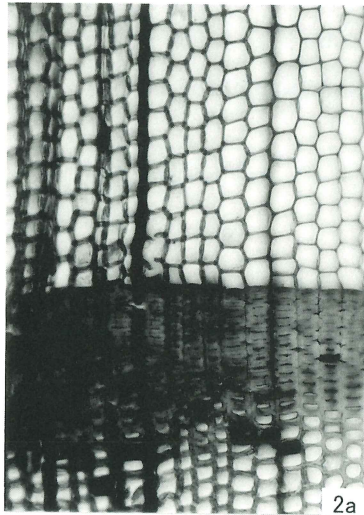
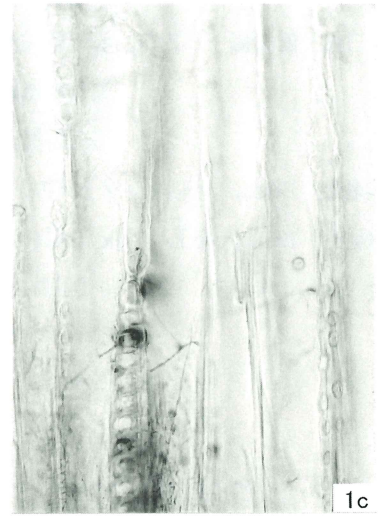
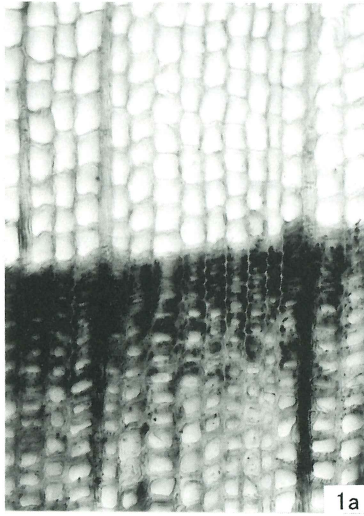
高橋重男, 1998a, 埼玉県の裸子植物. 「伊藤 洋編,1998年度版 埼玉県植物誌」, 埼玉県教育委員会, 81-86.

高橋重男, 1998b, 埼玉県の被子植物. 「伊藤 洋編,1998年度版 埼玉県植物誌」, 埼玉県教育委員会, 87-288.



高橋 敦・辻本崇夫, 1999, 屋代遺跡群⑥区出土木製品・自然木および更埴条里遺跡出土木製品の樹種. 「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26—更埴市内その5— 更埴条里遺跡・屋代遺跡群—古代1編—本文」, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター, 333-337.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

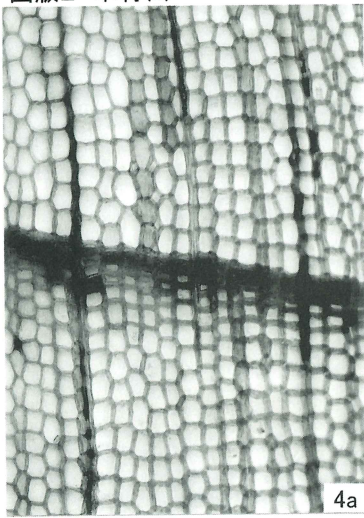
図版1 木材(1)



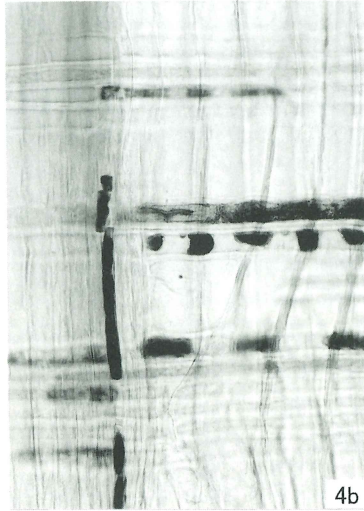
1. モミ属(試料番号31)
 2. スギ(試料番号3)
 3. ヒノキ(試料番号22)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

 200 μm:a
 100 μm:b,c

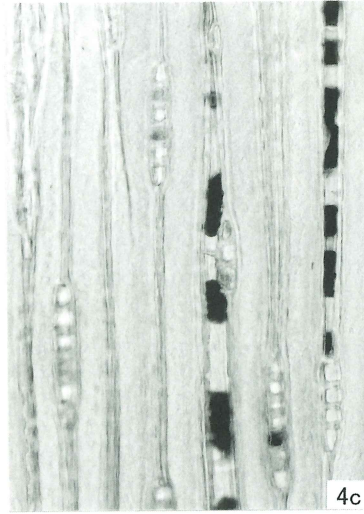
図版2 木材(2)



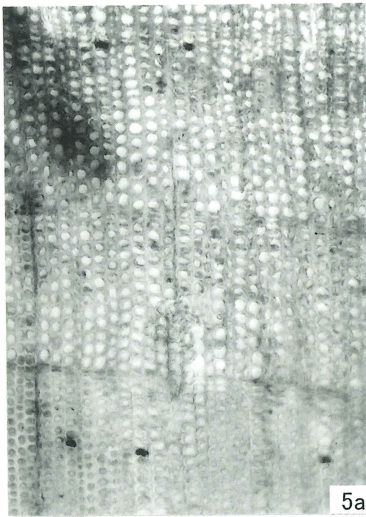
4a



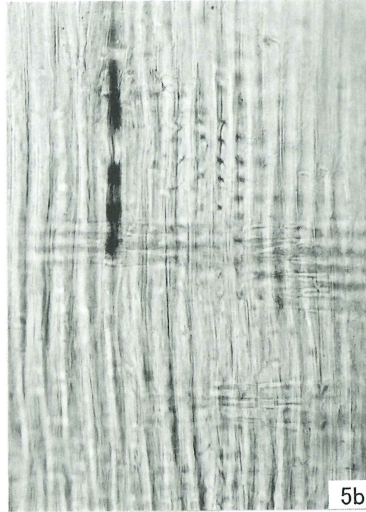
4b



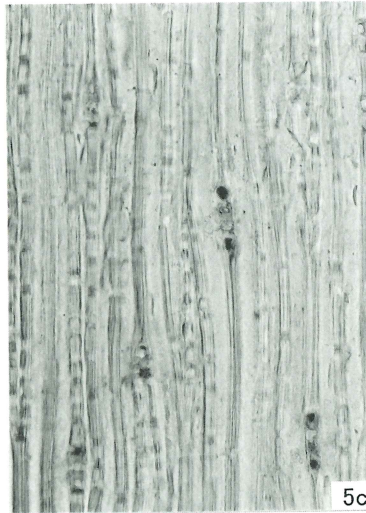
4c



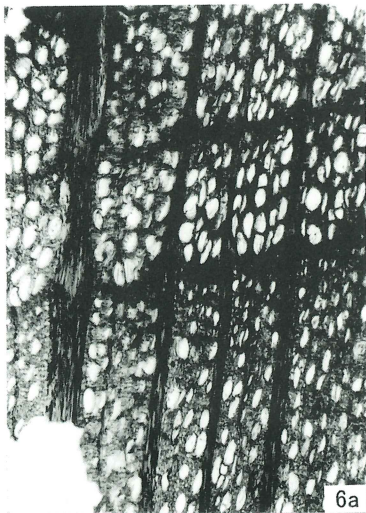
5a



5b



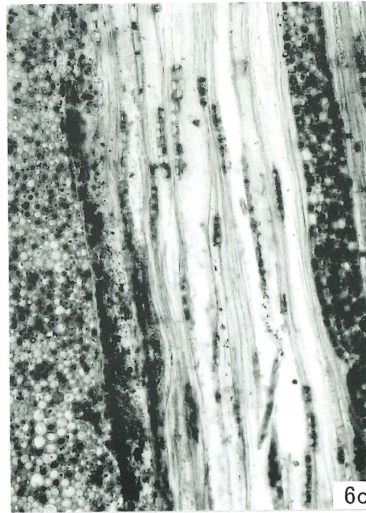
5c



6a






6b

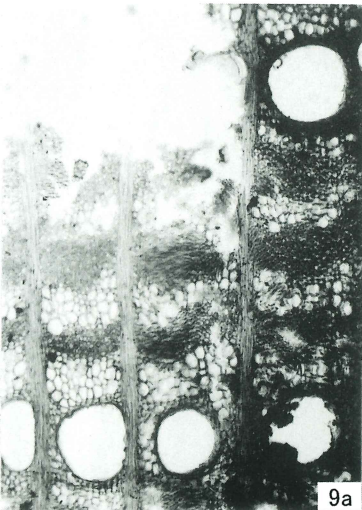
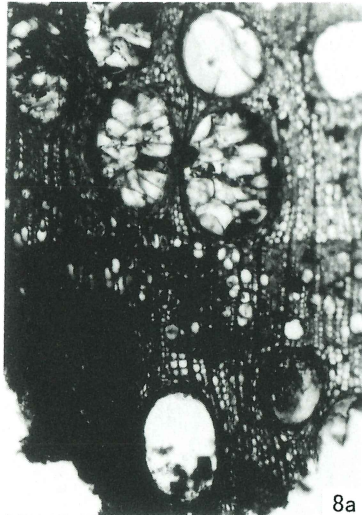
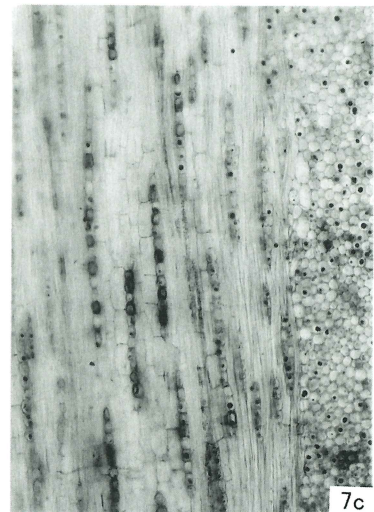
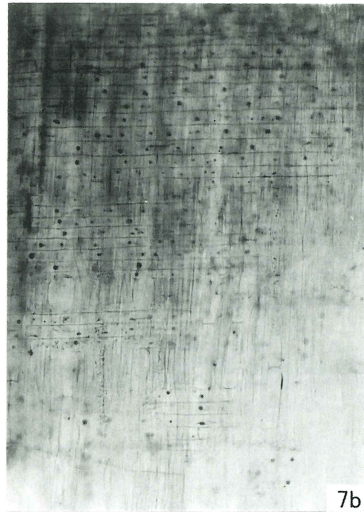
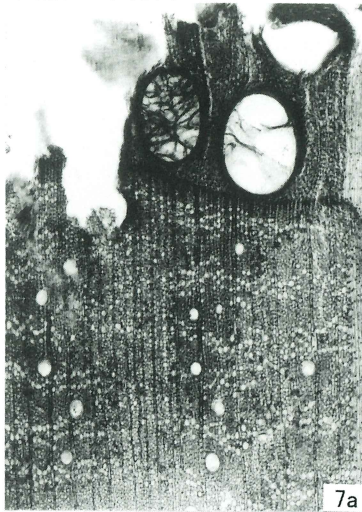


6c

- 4. アスナロ(試料番号4)
- 5. ヒノキ科(試料番号35)
- 6. ブナ属(試料番号12)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

 200 μ m: 6a
 200 μ m: 4-5a·6b,c
 100 μ m: 4-5b,c

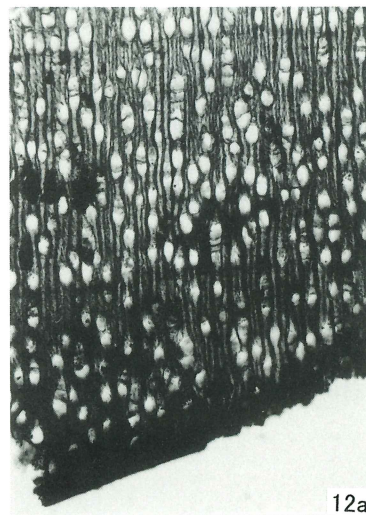
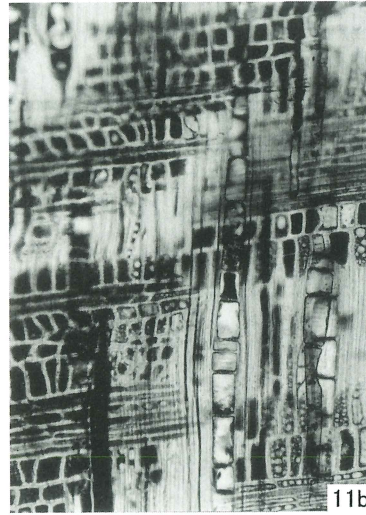
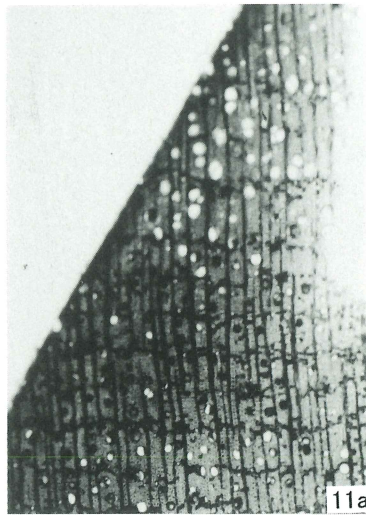
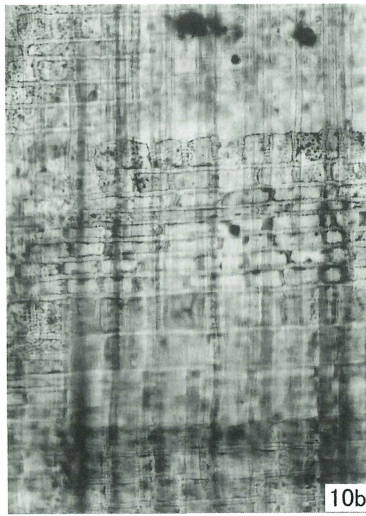
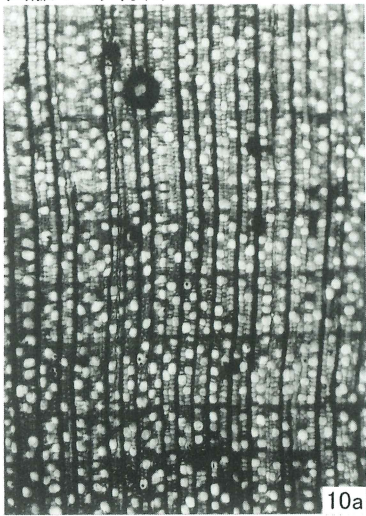
図版3 木材(3)



- 7. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(試料番号2)
- 8. クリ(試料番号20)
- 9. ケヤキ(試料番号19)
- a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm: a
200 μm: b, c

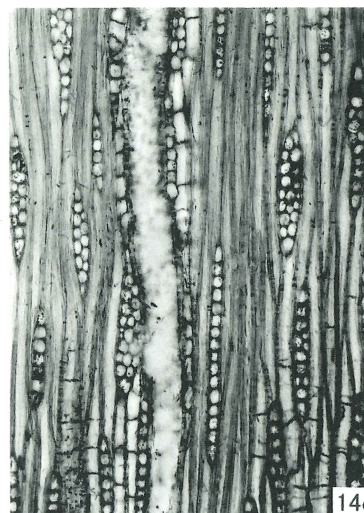
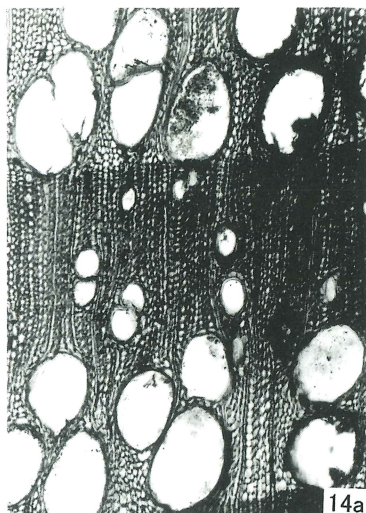
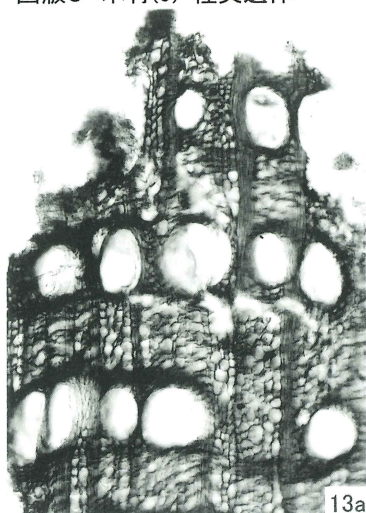
図版4 木材(4)



10. サカキ(試料番号37)
 11. イスノキ(試料番号29)
 12. トチノキ(試料番号13)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a
 200 μm: b, c

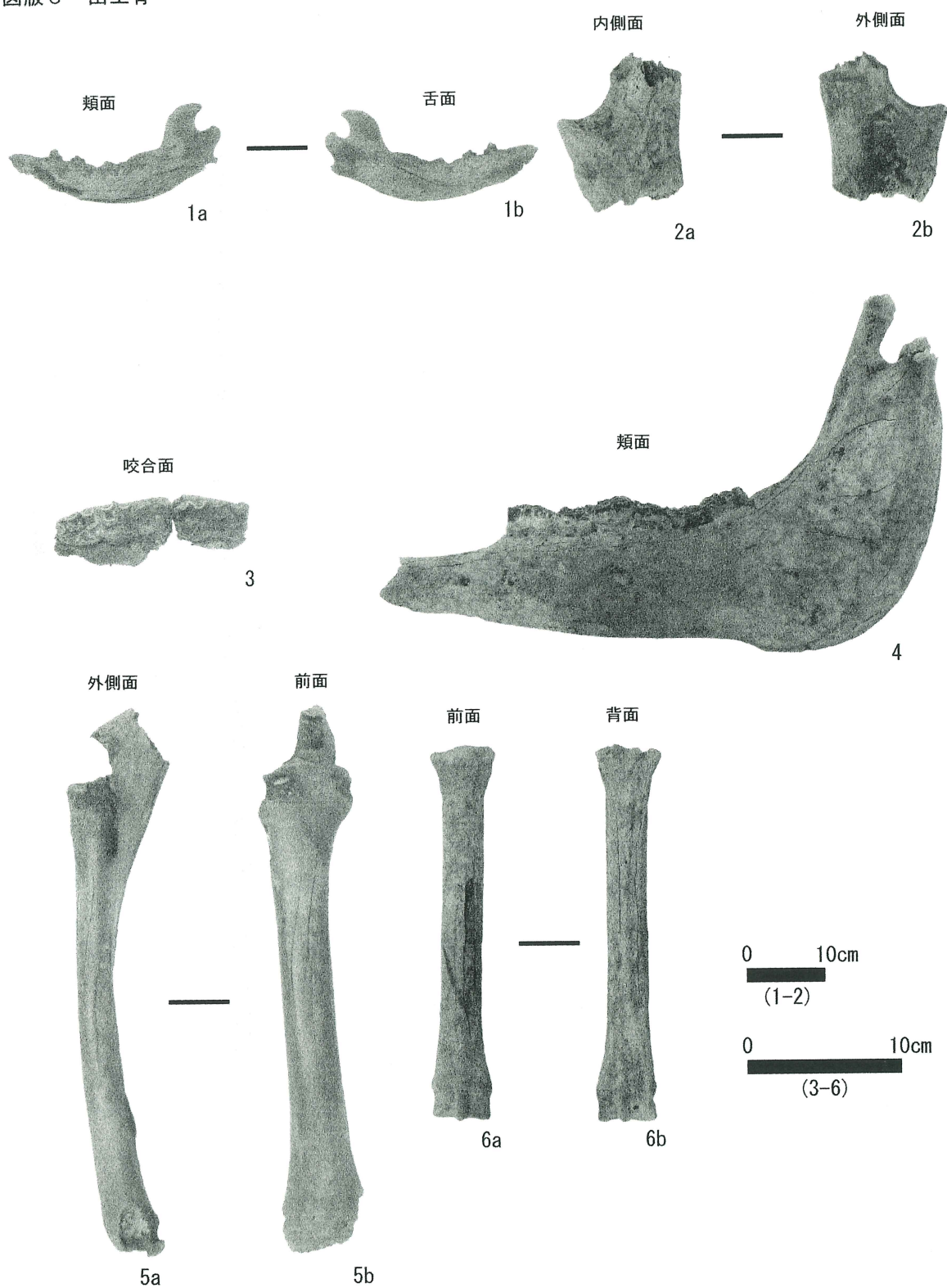
図版5 木材(5)・種実遺体



13. ハリギリ(試料番号11) a: 木口, b: 柁目, c: 板目
 14. トネリコ属(試料番号17) a: 木口, b: 柁目, c: 板目
 15. モモ核 (SD-792,46)
 16. モモ核 (SD-792,46)
 17. モモ核 (食害痕) (SD-792,46)

200 μ m 200 μ m 1cm
 (13-14a) (13-14b,c) (15-17)

図版6 出土骨



- 1. イヌ左下顎骨 (試料 42)
- 2. ニホンジカ右尺骨近位端 (試料 43)
- 3. ウマ右上顎骨 (試料 44)
- 4. ウマ左下顎骨 (試料 44)
- 5. ウマ左橈・尺骨 (試料 41)
- 6. ウマ左中足骨 (試料 45)

付編

下田町遺跡検出遺構全索引

方形周溝墓

ローマ数字…巻次 算用数字…ページ数

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号方形周溝墓	C-8・9	I 21	I 20 21	I 21	I 図版4	I 図版80
第2号方形周溝墓	E・F-17・18	I 23	I 22 23	I 24	I 図版5	I 図版76 80 81
第3号方形周溝墓	G-16・17 H-17	I 28	I 26 27	I 27	I 図版6	I 図版80 81
第4号方形周溝墓	F・G-17・18	I 30	I 29	I 28	I 図版6	I 図版76 80
第5号方形周溝墓	E・F-19・20	II 219	II 218	II 219	II 図版60	II 図版157
第6号方形周溝墓	E・F-20・21	II 221	II 220 221	II 222	II 図版60 62	II 図版157
第7号方形周溝墓	E・F-27	II 223	II 223	II 223	II 図版61 62	
第8号方形周溝墓	I・J-19・20	II 225	II 224	II 224	II 図版61 62	
第9号方形周溝墓	J・K-22・23	II 225	II 226	II 226	II 図版62 63	
第10号方形周溝墓	H・I-31・32	III 17	III 18 19	III 20	III 図版5	III 図版152 179
第11号方形周溝墓	M~O-27・28	IV 23	IV 24~26	IV 27	IV 図版4 5	IV 図版59 60
第12号方形周溝墓	N-30~32 M-30~33 L-30~32	IV 28	IV 29~36	IV 34 37 38	IV 図版5~10	IV 図版60~62
第13号方形周溝墓	N-26	II 227	II 227	II 227	II 図版63	
第14号方形周溝墓	O-31・32	IV 38	IV 39		IV 図版11	
第15号方形周溝墓	L・M-33・34	IV 40	IV 41	IV 40	IV 図版12 13	IV 図版62
第16号方形周溝墓	M~O-33・34	IV 44	IV 42 43	IV 44	IV 図版13	IV 図版62
第17号方形周溝墓	N-34 O・P-34・35	IV 45	IV 46 47	IV 48	IV 図版14	IV 図版63
第18号方形周溝墓	O・P-35・36	IV 49	IV 50 51	IV 52	IV 図版15	IV 図版64
第19号方形周溝墓	O-30	IV 53	IV 53		IV 図版15	

竪穴住居跡

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号住居跡	欠番					
第2号住居跡	欠番					
第3号住居跡	D-16	I 31	I 34	I 34	I 図版8	
第4号住居跡	D・E-17	I 31	I 35	I 35	I 図版8	
第5号住居跡	D・E-17	I 35	I 36			
第6号住居跡	D-17・18	I 36	I 37	I 36	I 図版8	I 図版31
第7号住居跡	D-17	I 36	I 38 39	I 38	I 図版8 9	I 図版31 59
第8号住居跡	D-17・18	I 40	I 39	I 39	I 図版9	I 図版31
第9号住居跡	欠番					
第10号住居跡	欠番					
第11号住居跡	D・E-18	I 41	I 40	I 40	I 図版9	
第12号住居跡	D-15・16	I 42	I 41 42	I 41	I 図版9	I 図版31
第13号住居跡	D・E-16・17	I 42	I 43 44	I 45 46	I 図版9	I 図版31 32
第14号住居跡	E-13・14	I 46	I 47	I 47	I 図版10	I 図版32 60
第15号住居跡	欠番					
第16号住居跡	D-13	I 50	I 48 49	I 49	I 図版10	I 図版32
第17号住居跡	欠番					
第18号住居跡	C-14	I 50	I 51	I 51	I 図版10	
第19号住居跡	E-16・17	I 50	I 52 53	I 52	I 図版10	I 図版32 60
第20号住居跡	C-13	I 51	I 54		I 図版10	
第21号住居跡	C-11・12	I 51	I 54	I 55	I 図版10	I 図版32
第22号住居跡	C-11	I 54	I 55	I 55	I 図版11	I 図版32
第23号住居跡	E-12・13	I 54	I 56	I 56	I 図版11	
第24号住居跡	C-9・10 D-10	I 57	I 58 60	I 59 60	I 図版11	I 図版32 33 60 68
第25号住居跡	D・E-11	I 57	I 61	I 61	I 図版11	
第26号住居跡	D-11	I 57	I 62	I 62	I 図版11	I 図版33
第27号住居跡	C・D-5	I 60	I 63		I 図版11	
第28号住居跡	D-10	I 62	I 64 65	I 64	I 図版11	I 図版33

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第29号住居跡	B・C-9	I 66	I 66 67	I 67	I 図版11 12	I 図版60
第30号住居跡	D-9	I 70	I 68	I 68	I 図版12	I 図版33
第31号住居跡	D-9 E-8・9	I 71	I 69	I 69	I 図版12	
第32号住居跡	B・C-8・9	I 71	I 70	I 71	I 図版12	I 図版34 60 61
第33号住居跡	欠番					
第34号住居跡	E・F-10	I 72	I 72	I 72	I 図版12	
第35号住居跡	B・C-6・7	I 74	I 73	I 74	I 図版12	
第36号住居跡	E・F-11	I 74	I 75	I 74	I 図版12	
第37号住居跡	D・E-7・8	I 75	I 76 77	I 78	I 図版12	I 図版34
第38号住居跡	欠番					
第39号住居跡	欠番					
第40号住居跡	F-10	I 77	I 79	I 79	I 図版13	I 図版34
第41号住居跡	E・F-11	I 80	I 80	I 80	I 図版12	
第42号住居跡	F-10	I 82	I 81	I 81	I 図版13	I 図版35 61
第43号住居跡	F・G-13・14	I 83	I 82	I 83		I 図版61
第44号住居跡	F・G-11	I 83	I 84	I 85	I 図版13	
第45・46号住居跡	F・G-11	I 84	I 85	I 85	I 図版13	
第47号住居跡	F・G-11	I 88	I 86	I 85	I 図版13	
第48号住居跡	F・G-11	I 89	I 86	I 85	I 図版13	
第49号住居跡	F・G-12・13	I 89	I 87	I 88	I 図版13	I 図版35
第50号住居跡	F-18	I 90	I 89	I 89		
第51号住居跡	G-13	I 90	I 90	I 90		
第52号住居跡	I・J-11	II 21	II 24	II 25	II 図版3	
第53号住居跡	I-11・12	II 21	II 25	II 26		
第54号住居跡	I-12	II 21	II 26	II 27	II 図版3	II 図版12
第55号住居跡	I-12・13	II 21	II 28	II 29	II 図版3	II 図版12
第56号住居跡	I-13	II 29	II 30	II 31	II 図版3	
第57号住居跡	H-12	II 30	II 32	II 32	II 図版3	
第58号住居跡	I-12・13	II 34	II 33	II 33		II 図版12
第59号住居跡	H-13	II 36	II 34	II 35	II 図版3	
第60号住居跡	H-8	II 37	II 36	II 36	II 図版3	
第61号住居跡	I-13	II 37	II 37	II 37		
第62号住居跡	I-16・17	II 37	II 38	II 39	II 図版4	II 図版12
第63号住居跡	H・I-16	II 40	II 40	II 40	II 図版4	
第64号住居跡	I-17	II 41	II 41	II 41	II 図版4	II 図版12 13
第65号住居跡	I-16	II 43	II 42	II 42	II 図版4	
第66号住居跡	H-8	II 43	II 43	II 43	II 図版4	
第67号住居跡	G・H-8・9	II 44	II 44	II 44	II 図版4	II 図版13
第68号住居跡	L-17・18 M-17	II 230	II 231	II 231	II 図版64	
第69号住居跡	K-17・18	II 231	II 232	II 232	II 図版64	
第70号住居跡	J・K-17・18	II 232	II 233	II 233	II 図版65	
第71号住居跡	J-17・18	II 234	II 234	II 234	II 図版66	
第72号住居跡	J-18・19	II 235	II 235	II 235	II 図版66	
第73号住居跡	I・J-19	II 236	II 236		II 図版67	
第74号住居跡	K-18	II 236	II 237	II 238	II 図版67	II 図版158
第75号住居跡	J・K-18	II 238	II 239	II 238	II 図版67 68	
第76号住居跡	K-17・18	II 240	II 240		II 図版65	
第77号住居跡	K-18	II 240	II 239		II 図版68	
第78号住居跡	J・K-18	II 240	II 240			
第79号住居跡	I-18	II 241	II 241	II 241	II 図版68	
第80号住居跡	K・L-21	II 242 243	II 242~245	II 246 247	II 図版69 70	II 図版158
第81号住居跡	E・F-27	II 247	II 248	II 249	II 図版70 71	II 図版158 159
第82号住居跡	F-19	II 249	II 250 253	II 251 252	II 図版71 72	II 図版159 160
第83号住居跡	E・F-19	II 254	II 254	II 254	II 図版73	
第84号住居跡	F-22・23	II 256	II 255	II 256	II 図版72 73	II 図版161
第85号住居跡	E・F-22・23	II 256	II 255	II 257	II 図版72 73	II 図版161
第86号住居跡	D・E-19	II 258	II 258	II 258	II 図版74	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第87号住居跡	G-21・22	II 259	II 259	II 259	II 図版74	
第88号住居跡	E・F-23	II 261	II 260 261	II 262	II 図版75	II 図版161
第89号住居跡	G・H-27・28	II 263	II 264	II 264	II 図版75	
第90号住居跡	E-23	II 265	II 265	II 265		
第91号住居跡	F・G-27	II 265	II 266	II 266	II 図版76	II 図版161
第92号住居跡	F-27・28	II 267	II 267	II 267	II 図版76 77	
第93号住居跡	K-22	II 268	II 268	II 268	II 図版77	
第94号住居跡	M-22・23	II 269	II 269			
第95号住居跡	M-22・23	II 271	II 270	II 271	II 図版78	II 図版162
第96号住居跡	M-22	II 273	II 271 272	II 273	II 図版78 79	II 図版162
第97号住居跡	K・L-22・23	II 275	II 274	II 275	II 図版80	
第98号住居跡	J-22	II 275	II 276		II 図版80	
第99号住居跡	K・L-22・23	II 276	II 277		II 図版81	
第100号住居跡	L-23	II 277	II 278	II 278	II 図版81	
第101号住居跡	K-24	II 277	II 279	II 280	II 図版82	II 図版162
第102号住居跡	L-24	II 280	II 281	II 281		
第103号住居跡	L-24	II 280	II 281	II 281		
第104号住居跡	M-24・25	II 280	II 282	II 282		
第105号住居跡	第13号方形周溝墓に変更					
第106号住居跡	G・H-37	III 21	III 24~26	III 26	III 図版6	III 図版138
第107号住居跡	I-36・37	III 25	III 27	III 28	III 図版7	
第108号住居跡	G-37	III 28	III 28	III 29	III 図版7	III 図版138 179
第109号住居跡	G・H-36	III 29	III 30	III 29	III 図版8	III 図版152
第110号住居跡	I-37	III 30	III 31	III 31	III 図版9	III 図版138
第111号住居跡	I-37・38	III 32	III 32	III 33	III 図版9	III 図版138 152
第112号住居跡	欠番					
第113号住居跡	I-37・38	III 35	III 33 34	III 35	III 図版10	III 図版138 152 153 180
第114号住居跡	H・G-36・37	III 36	III 36 37	III 38 39	III 図版11	III 図版138 153 154 180 181
第115号住居跡	H-37	III 39	III 40	III 39	III 図版12	
第116号住居跡	H・I-36・37	III 40	III 40 41	III 42 43	III 図版12 13	III 図版138 139 154 155 181 182
第117号住居跡	H・I-37	III 41	III 44	III 45	III 図版12 14	
第118号住居跡	H・I-37	III 44	III 44		III 図版12	
第119号住居跡	H・I-36・37	III 46	III 45	III 46	III 図版12 13	
第120号住居跡	欠番					
第121号住居跡	I-37	III 47	III 46			
第122号住居跡	G・H-37・38	III 47	III 47 48	III 49	III 図版13 14	III 図版139 182 183
第123号住居跡	G-37・38	III 50	III 50		III 図版15	
第124号住居跡	G・H-38	III 50	III 51	III 52	III 図版16	III 図版139 183
第125号住居跡	G-37・38 H-37	III 52	III 53	III 53	III 図版15	
第126号住居跡	I-35	III 53	III 54	III 54	III 図版16	
第127号住居跡	G-36・37	III 54	III 55 56	III 57	III 図版17 18	III 図版155
第128号住居跡	G-37	III 57	III 58	III 58	III 図版16	III 図版139 155
第129号住居跡	G-36	III 57	III 55 56	III 57	III 図版17	III 図版155
第130号住居跡	G-35・36	III 59	III 60	III 59	III 図版18	III 図版156
第131号住居跡	G-35	III 59	III 61	III 62	III 図版19	III 図版156
第132号住居跡	I・J-36・37	III 62	III 63	III 63	III 図版19	
第133号住居跡	J-36・37	III 62	III 64 65	III 65	III 図版20	
第134号住居跡	I-36・37 J-37	III 65	III 67 68	III 66	III 図版20 21	III 図版139 156 178 183 184
第135号住居跡	I-36 J-36・37	III 68	III 69 70	III 68	III 図版21	
第136号住居跡	欠番					
第137号住居跡	I・J-38	III 70	III 71	III 72	III 図版22 23	III 図版139 184
第138号住居跡	I-37・38	III 70	III 73	III 74	III 図版23 24	III 図版156
第139号住居跡	H・I-38	III 74	III 75	III 74	III 図版24 25	III 図版156 184

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第140号住居跡	J-37・38	Ⅲ76	Ⅲ76	Ⅲ77	Ⅲ図版26 37	Ⅲ図版184 185
第141号住居跡	H・I-37・38	Ⅲ77	Ⅲ77 78	Ⅲ79	Ⅲ図版27	Ⅲ図版156 157 185
第142号住居跡	G-36 H-36・37	Ⅲ79	Ⅲ80	Ⅲ81	Ⅲ図版11 12	Ⅲ図版139 157
第143号住居跡	H・I-36	Ⅲ81	Ⅲ82	Ⅲ81	Ⅲ図版28	Ⅲ図版139 140
第144号住居跡	G-36・37	Ⅲ83	Ⅲ83		Ⅲ図版28	
第145号住居跡	J・K-36	Ⅲ83	Ⅲ84	Ⅲ85	Ⅲ図版29	
第146号住居跡	I-36 J-35・36	Ⅲ85	Ⅲ86 87	Ⅲ85	Ⅲ図版29	Ⅲ図版157
第147号住居跡	I・J-37	Ⅲ87	Ⅲ88	Ⅲ87	Ⅲ図版30	
第148号住居跡	I-35・36	Ⅲ87	Ⅲ89	Ⅲ90	Ⅲ図版31	
第149号住居跡	J-35	Ⅲ90	Ⅲ90		Ⅲ図版30	
第150号住居跡	J-37・38 K-37	Ⅲ91	Ⅲ91	Ⅲ92	Ⅲ図版32	Ⅲ図版157
第151号住居跡	G-36	Ⅲ92	Ⅲ92	Ⅲ92	Ⅲ図版32	
第152号住居跡	G-35	Ⅲ93	Ⅲ61			
第153号住居跡	J-37	Ⅲ93	Ⅲ88	Ⅲ93	Ⅲ図版30	
第154号住居跡	J-37	Ⅲ93	Ⅲ88	Ⅲ93	Ⅲ図版30	
第155号住居跡	J・K-36	Ⅲ94	Ⅲ94		Ⅲ図版29	
第156号住居跡	I-36	Ⅲ94	Ⅲ94	Ⅲ95		
第157号住居跡	I・J-36・37	Ⅲ95	Ⅲ96 97	Ⅲ98	Ⅲ図版33	Ⅲ図版140 157 158 185 186
第158号住居跡	H-37・38	Ⅲ95	Ⅲ99	Ⅲ99	Ⅲ図版34	Ⅲ図版158
第159号住居跡	H-37・38	Ⅲ95	Ⅲ100	Ⅲ101	Ⅲ図版34	
第160号住居跡	H・I-38	Ⅲ101	Ⅲ102 103	Ⅲ101	Ⅲ図版35	Ⅲ図版140 158
第161号住居跡	J・K-37	Ⅲ103	Ⅲ104	Ⅲ103		Ⅲ図版140
第162号住居跡	J-37	Ⅲ103	Ⅲ91	Ⅲ104		
第163号住居跡	欠番					
第164号住居跡	G-34・35 H-35	Ⅲ105	Ⅲ106	Ⅲ105	Ⅲ図版36	Ⅲ図版158
第165号住居跡	J-38	Ⅲ107	Ⅲ107		Ⅲ図版37	
第166号住居跡	J-37	Ⅲ107	Ⅲ107		Ⅲ図版30	
第167号住居跡	H-35	Ⅲ108	Ⅲ108	Ⅲ108		
第168号住居跡	G・H-35	Ⅲ109	Ⅲ110	Ⅲ109		
第169号住居跡	H・I-36	Ⅲ110	Ⅲ110	Ⅲ111	Ⅲ図版37	
第170号住居跡	欠番					
第171号住居跡	H-35	Ⅲ111	Ⅲ108 109	Ⅲ111	Ⅲ図版38	Ⅲ図版158 159
第172号住居跡	G-35・36 H-35	Ⅲ112	Ⅲ112			
第173号住居跡	G・H-32	Ⅲ112	Ⅲ113	Ⅲ114	Ⅲ図版39	Ⅲ図版186
第174号住居跡	H-35	Ⅲ114	Ⅲ115	Ⅲ116	Ⅲ図版38	Ⅲ図版140 159 186 187
第175号住居跡	G-34・35	Ⅲ117	Ⅲ118~120	Ⅲ121 122	Ⅲ図版39~41	Ⅲ図版140 159 187
第176号住居跡	G-34	Ⅲ117	Ⅲ118 119	Ⅲ123	Ⅲ図版39	
第177号住居跡	F・G-34・35	Ⅲ117	Ⅲ118 119	Ⅲ123	Ⅲ図版39 40	Ⅲ図版159 160
第178号住居跡	F・G-34	Ⅲ117	Ⅲ118 119		Ⅲ図版39	
第179号住居跡	G-35	Ⅲ122	Ⅲ118 119		Ⅲ図版39 42	
第180号住居跡	F・G-33・34	Ⅲ123	Ⅲ124 125	Ⅲ126~128	Ⅲ図版42	Ⅲ図版140~142 160 161 187 188
第181号住居跡	F-33・34	Ⅲ129	Ⅲ130	Ⅲ130	Ⅲ図版41 42	Ⅲ図版161
第182号住居跡	F・G-34	Ⅲ129	Ⅲ131	Ⅲ132	Ⅲ図版41 42	
第183号住居跡	F・G-34	Ⅲ129	Ⅲ131	Ⅲ132	Ⅲ図版41 42	
第184号住居跡	G-33	Ⅲ131	Ⅲ124		Ⅲ図版41 42	
第185号住居跡	H-34・35	Ⅲ132	Ⅲ133	Ⅲ132	Ⅲ図版44	
第186号住居跡	G・H-33	Ⅲ133	Ⅲ134 135	Ⅲ136	Ⅲ図版43	Ⅲ図版142 161 162
第187号住居跡	F・G-32・33	Ⅲ135	Ⅲ137 138	Ⅲ138	Ⅲ図版44	Ⅲ図版162
第188号住居跡	F・G-32	Ⅲ138	Ⅲ140 141	Ⅲ142	Ⅲ図版45 46	Ⅲ図版142 162 188
第189号住居跡	F・G-32	Ⅲ139	Ⅲ140 141	Ⅲ143	Ⅲ図版47	Ⅲ図版162 188
第190号住居跡	F-31・32	Ⅲ139	Ⅲ140 141	Ⅲ143	Ⅲ図版45	Ⅲ図版188
第191号住居跡	F-32	Ⅲ139	Ⅲ140 141			
第192号住居跡	H-34・35	Ⅲ141	Ⅲ144			
第193号住居跡	F-33・34	Ⅲ143	Ⅲ131	Ⅲ143	Ⅲ図版41 42	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第194号住居跡	F・G-33	Ⅲ144	Ⅲ137 138	Ⅲ145	Ⅲ図版44	Ⅲ図版142
第195号住居跡	G-32	Ⅲ145	Ⅲ146	Ⅲ145	Ⅲ図版46	
第196号住居跡	G-31・32	Ⅲ146	Ⅲ147	Ⅲ146		Ⅲ図版142
第197号住居跡	I-35	Ⅲ147	Ⅲ148 149	Ⅲ150	Ⅲ図版48	Ⅲ図版162 163 189
第198号住居跡	J-34・35	Ⅲ148	Ⅲ151	Ⅲ151	Ⅲ図版48	Ⅲ図版143
第199号住居跡	I-34	Ⅲ148	Ⅲ152 153	Ⅲ152	Ⅲ図版49	Ⅲ図版143 163
第200号住居跡	H・I-35	Ⅲ154	Ⅲ155	Ⅲ154	Ⅲ図版50 51	Ⅲ図版189
第201号住居跡	J-34・35	Ⅲ156	Ⅲ156	Ⅲ157	Ⅲ図版51 52	Ⅲ図版143 189
第202号住居跡	H・I-34・35	Ⅲ157	Ⅲ158	Ⅲ159	Ⅲ図版52	
第203号住居跡	G-32	Ⅲ159	Ⅲ159	Ⅲ159		
第204号住居跡	欠番					
第205号住居跡	H-34・35 I-34	Ⅲ159	Ⅲ160	Ⅲ161	Ⅲ図版53	Ⅲ図版163 164
第206号住居跡	G・H-32・33	Ⅲ161	Ⅲ162	Ⅲ163	Ⅲ図版54	Ⅲ図版164 165 190
第207号住居跡	G-32・33	Ⅲ161	Ⅲ164	Ⅲ164	Ⅲ図版54	Ⅲ図版190
第208号住居跡	G-34 H-33・34	Ⅲ165	Ⅲ165	Ⅲ166	Ⅲ図版53	Ⅲ図版143 191
第209号住居跡	J-34・35	Ⅲ165	Ⅲ167	Ⅲ157 167	Ⅲ図版55	Ⅲ図版143 165
第210号住居跡	I・J-31	Ⅲ167	Ⅲ168	Ⅲ168	Ⅲ図版56	
第211号住居跡	I-31・32	Ⅲ169	Ⅲ170 171	Ⅲ171 172	Ⅲ図版56 57	Ⅲ図版143 165 191 202
第212号住居跡	G・H-34・35	Ⅲ169	Ⅲ144	Ⅲ172		
第213号住居跡	H-34	Ⅲ169	Ⅲ174 175	Ⅲ172	Ⅲ図版58	
第214号住居跡	H-34	Ⅲ173	Ⅲ174 175	Ⅲ173	Ⅲ図版58	
第215号住居跡	J-34	Ⅲ173	Ⅲ175	Ⅲ176	Ⅲ図版59	Ⅲ図版143 165 191
第216号住居跡	I-31・32	Ⅲ177	Ⅲ177	Ⅲ178	Ⅲ図版56	Ⅲ図版143 165
第217号住居跡	I-32 J-31・32	Ⅲ178	Ⅲ179 180	Ⅲ181	Ⅲ図版60	Ⅲ図版144 166 191
第218号住居跡	H-31	Ⅲ180	Ⅲ182	Ⅲ182	Ⅲ図版61	Ⅲ図版166
第219号住居跡	H-31	Ⅲ180	Ⅲ182		Ⅲ図版61	
第220号住居跡	G・H-31・32	Ⅲ183	Ⅲ184	Ⅲ185	Ⅲ図版62	Ⅲ図版192
第221号住居跡	欠番					
第222号住居跡	G・H-31	Ⅲ184	Ⅲ182 183	Ⅲ186	Ⅲ図版61	Ⅲ図版192
第223号住居跡	F・G-32	Ⅲ185	Ⅲ140 141	Ⅲ187	Ⅲ図版46 63	Ⅲ図版166
第224号住居跡	H・I-32	Ⅲ187	Ⅲ188	Ⅲ189	Ⅲ図版62	Ⅲ図版166
第225号住居跡	H-31・32	Ⅲ187	Ⅲ188	Ⅲ190	Ⅲ図版62	Ⅲ図版144 167 193
第226号住居跡	G・H-33	Ⅲ189	Ⅲ134 135			
第227号住居跡	H-34	Ⅲ189	Ⅲ191	Ⅲ190	Ⅲ図版58 59	
第228号住居跡	欠番					
第229号住居跡	H・I-32	Ⅲ191	Ⅲ192	Ⅲ193	Ⅲ図版64	Ⅲ図版145 167 193
第230号住居跡	H-33・34	Ⅲ191	Ⅲ194 195	Ⅲ193	Ⅲ図版64	
第231号住居跡	H・I-33・34	Ⅲ195	Ⅲ196	Ⅲ195	Ⅲ図版65	Ⅲ図版167
第232号住居跡	I・J-34	Ⅲ195	Ⅲ197 198		Ⅲ図版66	
第233号住居跡	I-34	Ⅲ198	Ⅲ199		Ⅲ図版65	
第234号住居跡	H・I-32・33	Ⅲ198	Ⅲ198 200	Ⅲ201	Ⅲ図版67	Ⅲ図版168 193 194
第235号住居跡	H・I-32・33	Ⅲ203	Ⅲ202	Ⅲ201 203	Ⅲ図版67	
第236号住居跡	H-32・33 I-33	Ⅲ203	Ⅲ204	Ⅲ203	Ⅲ図版67	Ⅲ図版168 194
第237号住居跡	H-35	Ⅲ204	Ⅲ205	Ⅲ205		
第238号住居跡	I-34 J-33・34	Ⅲ205	Ⅲ197 198	Ⅲ205	Ⅲ図版66	Ⅲ図版194
第239号住居跡	I-34	Ⅲ205	Ⅲ199	Ⅲ206	Ⅲ図版67 68	Ⅲ図版145 168 169 194
第240号住居跡	I-35	Ⅲ206	Ⅲ207	Ⅲ207	Ⅲ図版68	Ⅲ図版169
第241号住居跡	H-33	Ⅲ207	Ⅲ208			
第242号住居跡	H-33・34	Ⅲ208	Ⅲ194 195		Ⅲ図版64	
第243号住居跡	H-34	Ⅲ208	Ⅲ194 195	Ⅲ208	Ⅲ図版64	
第244号住居跡	I-32	Ⅲ208	Ⅲ192	Ⅲ209	Ⅲ図版64	Ⅲ図版145
第245号住居跡	I-34	Ⅲ209	Ⅲ209	Ⅲ209	Ⅲ図版69	
第246号住居跡	I-34・35 J-34	Ⅲ209	Ⅲ210	Ⅲ210	Ⅲ図版69	
第247号住居跡	I-32・33	Ⅲ210	Ⅲ211	Ⅲ211	Ⅲ図版70	Ⅲ図版145 169 195
第248号住居跡	I-35	Ⅲ212	Ⅲ212		Ⅲ図版70	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第249号住居跡	I・J-32・33	Ⅲ 212	Ⅲ 213	Ⅲ 212	Ⅲ 図版71	Ⅲ 図版169
第250号住居跡	I-33・34 J-33	Ⅲ 214	Ⅲ 214	Ⅲ 215	Ⅲ 図版72	
第251号住居跡	H・I-33	Ⅲ 215	Ⅲ 216	Ⅲ 215	Ⅲ 図版72	Ⅲ 図版146
第252号住居跡	J-33・34	Ⅲ 217	Ⅲ 197 198	Ⅲ 217		
第253号住居跡	I-33	Ⅲ 218	Ⅲ 217			
第254号住居跡	I-33	Ⅲ 218	Ⅲ 217		Ⅲ 図版73	
第255号住居跡	I・J-33	Ⅲ 218	Ⅲ 218	Ⅲ 219	Ⅲ 図版73	
第256号住居跡	J-33	Ⅲ 219	Ⅲ 218		Ⅲ 図版73	
第257号住居跡	J-32・33	Ⅲ 219	Ⅲ 219			
第258号住居跡	F・G-31	Ⅲ 220	Ⅲ 221	Ⅲ 220	Ⅲ 図版74	Ⅲ 図版169
第259号住居跡	F-29・30	Ⅲ 220	Ⅲ 222 223	Ⅲ 223	Ⅲ 図版75 76	Ⅲ 図版170
第260号住居跡	F・G-29・30	Ⅲ 225	Ⅲ 224 225	Ⅲ 225	Ⅲ 図版77	Ⅲ 図版146
第261号住居跡	F-30	Ⅲ 226	Ⅲ 227	Ⅲ 226	Ⅲ 図版76	Ⅲ 図版146
第262号住居跡	F-31	Ⅲ 226	Ⅲ 228	Ⅲ 228	Ⅲ 図版78	
第263号住居跡	F-31	Ⅲ 228	Ⅲ 228		Ⅲ 図版78	
第264号住居跡	F・G-31・32	Ⅲ 229	Ⅲ 229	Ⅲ 230	Ⅲ 図版78	
第265号住居跡	F・G-30	Ⅲ 230	Ⅲ 231	Ⅲ 230	Ⅲ 図版79	Ⅲ 図版146 195
第266号住居跡	F-29	Ⅲ 231	Ⅲ 232		Ⅲ 図版79	
第267号住居跡	F・G-31・32	Ⅲ 232	Ⅲ 232		Ⅲ 図版78	
第268号住居跡	G-31・32	Ⅲ 232	Ⅲ 232	Ⅲ 232	Ⅲ 図版78	
第269号住居跡	G-31	Ⅲ 233	Ⅲ 233	Ⅲ 233		Ⅲ 図版170
第270号住居跡	F-30	Ⅲ 233	Ⅲ 234	Ⅲ 233	Ⅲ 図版80	
第271号住居跡	F・G-31	Ⅲ 234	Ⅲ 235	Ⅲ 234	Ⅲ 図版74	
第272号住居跡	F-31	Ⅲ 235	Ⅲ 236	Ⅲ 236	Ⅲ 図版80	Ⅲ 図版146 195 196
第273号住居跡	I-29・30	Ⅲ 235	Ⅲ 237	Ⅲ 237	Ⅲ 図版81	
第274号住居跡	I-29・30	Ⅲ 237	Ⅲ 238	Ⅲ 238	Ⅲ 図版82	
第275号住居跡	H-29・30	Ⅲ 239	Ⅲ 239	Ⅲ 240	Ⅲ 図版82	Ⅲ 図版146 170
第276号住居跡	G・H-30	Ⅲ 240	Ⅲ 240	Ⅲ 240	Ⅲ 図版82	
第277号住居跡	H-30	Ⅲ 241	Ⅲ 241	Ⅲ 241	Ⅲ 図版83	
第278号住居跡	H・I-30	Ⅲ 241	Ⅲ 242	Ⅲ 243	Ⅲ 図版84	Ⅲ 図版146
第279号住居跡	I-30・31 J-30	Ⅲ 241	Ⅲ 244	Ⅲ 245	Ⅲ 図版83	Ⅲ 図版170 196
第280号住居跡	H-29・30	Ⅲ 245	Ⅲ 246	Ⅲ 247	Ⅲ 図版85	Ⅲ 図版147 171 196
第281号住居跡	F・G-29・30	Ⅲ 247	Ⅲ 248	Ⅲ 249	Ⅲ 図版86	
第282号住居跡	F・G-30	Ⅲ 249	Ⅲ 249	Ⅲ 250	Ⅲ 図版86	Ⅲ 図版147 171
第283号住居跡	H-30	Ⅲ 250	Ⅲ 251	Ⅲ 252	Ⅲ 図版87	Ⅲ 図版171
第284号住居跡	F-29・30	Ⅲ 252	Ⅲ 253	Ⅲ 252	Ⅲ 図版88	
第285号住居跡	G-31	Ⅲ 253	Ⅲ 254	Ⅲ 254	Ⅲ 図版88	Ⅲ 図版171
第286号住居跡	F-30	Ⅲ 254	Ⅲ 254	Ⅲ 255		
第287号住居跡	G・H-30	Ⅲ 255	Ⅲ 256	Ⅲ 257	Ⅲ 図版87	Ⅲ 図版171 172
第288号住居跡	G・H-30・31	Ⅲ 255	Ⅲ 258	Ⅲ 257	Ⅲ 図版87	
第289号住居跡	H-30・31	Ⅲ 258	Ⅲ 259	Ⅲ 259	Ⅲ 図版89	Ⅲ 図版147
第290号住居跡	F・G-30・31	Ⅲ 259	Ⅲ 260 261	Ⅲ 261	Ⅲ 図版90	Ⅲ 図版147 196
第291号住居跡	G-39・40	Ⅲ 262	Ⅲ 262	Ⅲ 262	Ⅲ 図版91	Ⅲ 図版172
第292号住居跡	G・H-38・39	Ⅲ 263	Ⅲ 264	Ⅲ 263	Ⅲ 図版92	Ⅲ 図版147 172
第293号住居跡	G-40	Ⅲ 265	Ⅲ 265	Ⅲ 265	Ⅲ 図版92	Ⅲ 図版172
第294号住居跡	G・H-40・41	Ⅲ 267	Ⅲ 266 267	Ⅲ 268	Ⅲ 図版93	Ⅲ 図版147
第295号住居跡	I・J-39	Ⅲ 268	Ⅲ 268 269	Ⅲ 270	Ⅲ 図版93 94	Ⅲ 図版147 148 172 197
第296号住居跡	H・I-38・39	Ⅲ 271	Ⅲ 271 272	Ⅲ 272	Ⅲ 図版94	Ⅲ 図版148
第297号住居跡	H・I-39	Ⅲ 272	Ⅲ 273	Ⅲ 274	Ⅲ 図版94	
第298号住居跡	H・I-39・40	Ⅲ 274	Ⅲ 275 276	Ⅲ 277 278	Ⅲ 図版95 96	Ⅲ 図版148 173 198 199
第299号住居跡	G-38・39	Ⅲ 278	Ⅲ 279	Ⅲ 278	Ⅲ 図版96	Ⅲ 図版148
第300号住居跡	H-30・31 I-31	Ⅲ 279	Ⅲ 280	Ⅲ 279	Ⅲ 図版97	
第301号住居跡	H-40	Ⅲ 280	Ⅲ 281			
第302号住居跡	G・H-39	Ⅲ 281	Ⅲ 282	Ⅲ 281	Ⅲ 図版97 98	Ⅲ 図版148
第303号住居跡	H-40・41	Ⅲ 283	Ⅲ 266 267		Ⅲ 図版98 99	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第304号住居跡	G・H-41	Ⅲ283	Ⅲ283	Ⅲ284	Ⅲ図版100	
第305号住居跡	H-41	Ⅲ284	Ⅲ266 267	Ⅲ284	Ⅲ図版100	
第306号住居跡	H-40・41 I-40	Ⅲ284	Ⅲ285	Ⅲ286	Ⅲ図版101	
第307号住居跡	I-39・40	Ⅲ286	Ⅲ287	Ⅲ286	Ⅲ図版102	
第308号住居跡	I・J-39	Ⅲ288	Ⅲ288	Ⅲ288	Ⅲ図版101	
第309号住居跡	I-40・41	Ⅲ289	Ⅲ289	Ⅲ290	Ⅲ図版103	Ⅲ図版149 173 174
第310号住居跡	I-40	Ⅲ290	Ⅲ291	Ⅲ290	Ⅲ図版103	
第311号住居跡	I-38・39	Ⅲ291	Ⅲ292	Ⅲ291	Ⅲ図版103	
第312号住居跡	G-39 H-39・40	Ⅲ291	Ⅲ282	Ⅲ293	Ⅲ図版97	
第313号住居跡	H-39	Ⅲ293	Ⅲ282		Ⅲ図版97	
第314号住居跡	H・I-41	Ⅲ293	Ⅲ294	Ⅲ294	Ⅲ図版104	Ⅲ図版174
第315号住居跡	H-40	Ⅲ294	Ⅲ295	Ⅲ295	Ⅲ図版104 105	
第316号住居跡	G・H-38	Ⅲ295	Ⅲ296	Ⅲ297	Ⅲ図版106	Ⅲ図版174 199
第317号住居跡	H・I-40・41	Ⅲ297	Ⅲ298		Ⅲ図版107	
第318号住居跡	H-40	Ⅲ299	Ⅲ299 300	Ⅲ300	Ⅲ図版105	Ⅲ図版149 199 200
第319号住居跡	G-41 H-40・41	Ⅲ301	Ⅲ302		Ⅲ図版107	
第320号住居跡	G・H-39・40	Ⅲ301	Ⅲ303 304	Ⅲ301	Ⅲ図版108 109	
第321号住居跡	H-38	Ⅲ304	Ⅲ305	Ⅲ304	Ⅲ図版109	
第322号住居跡	H・I-38	Ⅲ305	Ⅲ102 103	Ⅲ306	Ⅲ図版110 111	Ⅲ図版149 174 200
第323号住居跡	H-38・39	Ⅲ307	Ⅲ307	Ⅲ307	Ⅲ図版111	
第324号住居跡	K-28	Ⅳ59	Ⅳ59	Ⅳ60	Ⅳ図版16	
第325号住居跡	K-30・31	Ⅳ60	Ⅳ61 62	Ⅳ63	Ⅳ図版16	
第326号住居跡	K・L-28	Ⅳ63	Ⅳ64	Ⅳ65	Ⅳ図版16	
第327号住居跡	L-31	Ⅳ65	Ⅳ65		Ⅳ図版16	
第328号住居跡	N-31	Ⅳ66	Ⅳ66	Ⅳ66	Ⅳ図版16	
第329号住居跡	欠番					
第330号住居跡	N-32	Ⅳ67	Ⅳ66	Ⅳ67	Ⅳ図版16 17	Ⅳ図版65
第331号住居跡	O-32	Ⅳ68	Ⅳ68	Ⅳ68	Ⅳ図版17	Ⅳ図版65 86 104
第332号住居跡	N・O-33	Ⅳ68	Ⅳ69	Ⅳ69	Ⅳ図版17	
第333号住居跡	O-33	Ⅳ71	Ⅳ70~72	Ⅳ73	Ⅳ図版18	Ⅳ図版65 86
第334号住居跡	L・M-33	Ⅳ73	Ⅳ74	Ⅳ73	Ⅳ図版18	Ⅳ図版65
第335号住居跡	M-33	Ⅳ74	Ⅳ74		Ⅳ図版18	
第336号住居跡	O-32・33	Ⅳ75	Ⅳ75	Ⅳ76	Ⅳ図版19	
第337号住居跡	O-32	Ⅳ76	Ⅳ75		Ⅳ図版19	
第338号住居跡	O・P-33	Ⅳ76	Ⅳ76	Ⅳ76	Ⅳ図版19	
第339号住居跡	N-32	Ⅳ77	Ⅳ77	Ⅳ77	Ⅳ図版19	
第340号住居跡	O・P-33・34	Ⅳ77	Ⅳ78 79	Ⅳ80	Ⅳ図版19 20	Ⅳ図版65 86
第341号住居跡	O・P-33	Ⅳ81	Ⅳ81		Ⅳ図版20	
第342号住居跡	O・P-33	Ⅳ81	Ⅳ82	Ⅳ81	Ⅳ図版20	
第343号住居跡	K・L-32・33	Ⅳ84	Ⅳ83	Ⅳ84	Ⅳ図版21	Ⅳ図版86 87
第344号住居跡	M・N-33	Ⅳ86	Ⅳ84 85	Ⅳ86	Ⅳ図版21 22	Ⅳ図版66 87
第345号住居跡	L・M-34	Ⅳ86	Ⅳ87	Ⅳ88	Ⅳ図版22	Ⅳ図版87 104
第346号住居跡	N-34	Ⅳ88	Ⅳ89	Ⅳ90	Ⅳ図版22	Ⅳ図版66 87 104
第347号住居跡	N-34	Ⅳ90	Ⅳ91	Ⅳ92	Ⅳ図版22	
第348号住居跡	O-34・35	Ⅳ92	Ⅳ93 94	Ⅳ94	Ⅳ図版23	Ⅳ図版66 87
第349号住居跡	M-33	Ⅳ92	Ⅳ95			
第350号住居跡	M-33・34	Ⅳ94	Ⅳ95	Ⅳ96	Ⅳ図版23	Ⅳ図版66 87
第351号住居跡	M-33	Ⅳ97	Ⅳ97	Ⅳ98	Ⅳ図版21 23	Ⅳ図版66
第352号住居跡	M・N-34	Ⅳ98	Ⅳ98		Ⅳ図版24	
第353号住居跡	L・M-34	Ⅳ99	Ⅳ99	Ⅳ100	Ⅳ図版24	
第354号住居跡	欠番					
第355号住居跡	N-34	Ⅳ100	Ⅳ100		Ⅳ図版24	
第356号住居跡	O-33・34	Ⅳ101	Ⅳ101			
第357号住居跡	N・O-35	Ⅳ102	Ⅳ102	Ⅳ103	Ⅳ図版24	Ⅳ図版66
第358号住居跡	M・N-33	Ⅳ103	Ⅳ104	Ⅳ105	Ⅳ図版21	
第359号住居跡	M・N-33・34	Ⅳ105	Ⅳ105	Ⅳ105	Ⅳ図版21 24	
第360号住居跡	N・O-33・34	Ⅳ107	Ⅳ106	Ⅳ107	Ⅳ図版24	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第361号住居跡	O-34	IV 107	IV 108	IV 107	IV 図版24	IV 図版66
第362号住居跡	N-34	IV 110	IV 108 109	IV 110	IV 図版24	
第363号住居跡	K・L-34	IV 110	IV 111 112	IV 113 114	IV 図版25	IV 図版67 88 104 105
第364号住居跡	N-33・34	IV 114	IV 115~117	IV 118	IV 図版26	IV 図版67 88 106
第365号住居跡	N-34・35	IV 118	IV 119 120	IV 120 121	IV 図版26	IV 図版67 106
第366号住居跡	O-34・35	IV 121	IV 122 123	IV 123	IV 図版27	
第367号住居跡	N・O-33	IV 123	IV 124 125	IV 126	IV 図版27	IV 図版68 89 106
第368号住居跡	M・N-34	IV 125	IV 127	IV 128	IV 図版27	
第369号住居跡	K・L-35	IV 128	IV 128		IV 図版28	
第370号住居跡	N-33・34	IV 129	IV 108 109	IV 129		IV 図版68 89
第371号住居跡	L-35	IV 130	IV 130	IV 130	IV 図版28	IV 図版89
第372号住居跡	L・M-35	IV 131	IV 131	IV 131	IV 図版28	IV 図版68
第373号住居跡	O・P-34・35	IV 132	IV 132	IV 132	IV 図版28	IV 図版107
第374号住居跡	P-34・35	IV 133	IV 133		IV 図版28	
第375号住居跡	O-35	IV 133	IV 134	IV 135	IV 図版28	IV 図版68 90
第376号住居跡	N-35	IV 135	IV 136~139	IV 140 141	IV 図版29	IV 図版68 69 90 107
第377号住居跡	M・N-34・35	IV 141	IV 142 143	IV 143		IV 図版69 107
第378号住居跡	M-34・35	IV 144	IV 144		IV 図版29	
第379号住居跡	P-35	IV 144	IV 133		IV 図版28	
第380号住居跡	M-35・36	IV 145	IV 145	IV 146	IV 図版29	IV 図版90
第381号住居跡	M-35・36	IV 146	IV 147	IV 148	IV 図版29	IV 図版69 90
第382号住居跡	L-35・36 M-35	IV 149	IV 149	IV 149	IV 図版29	IV 図版69
第383号住居跡	L・M-35・36	IV 149	IV 150	IV 150	IV 図版29	IV 図版69
第384号住居跡	P-35	IV 151	IV 151	IV 152	IV 図版30	IV 図版70 107
第385号住居跡	M-34・35	IV 151	IV 144	IV 152	IV 図版29	IV 図版70 108
第386号住居跡	K-36	IV 152	IV 153	IV 153	IV 図版30	
第387号住居跡	M-35・36	IV 153	IV 150		IV 図版29	
第388号住居跡	L-36	IV 153	IV 154	IV 153	IV 図版30	
第389号住居跡	N-34・35 O-35	IV 154	IV 155 156	IV 156	IV 図版30	
第390号住居跡	O-34	IV 156	IV 157	IV 157	IV 図版30	
第391号住居跡	N-34	IV 157	IV 119 120	IV 157	IV 図版30	
第392号住居跡	Q・R-45	IV 158	IV 158	IV 158	IV 図版31	
第393号住居跡	Q-42・43	IV 159	IV 159	IV 159		IV 図版90
第394号住居跡	Q-43・44	IV 160	IV 160	IV 160	IV 図版31	IV 図版108
第395号住居跡	Q-44	IV 162	IV 161	IV 162	IV 図版31	
第396号住居跡	Q-43・44	IV 162	IV 161	IV 163	IV 図版31	IV 図版70
第397号住居跡	Q-44・45	IV 163	IV 164	IV 165	IV 図版31	IV 図版70 108
第398号住居跡	N-47・48	IV 166	IV 165	IV 166	IV 図版31	IV 図版90
第399号住居跡	N・O-48	IV 167	IV 166	IV 167	IV 図版31	IV 図版71
第400号住居跡	O-47・48	IV 169	IV 168~170	IV 171	IV 図版32	IV 図版71 91 108 119
第401号住居跡	P-45	IV 172	IV 172		IV 図版33	
第402号住居跡	P-47	IV 172	IV 173	IV 174	IV 図版33	
第403号住居跡	O・P-47	IV 174	IV 174	IV 174	IV 図版33	IV 図版71
第404号住居跡	Q-47・48 R-47	IV 176	IV 175	IV 176	IV 図版33	IV 図版71 91
第405号住居跡	Q・R-46・47	IV 177	IV 178 179	IV 177	IV 図版33	
第406号住居跡	P-47 Q-47・48 R-47	IV 179	IV 180 181	IV 182 183	IV 図版34	IV 図版71 72 91 109
第407号住居跡	O・P-46・47	IV 183	IV 184	IV 185	IV 図版34	IV 図版91
第408号住居跡	O・P-46	IV 185	IV 184		IV 図版34	
第409号住居跡	O・P-46	IV 185	IV 186		IV 図版34	
第410号住居跡	O・P-46	IV 185	IV 186		IV 図版34	
第411号住居跡	O・P-46	IV 187	IV 187	IV 187	IV 図版34	IV 図版109
第412号住居跡	Q-45・46	IV 188	IV 188	IV 189	IV 図版35	
第413号住居跡	Q-45・46	IV 189	IV 188	IV 189	IV 図版35	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第414号住居跡	P・Q-46・47	IV 189	IV 190 191	IV 191	IV 図版35	IV 図版72 109
第415号住居跡	Q-46	IV 192	IV 190 191	IV 192	IV 図版35	
第416号住居跡	Q-46	IV 192	IV 193	IV 192	IV 図版35	
第417号住居跡	Q・R-46	IV 192	IV 193	IV 193	IV 図版35	
第418号住居跡	Q-48	IV 193	IV 194	IV 194	IV 図版35	
第419号住居跡	P・Q-48	IV 194	IV 195	IV 194		
第420号住居跡	P・Q-48	IV 195	IV 195	IV 196	IV 図版35	IV 図版109
第421号住居跡	Q-46	IV 196	IV 193			
第422号住居跡	Q-44・45	IV 197	IV 164	IV 196	IV 図版35	IV 図版72
第423号住居跡	Q-47	IV 197	IV 197	IV 197	IV 図版35	

掘立柱建物跡

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号掘立柱建物跡	C・D-15・16	I 91	I 94	I 95	I 図版15	I 図版35
第2号掘立柱建物跡	C～E-14・15	I 91	I 96～100	I 101～103	I 図版14	I 図版35 36 61
第3号掘立柱建物跡	C・D-16・17	I 95	I 105		I 図版15	
第4号掘立柱建物跡	C-16・17	I 95	I 106	I 106	I 図版15	
第5号掘立柱建物跡	D-15～17 E-16・17	I 99	I 107 108	I 108	I 図版15	I 図版101
第6号掘立柱建物跡	E・F-15～17	I 106	I 110～113	I 114 115	I 図版15	I 図版101
第7号掘立柱建物跡	D・E-15～17	I 109	I 116 117	I 118	I 図版15	I 図版36
第8号掘立柱建物跡	E-17・18	I 109	I 119	I 118	I 図版15	
第9号掘立柱建物跡	D・E-6・7 F-7	I 109	I 120 121	I 118	I 図版15	I 図版37
第10号掘立柱建物跡	D-6・7 E・F-7	I 121	I 122 123	I 123		
第11号掘立柱建物跡	C-9・10	I 122	I 126	I 125	I 図版15	
第12号掘立柱建物跡	E-8・9 F-7～9	I 123	I 124 125	I 124	I 図版15	I 図版37
第13号掘立柱建物跡	C-10	I 126	I 127		I 図版16	
第14号掘立柱建物跡	D-11・12	I 127	I 128		I 図版16	
第15号掘立柱建物跡	E・F-10	I 128	I 129			
第16号掘立柱建物跡	D-11・12 E-11	I 128	I 130 131	I 129	I 図版16	
第17号掘立柱建物跡	D・E-11	I 130	I 132		I 図版16	
第18号掘立柱建物跡	F-15・16 G-15	I 131	I 133	I 132	I 図版16	I 図版77
第19号掘立柱建物跡	C-13・14	I 131	I 134		I 図版16	
第20号掘立柱建物跡	F・G-18	I 131	I 135			
第21号掘立柱建物跡	G-17・18	I 132	I 136	I 136	I 図版16	
第22号掘立柱建物跡	H・I-12～14 J-13・14	II 45	II 46～49	II 56	II 図版5	
第23号掘立柱建物跡	I・J-16・17	II 45	II 50 51	II 56	II 図版5	II 図版13
第24号掘立柱建物跡	J・K-14	II 45	II 52	II 56	II 図版5	
第25号掘立柱建物跡	J-14・15	II 45	II 53	II 57	II 図版5	
第26号掘立柱建物跡	H-13	II 57	II 54	II 57	II 図版5	
第27号掘立柱建物跡	I・J-16	II 57	II 55	II 58	II 図版5	II 図版13
第28号掘立柱建物跡	E・F-20・21	II 286	II 287	II 287	II 図版83	
第29号掘立柱建物跡	E-23・24 F-24	II 286	II 288	II 288	II 図版83	
第30号掘立柱建物跡	F・G-23・24	II 286	II 289	II 289	II 図版84	
第31号掘立柱建物跡	L-20	II 288	II 290	II 290	II 図版85	
第32号掘立柱建物跡	J・K-19・20	II 290	II 292 293	II 291	II 図版85 86	II 図版163
第33号掘立柱建物跡	J-18 K-18・19	II 295	II 294	II 295	II 図版86	
第34号掘立柱建物跡	H-25	II 296	II 295			
第35号掘立柱建物跡	欠番					
第36号掘立柱建物跡	H-24・25	II 296	II 296			
第37号掘立柱建物跡	G・H-19	II 297	II 297	II 297	II 図版87	
第38号掘立柱建物跡	G・H-19	II 298	II 298		II 図版87	
第39号掘立柱建物跡	欠番					
第40号掘立柱建物跡	F・G-22	II 299	II 299			
第41号掘立柱建物跡	E-20～22 F-21	II 299	II 300 301	II 301	II 図版87	
第42号掘立柱建物跡	欠番					

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第43号掘立柱建物跡	G-22 H-21・22	II 301	II 302	II 302	II 図版88	
第44号掘立柱建物跡	欠番					
第45号掘立柱建物跡	F・G-26	II 302	II 303		II 図版88	
第46号掘立柱建物跡	E-24・25	II 303	II 304		II 図版89	
第47号掘立柱建物跡	E-25	II 303	II 305	II 304		
第48号掘立柱建物跡	欠番					
第49号掘立柱建物跡	M-23	II 304	II 305		II 図版89	
第50号掘立柱建物跡	I-37	III 335	III 336		III 図版112	
第51号掘立柱建物跡	I-28・29	III 335	III 337	III 337	III 図版112	
第52号掘立柱建物跡	M・N-27・28	IV 210	IV 210		IV 図版36	
第53号掘立柱建物跡	M-33・34	IV 211	IV 211	IV 212	IV 図版36	
第54号掘立柱建物跡	P-45・46 Q-46	IV 212	IV 213		IV 図版36	

柱穴列

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号柱穴列	H・I-23	II 306	II 308			
第2号柱穴列	I-23	II 306	II 308			
第3号柱穴列	I-24・25	II 306	II 308			
第4号柱穴列	H-25・26	II 306	II 308			
第5号柱穴列	G-21・22	II 309	II 308		II 図版90	
第6号柱穴列	F-21	II 309	II 307			
第7号柱穴列	F-21・22	II 309	II 307			
第8号柱穴列	N-23	II 309	II 307			
第9号柱穴列	M-23	II 309	II 307			

井戸跡

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号井戸跡	D-18	I 137	I 140	141		I 図版78
第2号井戸跡	D-17	I 137	I 140	142~149	I 図版17	I 図版37 38 86 101 102 I 図版38
第3号井戸跡	D-17	I 150	I 140	141	I 図版17	I 図版38
第4号井戸跡	C-15	I 150	I 140	141		
第5号井戸跡	D-14	I 150	I 140	141	I 図版17	I 図版38
第6号井戸跡	D-14	I 150	I 140	141	I 図版17	
第7号井戸跡	C・D-14	I 150	I 151	152~162	I 図版17	I 図版38 77 103~ 107
第8号井戸跡	D-13・14	I 163	I 151	152	I 図版18	
第9号井戸跡	D-13	I 163	I 151		I 図版18	
第10号井戸跡	C-12・13	I 163		152		I 図版77 107
第11号井戸跡	D-13	I 163	I 151		I 図版18	
第12号井戸跡	D-12・13	I 163	I 151	152		
第13号井戸跡	D・E-13	I 166	I 164	165		I 図版38
第14号井戸跡	D-12・13	I 166	I 164	165		
第15号井戸跡	C-12	I 166	I 164		I 図版18	
第16号井戸跡	C-13	I 166	I 164			
第17号井戸跡	C-12	I 166	I 164	165	I 図版18	
第18号井戸跡	D-12	I 166	I 164			
第19号井戸跡	E-17	I 166	I 164		I 図版18	
第20号井戸跡	E-18	I 166	I 167	165	I 図版18	I 図版38
第21号井戸跡	D-18	I 169	I 167	168	I 図版18	I 図版39 107
第22号井戸跡	E-17	I 169	I 167	168	I 図版19	
第23号井戸跡	E-17	I 169	I 167		I 図版19	
第24号井戸跡	E-17・18	I 169	I 167	168	I 図版18	
第25号井戸跡	E-16	I 169	I 167		I 図版19	
第26号井戸跡	C・D-15	I 169	I 167	168	I 図版19	
第27号井戸跡	D-15	I 169	I 171		I 図版19	
第28号井戸跡	C-14	I 170	I 171	173	I 図版19	I 図版107

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第29号井戸跡	C-15	I 170	I 171	I 173	I 図版19	I 図版107
第30号井戸跡	D-15	I 170	I 171			
第31号井戸跡	E-15	I 170	I 171	I 173	I 図版19	
第32号井戸跡	E-15	I 170	I 171		I 図版20	
第33号井戸跡	E-15	I 170	I 171	I 173	I 図版20	I 図版107
第34号井戸跡	E-14	I 170	I 171	I 173	I 図版20	I 図版107
第35号井戸跡	E-13	I 170	I 172		I 図版20	
第36号井戸跡	C-10・11	I 170	I 172	I 173		
第37号井戸跡	C-12	I 172		I 173		
第38号井戸跡	C-12	I 174				
第39号井戸跡	C・D-11	I 174	I 172			I 図版81
第40号井戸跡	C-10	I 174	I 172		I 図版20	
第41号井戸跡	C-10	I 174	I 172			
第42号井戸跡	C-9	I 174	I 172			
第43号井戸跡	D-13	I 174	I 172	I 173	I 図版20	
第44号井戸跡	B・C-9	I 174	I 177	I 173		
第45号井戸跡	C-8・9	I 175	I 177	I 173		
第46号井戸跡	B-8・9	I 175	I 177	I 173		
第47号井戸跡	E-11	I 175	I 177	I 180		
第48号井戸跡	D-10	I 175	I 177			
第49号井戸跡	B-10	I 175	I 177			
第50号井戸跡	D-9	I 175	I 178	I 180		
第51号井戸跡	E-10	I 175	I 178			
第52号井戸跡	F-11	I 175	I 178	I 180		I 図版39
第53号井戸跡	F-10	I 175	I 178	I 180		
第54号井戸跡	F-8	I 176	I 178	I 180		
第55号井戸跡	D・E-6	I 176	I 178		I 図版20	
第56号井戸跡	D-7	I 176	I 178	I 180		
第57号井戸跡	C-10	I 176		I 180		
第58号井戸跡	F-7	I 176	I 178	I 180	I 図版20	
第59号井戸跡	B-6	I 176	I 179	I 180	I 図版21	I 図版77
第60号井戸跡	E-7	I 176	I 179			
第61号井戸跡	C-10	I 176	I 179	I 180		I 図版68
第62号井戸跡	F-11	I 181	I 179			
第63号井戸跡	F-12	I 181	I 179	I 180	I 図版21	I 図版39
第64号井戸跡	F-13	I 181	I 179	I 180	I 図版21	
第65号井戸跡	F-13	I 181	I 179		I 図版21	
第66号井戸跡	F-13	I 181	I 179	I 180	I 図版21	I 図版39
第67号井戸跡	F-13・14	I 181	I 179	I 185	I 図版21	
第68号井戸跡	G-17	I 181	I 183	I 185	I 図版21	
第69号井戸跡	G-17	I 181	I 183	I 185		
第70号井戸跡	G-17	I 182	I 183	I 185		
第71号井戸跡	G-14	I 182	I 183	I 185	I 図版21	
第72号井戸跡	G-15	I 182	I 183	I 185		
第73号井戸跡	G-15	I 182	I 183	I 185		I 図版108
第74号井戸跡	F-14	I 182	I 183			
第75号井戸跡	G-16・17	I 182	I 183			
第76号井戸跡	F-16	I 182	I 183			
第77号井戸跡	G-16	I 182	I 184			
第78号井戸跡	G-16	I 184	I 184	I 185		I 図版77
第79号井戸跡	F-16	I 187	I 184	I 185		I 図版39
第80号井戸跡	F-16	I 187	I 184	I 185		
第81号井戸跡	F-14・15	I 187	I 184	I 185		
第82号井戸跡	D-12	I 187	I 184	I 186		I 図版61 62 68 108
第83号井戸跡	G-13	I 187	I 184	I 185		
第84号井戸跡	J-5	II 59	II 65			

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第85号井戸跡	J-12・13	II 59	II 65	II 66	II 図版6	II 図版13
第86号井戸跡	H-10	II 59	II 65	II 66	II 図版6	II 図版13
第87号井戸跡	H-10	II 59	II 65	II 66		II 図版13
第88号井戸跡	H-13	II 59	II 65	II 66		
第89号井戸跡	I-12	II 59	II 65	II 66		II 図版13
第90号井戸跡	H-14	II 59	II 65	II 67		
第91号井戸跡	I-13	II 59	II 65	II 67	II 図版6	II 図版14
第92号井戸跡	I-14	II 68	II 65	II 67		II 図版14
第93号井戸跡	I-14	II 68	II 65	II 72		
第94号井戸跡	J-11	II 68	II 70	II 72		
第95号井戸跡	I-13	II 68	II 70	II 71	II 図版6	II 図版14 15
第96号井戸跡	I-14・15	II 68	II 70			
第97号井戸跡	I-14	II 68	II 70	II 72		
第98号井戸跡	I-15	II 68	II 70	II 72		II 図版16
第99号井戸跡	J-12	II 68	II 70	II 72		
第100号井戸跡	K・J-15	II 68	II 70	II 72	II 図版6	II 図版16
第101号井戸跡	J-15	II 69	II 70			
第102号井戸跡	J・K-16	II 69	II 70	II 72		
第103号井戸跡	I-15	II 69	II 70	II 73 74 75	II 図版6	II 図版17~19
第104号井戸跡	J-17	II 69	II 78	II 73		
第105号井戸跡	J-17	II 69	II 78			
第106号井戸跡	I・J-16	II 69	II 78	II 73		
第107号井戸跡	I・J-16	II 69	II 78	II 73	II 図版6	
第108号井戸跡	I-16	II 76	II 78	II 73		
第109号井戸跡	I-13	II 76	II 78	II 73		
第110号井戸跡	I-13	II 76	II 78	II 81		
第111号井戸跡	I-13	II 76	II 78			
第112号井戸跡	I-13	II 76	II 78			
第113号井戸跡	I-13	II 76	II 79			
第114号井戸跡	J-15	II 76	II 79	II 81		II 図版20
第115号井戸跡	I-17	II 76	II 79	II 82	II 図版7	II 図版17 19 20
第116号井戸跡	J-17	II 76	II 79	II 81	II 図版7	
第117号井戸跡	I-14	II 76	II 79	II 81		
第118号井戸跡	J-14	II 77	II 79			
第119号井戸跡	H-15	II 77	II 79			
第120号井戸跡	I-17	II 77	II 79		II 図版7	
第121号井戸跡	I-17	II 77	II 79	II 81	II 図版7	II 図版20
第122号井戸跡	I-17	II 77	II 79			
第123号井戸跡	J-17	II 77	II 80		II 図版7	
第124号井戸跡	I-14	II 77	II 80			
第125号井戸跡	K-11・12	II 77	II 80	II 81		
第126号井戸跡	I-17	II 77	II 80		II 図版7	
第127号井戸跡	I-17	II 77	II 80			
第128号井戸跡	K-17	II 80	II 80	II 81		II 図版20
第129号井戸跡	H-8	II 80	II 80			
第130号井戸跡	I-16	II 85	II 80	II 81		
第131号井戸跡	I-10・11	II 85	II 80	II 81		
第132号井戸跡	F-19	II 310	II 315		II 図版90	
第133号井戸跡	E-23	II 310	II 315	II 317		
第134号井戸跡	H-22	II 310	II 315		II 図版90	
第135号井戸跡	G・H-20・21	II 314	II 315	II 317	II 図版90	
第136号井戸跡	G-20	II 314	II 315	II 317	II 図版90	
第137号井戸跡	E・F-22	II 314	II 316	II 317	II 図版90	II 図版164
第138号井戸跡	H-21	II 314	II 316	II 317	II 図版90	II 図版164
第139号井戸跡	F-22・23	II 314	II 316	II 317	II 図版90	
第140号井戸跡	F-21	II 314	II 316	II 317	II 図版91	
第141号井戸跡	F-20	II 314	II 316	II 317	II 図版91	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第142号井戸跡	F-22・23	II 318	II 319	II 317	II 図版91	
第143号井戸跡	F-20	II 318	II 319	II 317	II 図版91	
第144号井戸跡	E・F-21	II 318	II 319	II 317	II 図版91	
第145号井戸跡	F・G-24	II 318	II 319	II 321	II 図版91	
第146号井戸跡	G-21	II 318	II 319	II 321	II 図版91	
第147号井戸跡	E-23	II 318	II 319	II 321	II 図版91	II 図版164
第148号井戸跡	K-18	II 322	II 320	II 321	II 図版92	II 図版164
第149号井戸跡	I-18	II 322	II 320		II 図版92	
第150号井戸跡	K-18	II 322	II 320		II 図版92	
第151号井戸跡	L-18	II 322	II 320	II 321	II 図版92	
第152号井戸跡	J-18	II 322	II 320	II 321	II 図版92	
第153号井戸跡	L-18	II 322	II 320		II 図版92	
第154号井戸跡	M-18	II 323	II 320	II 321	II 図版92	II 図版164
第155号井戸跡	I-19・20	II 323	II 324	II 328	II 図版93	II 図版164
第156号井戸跡	I-20	II 323	II 324	II 328	II 図版93	
第157号井戸跡	J-20	II 323	II 324	II 328	II 図版93	
第158号井戸跡	I・J-20	II 323	II 324	II 328	II 図版93	
第159号井戸跡	J-20	II 323	II 324		II 図版93	
第160号井戸跡	K-19	II 323	II 324	II 328	II 図版93	
第161号井戸跡	J-18	II 323	II 324		II 図版93	
第162号井戸跡	I-20	II 325			II 図版93	
第163号井戸跡	J-18	II 325	II 324	II 328	II 図版94	
第164号井戸跡	K-20	II 325	II 326	II 328 329	II 図版94	II 図版164
第165号井戸跡	J-20	II 325	II 326		II 図版94	
第166号井戸跡	I-19	II 325	II 326	II 329	II 図版94	
第167号井戸跡	L-20	II 325	II 326	II 329	II 図版94	
第168号井戸跡	K-20	II 325	II 326	II 329		
第169号井戸跡	K-20	II 327	II 326		II 図版94	
第170号井戸跡	J-22	II 327	II 327	II 329	II 図版94	II 図版165
第171号井戸跡	K-23	II 330	II 327	II 329	II 図版94	II 図版165
第172号井戸跡	J-18	II 330	II 327		II 図版95	
第173号井戸跡	I・J-21	II 330	II 327		II 図版95	
第174号井戸跡	J-22・23	II 330	II 327	II 329	II 図版95	
第175号井戸跡	K-20	II 330	II 331	II 333	II 図版95	II 図版165
第176号井戸跡	K-20	II 330	II 331		II 図版95	
第177号井戸跡	J-19	II 331	II 331			
第178号井戸跡	L-21	II 331	II 331	II 333		
第179号井戸跡	L-23	II 331			II 図版95	
第180号井戸跡	L-22	II 331	II 331	II 333		II 図版165
第181号井戸跡	H-26	II 332	II 332	II 333 334	II 図版95	
第182号井戸跡	E・F-27	II 332	II 332			
第183号井戸跡	E・F-27	II 335	II 332	II 333	II 図版96	
第184号井戸跡	H-24・25	II 335	II 336 337	II 338~342	II 図版96	II 図版165~167
第185号井戸跡	H-24	II 335	II 343	II 342	II 図版96	
第186号井戸跡	H-24	II 335	II 343	II 342	II 図版96	
第187号井戸跡	E・F-27	II 335	II 343	II 342	II 図版96	
第188号井戸跡	H・I-25	II 336	II 343	II 342	II 図版96	II 図版167
第189号井戸跡	H-24	II 336	II 343	II 342	II 図版97	
第190号井戸跡	H-24	II 337	II 343	II 345	II 図版97	
第191号井戸跡	H-25	II 337	II 343	II 345	II 図版97	II 図版167 168
第192号井戸跡	H-23・24	II 344	II 343	II 345	II 図版97	
第193号井戸跡	H-24	II 344	II 346		II 図版97	
第194号井戸跡	E-21	II 344	II 346	II 345	II 図版97	
第195号井戸跡	E・F-22	II 344	II 346	II 345	II 図版97	II 図版167
第196号井戸跡	F-22	II 344	II 346	II 349	II 図版97	II 図版168
第197号井戸跡	F-27	II 344	II 347		II 図版97	
第198号井戸跡	F-21	II 346	II 347	II 349	II 図版98	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第199号井戸跡	F・G-21	II 346	II 347	II 349	II 図版98	
第200号井戸跡	F-21	II 347	II 347		II 図版98	
第201号井戸跡	H-20	II 350	II 347	II 349		
第202号井戸跡	H-21	II 350	II 348		II 図版98	
第203号井戸跡	H-22	II 350	II 348	II 349		
第204号井戸跡	G-19	II 350	II 348		II 図版98	
第205号井戸跡	H-20	II 350	II 348		II 図版98	
第206号井戸跡	E-23	II 350	II 348		II 図版98	
第207号井戸跡	E-21	II 350	II 348	II 349	II 図版98	II 図版168
第208号井戸跡	F-22	II 351	II 348	II 349	II 図版99	
第209号井戸跡	F-21	II 351	II 348	II 349	II 図版99	
第210号井戸跡	E-23	II 351	II 352	II 349	II 図版99	
第211号井戸跡	E-23	II 351	II 352	II 353	II 図版99	II 図版168
第212号井戸跡	G-23	II 351	II 352	II 353	II 図版99	
第213号井戸跡	E-24	II 351	II 354	II 355~360	II 図版99 100	II 図版168 169
第214号井戸跡	E-25	II 354	II 354			
第215号井戸跡	E-25・26	II 361	II 354		II 図版100	
第216号井戸跡	G-23	II 361	II 362	II 362~372	II 図版100 101	II 図版170~172
第217号井戸跡	F-24	II 361	II 373	II 374	II 図版101	
第218号井戸跡	F-23	II 361	II 373		II 図版101	
第219号井戸跡	F-23	II 367	II 373	II 374	II 図版101	II 図版173
第220号井戸跡	F-23・24	II 367	II 375			
第221号井戸跡	H-21・22	II 367	II 375	II 374	II 図版102	
第222号井戸跡	F-23	II 367	II 375	II 376~380	II 図版102	II 図版173~175
第223号井戸跡	G-24	II 373	II 382	II 384	II 図版102	II 図版176
第224号井戸跡	H-21	II 373	II 382	II 384		II 図版176
第225号井戸跡	H-22	II 373	II 382	II 384	II 図版102	II 図版176
第226号井戸跡	H-20	II 375	II 382		II 図版102	
第227号井戸跡	H-21	II 375	II 382		II 図版103	
第228号井戸跡	H-21	II 375	II 382	II 385	II 図版103	
第229号井戸跡	F-22	II 381	II 382	II 385		
第230号井戸跡	F-23	II 381	II 382		II 図版103	
第231号井戸跡	F-23	II 381	II 387	II 385 386	II 図版103	II 図版176 177
第232号井戸跡	F-27	II 381	II 387		II 図版103	
第233号井戸跡	F-23・24	II 381	II 387	II 388	II 図版103	II 図版177
第234号井戸跡	F-23・24	II 383	II 387	II 388	II 図版103	II 図版178
第235号井戸跡	H-23	II 383	II 390	II 391	II 図版104	II 図版177
第236号井戸跡	F-25	II 383	II 390	II 391	II 図版104	II 図版178
第237号井戸跡	H-27	II 383	II 390		II 図版104	
第238号井戸跡	F-25	II 383	II 390			
第239号井戸跡	N-26	II 383	II 390	II 391	II 図版104	
第240号井戸跡	L・M-21・22	II 383	II 390	II 392	II 図版104	
第241号井戸跡	J-21	II 386	II 390	II 392	II 図版104	II 図版178
第242号井戸跡	L-21	II 386	II 393	II 392	II 図版104	
第243号井戸跡	L-21	II 386	II 393	II 392	II 図版105	II 図版177
第244号井戸跡	M-21	II 387	II 393	II 392	II 図版105	
第245号井戸跡	M-22・23	II 387	II 393	II 395	II 図版105	II 図版178
第246号井戸跡	M-23	II 389	II 393	II 395	II 図版105	II 図版178
第247号井戸跡	M-23	II 389	II 393	II 395	II 図版105	
第248号井戸跡	M・N-22	II 389	II 396		II 図版105	
第249号井戸跡	M・N-22	II 389	II 396	II 395	II 図版105	
第250号井戸跡	N-23	II 389	II 396	II 395	II 図版105	
第251号井戸跡	K-22	II 392	II 396	II 397	II 図版106	
第252号井戸跡	K・L-22	II 392	II 396		II 図版106	
第253号井戸跡	M-21	II 392	II 396			
第254号井戸跡	M・N-23	II 392	II 399	II 397	II 図版106	
第255号井戸跡	L-22	II 394	II 399	II 397	II 図版106	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第256号井戸跡	L-23	II 394	II 399	II 397	II 図版106	II 図版178
第257号井戸跡	L-23	II 394	II 399	II 397	II 図版106	II 図版177
第258号井戸跡	L-23	II 394	II 399	II 400	II 図版106	II 図版177
第259号井戸跡	M-21	II 394	II 401	II 400	II 図版107	
第260号井戸跡	J-22	II 398	II 401		II 図版107	
第261号井戸跡	J-23	II 398	II 401		II 図版107	
第262号井戸跡	K・L-22	II 398	II 401	II 400		
第263号井戸跡	J-22	II 398	II 401	II 400	II 図版107	II 図版179
第264号井戸跡	I・J-23	II 398	II 403	II 404		II 図版179
第265号井戸跡	N-24	II 398	II 403		II 図版107	
第266号井戸跡	M-24	II 402	II 403		II 図版107	
第267号井戸跡	M-24	II 402	II 403	II 404		
第268号井戸跡	I-22	II 402	II 403	II 404	II 図版107	II 図版179
第269号井戸跡	J-22	II 402	II 403		II 図版107	
第270号井戸跡	M-25	II 402	II 403	II 405	II 図版108	
第271号井戸跡	M-25	II 402	II 406	II 405	II 図版108	
第272号井戸跡	M・N-25	II 402	II 406	II 405	II 図版108	
第273号井戸跡	N-25	II 408	II 406	II 405	II 図版108	
第274号井戸跡	N-25	II 408	II 406	II 405	II 図版108	
第275号井戸跡	N-25	II 408	II 406			
第276号井戸跡	N-25	II 408	II 406	II 405		II 図版179
第277号井戸跡	N-25	II 408	II 406		II 図版108	
第278号井戸跡	N-25	II 408	II 406		II 図版108	
第279号井戸跡	L-22・23	II 408	II 407		II 図版108	
第280号井戸跡	N-26	II 408	II 407		II 図版108	
第281号井戸跡	N-26	II 409	II 407		II 図版108	
第282号井戸跡	L-21	II 409	II 407			
第283号井戸跡	K-22・23	II 409	II 407		II 図版108	
第284号井戸跡	L-23	II 409	II 407	II 405	II 図版108	
第285号井戸跡	N-26	II 409	II 410		II 図版108	
第286号井戸跡	M-25・26	II 409	II 410	II 405	II 図版109	II 図版180
第287号井戸跡	L-23・24	II 409	II 410	II 411	II 図版109	II 図版180
第288号井戸跡	L-24	II 413	II 410	II 412	II 図版109	II 図版181
第289号井戸跡	K-23	II 413	II 410	II 412	II 図版109	
第290号井戸跡	K-23	II 413	II 414	II 412	II 図版109	
第291号井戸跡	K-24	II 413	II 414		II 図版109	
第292号井戸跡	L-23	II 413	II 414	II 412	II 図版109	II 図版181
第293号井戸跡	J-25	II 413	II 414	II 412	II 図版110	
第294号井戸跡	K-26	II 415	II 414	II 417	II 図版110	II 図版181
第295号井戸跡	K-23・24	II 415	II 416	II 417	II 図版110	
第296号井戸跡	N-23	II 415	II 416			
第297号井戸跡	K-24	II 415	II 416	II 417	II 図版110	
第298号井戸跡	K-26	II 415	II 416	II 417	II 図版110	II 図版181
第299号井戸跡	N-23	II 415	II 416		II 図版111	
第300号井戸跡	L-23	II 415	II 416		II 図版111	
第301号井戸跡	L-24	II 415	II 416		II 図版111	
第302号井戸跡	N-25	II 418	II 416		II 図版111	
第303号井戸跡	J-36	III 340	III 341	III 342	III 図版113	
第304号井戸跡	I-36	III 340	III 341	III 342		
第305号井戸跡	H-38	III 340	III 341		III 図版113	
第306号井戸跡	G-37・38	III 340	III 341	III 342 343	III 図版113	
第307号井戸跡	J-36	III 344	III 345	III 343	III 図版113	
第308号井戸跡	G-36	III 344	III 345	III 343	III 図版113	
第309号井戸跡	G-36	III 344	III 345	III 347	III 図版114	
第310号井戸跡	G-36	III 344	III 345	III 347	III 図版114	
第311号井戸跡	H-35	III 344	III 345			
第312号井戸跡	G-36	III 344	III 345	III 347		

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第313号井戸跡	H-35	Ⅲ344	Ⅲ346		Ⅲ図版114	
第314号井戸跡	H-35	Ⅲ350	Ⅲ346	Ⅲ347	Ⅲ図版114	
第315号井戸跡	H-36	Ⅲ350	Ⅲ346	Ⅲ347	Ⅲ図版114	
第316号井戸跡	H-36	Ⅲ350	Ⅲ346			
第317号井戸跡	H-36	Ⅲ350	Ⅲ346	Ⅲ348 349	Ⅲ図版115	
第318号井戸跡	J-38	Ⅲ350	Ⅲ346		Ⅲ図版116	
第319号井戸跡	H-36	Ⅲ351	Ⅲ352	Ⅲ355 356	Ⅲ図版115 116	Ⅲ図版149 174 175 200
第320号井戸跡	H-37	Ⅲ351	Ⅲ353	Ⅲ357	Ⅲ図版116	
第321号井戸跡	J-35	Ⅲ351	Ⅲ353	Ⅲ357	Ⅲ図版116	
第322号井戸跡	H-36	Ⅲ351	Ⅲ353	Ⅲ357	Ⅲ図版117	Ⅲ図版149
第323号井戸跡	J-36	Ⅲ351	Ⅲ353			
第324号井戸跡	I・J-35	Ⅲ351	Ⅲ354	Ⅲ357	Ⅲ図版117	Ⅲ図版149
第325号井戸跡	G・H-33	Ⅲ353	Ⅲ354			
第326号井戸跡	G・H-34	Ⅲ353	Ⅲ354	Ⅲ361	Ⅲ図版117	
第327号井戸跡	G・H-33	Ⅲ354	Ⅲ359	Ⅲ361	Ⅲ図版117 118	
第328号井戸跡	G-33	Ⅲ354	Ⅲ359		Ⅲ図版118	
第329号井戸跡	F-33	Ⅲ358	Ⅲ359		Ⅲ図版118	
第330号井戸跡	H-35	Ⅲ358	Ⅲ359			
第331号井戸跡	H-35	Ⅲ358	Ⅲ359	Ⅲ361		Ⅲ図版149
第332号井戸跡	G-33	Ⅲ358	Ⅲ360			
第333号井戸跡	G・H-34	Ⅲ358	Ⅲ360	Ⅲ361	Ⅲ図版118 119	
第334号井戸跡	G-35	Ⅲ358	Ⅲ360			
第335号井戸跡	I-35	Ⅲ358	Ⅲ360	Ⅲ362	Ⅲ図版119	
第336号井戸跡	J-35	Ⅲ363	Ⅲ367			
第337号井戸跡	I-34・35	Ⅲ363	Ⅲ360	Ⅲ362	Ⅲ図版119	
第338号井戸跡	H-33・34	Ⅲ363	Ⅲ364			
第339号井戸跡	F-33	Ⅲ363	Ⅲ364	Ⅲ362		
第340号井戸跡	I-35	Ⅲ363	Ⅲ364		Ⅲ図版119	
第341号井戸跡	J-34	Ⅲ363	Ⅲ365		Ⅲ図版119	
第342号井戸跡	J-34	Ⅲ363	Ⅲ365		Ⅲ図版119	
第343号井戸跡	G-33	Ⅲ363	Ⅲ365		Ⅲ図版119	
第344号井戸跡	G-35	Ⅲ366	Ⅲ365	Ⅲ362	Ⅲ図版119	
第345号井戸跡	F-33	Ⅲ366	Ⅲ365			
第346号井戸跡	J-35	Ⅲ366	Ⅲ365		Ⅲ図版120	
第347号井戸跡	J-35	Ⅲ366	Ⅲ367	Ⅲ371	Ⅲ図版120	
第348号井戸跡	I・J-34	Ⅲ366	Ⅲ368	Ⅲ371	Ⅲ図版120	
第349号井戸跡	H-37	Ⅲ366	Ⅲ368	Ⅲ371	Ⅲ図版124	Ⅲ図版149
第350号井戸跡	I-32	Ⅲ366	Ⅲ368	Ⅲ371	Ⅲ図版120	
第351号井戸跡	H-32	Ⅲ366	Ⅲ368			
第352号井戸跡	J-34・35	Ⅲ368	Ⅲ369	Ⅲ371		
第353号井戸跡	J-34	Ⅲ368	Ⅲ369			
第354号井戸跡	I-35	Ⅲ368	Ⅲ369			
第355号井戸跡	H-32・33	Ⅲ369	Ⅲ370	Ⅲ371		
第356号井戸跡	I-32	Ⅲ369	Ⅲ370		Ⅲ図版120	
第357号井戸跡	H-32	Ⅲ372	Ⅲ370	Ⅲ371	Ⅲ図版121	
第358号井戸跡	I・J-34・35	Ⅲ372	Ⅲ370		Ⅲ図版121	
第359号井戸跡	J-34・35	Ⅲ372	Ⅲ370	Ⅲ371	Ⅲ図版121	
第360号井戸跡	J-32	Ⅲ372	Ⅲ370			
第361号井戸跡	I・J-33	Ⅲ372	Ⅲ373		Ⅲ図版121	
第362号井戸跡	F-28	Ⅲ372	Ⅲ373			
第363号井戸跡	G-29	Ⅲ372	Ⅲ373		Ⅲ図版121	
第364号井戸跡	I-28	Ⅲ372	Ⅲ373	Ⅲ371	Ⅲ図版121	
第365号井戸跡	F-30	Ⅲ374	Ⅲ374	Ⅲ371	Ⅲ図版121	
第366号井戸跡	H-28	Ⅲ375	Ⅲ374		Ⅲ図版121	
第367号井戸跡	G-31	Ⅲ375	Ⅲ374		Ⅲ図版121	
第368号井戸跡	F-30	Ⅲ375	Ⅲ374	Ⅲ380	Ⅲ図版122	

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第369号井戸跡	G-30・31	Ⅲ375	Ⅲ374		Ⅲ 図版122	
第370号井戸跡	F-31	Ⅲ375	Ⅲ376	Ⅲ371	Ⅲ 図版122	
第371号井戸跡	F-30	Ⅲ375	Ⅲ376			
第372号井戸跡	F-30	Ⅲ375	Ⅲ376		Ⅲ 図版122	
第373号井戸跡	I-29	Ⅲ376	Ⅲ376		Ⅲ 図版122	
第374号井戸跡	H-30	Ⅲ376	Ⅲ376		Ⅲ 図版122	
第375号井戸跡	G-30	Ⅲ376	Ⅲ376			
第376号井戸跡	G-30	Ⅲ377	Ⅲ377	Ⅲ380		
第377号井戸跡	G-31	Ⅲ378	Ⅲ377	Ⅲ380		
第378号井戸跡	I・J-30	Ⅲ378	Ⅲ377	Ⅲ380	Ⅲ 図版122	
第379号井戸跡	H・I-29	Ⅲ378	Ⅲ377			
第380号井戸跡	G-39	Ⅲ378	Ⅲ377			
第381号井戸跡	H-31	Ⅲ378	Ⅲ379		Ⅲ 図版123	
第382号井戸跡	G・H-39	Ⅲ378	Ⅲ379	Ⅲ380		
第383号井戸跡	G・H-40	Ⅲ378	Ⅲ379		Ⅲ 図版123	
第384号井戸跡	H・I-38	Ⅲ378	Ⅲ379	Ⅲ381	Ⅲ 図版123	
第385号井戸跡	G-38	Ⅲ382	Ⅲ379		Ⅲ 図版123	
第386号井戸跡	H-38	Ⅲ382	Ⅲ379	Ⅲ381	Ⅲ 図版123	
第387号井戸跡	H-38	Ⅲ382	Ⅲ379		Ⅲ 図版123	
第388号井戸跡	K・L-27・28	Ⅳ214	Ⅳ215			
第389号井戸跡	K-29	Ⅳ214	Ⅳ215		Ⅳ 図版37	
第390号井戸跡	K-29・30	Ⅳ214	Ⅳ215	Ⅳ216	Ⅳ 図版37	
第391号井戸跡	N-28	Ⅳ214	Ⅳ215	Ⅳ216	Ⅳ 図版37	
第392号井戸跡	K-29	Ⅳ214	Ⅳ215			
第393号井戸跡	L-30	Ⅳ214	Ⅳ215			
第394号井戸跡	L-28	Ⅳ215	Ⅳ217	Ⅳ216	Ⅳ 図版37	Ⅳ 図版72
第395号井戸跡	K-29・30	Ⅳ218	Ⅳ217	Ⅳ216	Ⅳ 図版37	Ⅳ 図版72
第396号井戸跡	M-29	Ⅳ218	Ⅳ217 218	Ⅳ219	Ⅳ 図版37	Ⅳ 図版73
第397号井戸跡	M-30	Ⅳ219	Ⅳ217 220	Ⅳ221	Ⅳ 図版38	Ⅳ 図版92
第398号井戸跡	L・M-29・30	Ⅳ219	Ⅳ217			
第399号井戸跡	欠番					
第400号井戸跡	N-33	Ⅳ222	Ⅳ223		Ⅳ 図版38	
第401号井戸跡	O-32	Ⅳ222	Ⅳ223		Ⅳ 図版38	
第402号井戸跡	O-33	Ⅳ222	Ⅳ223		Ⅳ 図版38	
第403号井戸跡	K-32	Ⅳ222	Ⅳ223	Ⅳ224	Ⅳ 図版38	Ⅳ 図版73
第404号井戸跡	M・N-35	Ⅳ222	Ⅳ223	Ⅳ224	Ⅳ 図版38	Ⅳ 図版92
第405号井戸跡	O-34	Ⅳ222	Ⅳ223	Ⅳ224	Ⅳ 図版39	
第406号井戸跡	P-34	Ⅳ222	Ⅳ223			
第407号井戸跡	N-36	Ⅳ224	Ⅳ223		Ⅳ 図版39	
第408号井戸跡	K・L-36	Ⅳ224	Ⅳ225	Ⅳ224	Ⅳ 図版39	
第409号井戸跡	L-37	Ⅳ224	Ⅳ225		Ⅳ 図版39	
第410号井戸跡	Q-44	Ⅳ226	Ⅳ225		Ⅳ 図版39	
第411号井戸跡	Q-44	Ⅳ226	Ⅳ225			
第412号井戸跡	Q-43	Ⅳ226	Ⅳ225		Ⅳ 図版39	
第413号井戸跡	Q-44	Ⅳ226	Ⅳ225		Ⅳ 図版39	
第414号井戸跡	Q-44	Ⅳ226	Ⅳ225	Ⅳ227	Ⅳ 図版40	
第415号井戸跡	P-45	Ⅳ226	Ⅳ225		Ⅳ 図版40	
第416号井戸跡	Q-45・46	Ⅳ229	Ⅳ228	Ⅳ229	Ⅳ 図版40	
第417号井戸跡	Q・R-46	Ⅳ229	Ⅳ228	Ⅳ229	Ⅳ 図版40	
第418号井戸跡	Q-45	Ⅳ231	Ⅳ228	Ⅳ229	Ⅳ 図版40	Ⅳ 図版73
第419号井戸跡	P-46 Q-45・46	Ⅳ231	Ⅳ230	Ⅳ232	Ⅳ 図版40	
第420号井戸跡	R-47	Ⅳ231	Ⅳ228	Ⅳ233	Ⅳ 図版41	
第421号井戸跡	Q-46	Ⅳ231	Ⅳ230	Ⅳ233	Ⅳ 図版41	
第422号井戸跡	Q-47	Ⅳ234	Ⅳ230	Ⅳ234	Ⅳ 図版41	
第423号井戸跡	P-47	Ⅳ235	Ⅳ235		Ⅳ 図版41	
第424号井戸跡	P・Q-46	Ⅳ235	Ⅳ235		Ⅳ 図版41	

不明遺構

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号竪穴状不明遺構	E-16・17	I 192	I 192	I 193	I 図版22	I 図版37
第2号竪穴状不明遺構	欠番					
第3号竪穴状不明遺構	欠番					
第4号竪穴状不明遺構	F-10	I 194	I 194	I 195	I 図版22	I 図版37 77
第5号円形周溝状遺構	J・K-22	II 432	II 432	II 432	II 図版111	
第6号円形周溝状遺構	G-23	II 432	II 432			
第7号円形周溝状遺構	K-30	IV 240	IV 240	IV 240	IV 図版42	
第8号竪穴状不明遺構	N-35	IV 241	IV 241 242	IV 243~245	IV 図版42	IV 図版73 74 92
第9号竪穴状不明遺構	P-47	IV 245	IV 246	IV 245	IV 図版42	
第10号焼土跡	P-44	IV 246	IV 246			

土坑

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第1号土坑	第2号方形周溝墓に変更					
第2号土坑	E-18	I 197	I 209			
第3号土坑	D-17	I 197	I 209			
第4号土坑	欠番					
第5号土坑	D-18	I 197	I 209	I 210		
第6号土坑	第1号掘立柱建物跡P1に変更					
第7号土坑	D-18	I 197	I 209	I 210		
第8号土坑	D-18	I 197	I 209			
第9号土坑	D-17	I 197	I 209			
第10号土坑	E-17	I 197	I 209	I 210		
第11号土坑	E-17	I 197	I 209			
第12号土坑	欠番					
第13号土坑	E-17	I 197	I 209			
第14号土坑	E-17	I 208	I 209	I 210		
第15号土坑	第1号掘立柱建物跡P4に変更					
第16号土坑	D-17	I 208	I 209			
第17号土坑	D-17	I 208	I 209			
第18号土坑	欠番			I 210		
第19号土坑	第3号掘立柱建物跡P8に変更					
第20号土坑	D-15	I 208	I 209	I 210		I 図版39
第21号土坑	D-15	I 208	I 209			
第22号土坑	第2号掘立柱建物跡P40に変更					
第23号土坑	第2号掘立柱建物跡P6に変更					
第24号土坑	D-15	I 208	I 209			
第25号土坑	第2号掘立柱建物跡P2に変更					
第26号土坑	D-15	I 208	I 209	I 210		
第27号土坑	第2号掘立柱建物跡P10に変更					
第28号土坑	D-14	I 210	I 212	I 210		
第29号土坑	第2号掘立柱建物跡P7に変更					
第30号土坑	C-16	I 210	I 212			
第31号土坑	D-14	I 211	I 212			
第32号土坑	D-15	I 211	I 212			
第33号土坑	D-14	I 211	I 212			
第34号土坑	C-14	I 211	I 212	I 210		
第35号土坑	D-14	I 211	I 212			
第36号土坑	D-14	I 211	I 212	I 210		
第37号土坑	欠番					
第38号土坑	D-14	I 211	I 212			
第39号土坑	C-16	I 211	I 212			
第40号土坑	C-13	I 211	I 212			
第41号土坑	D-13	I 211	I 212	I 215		
第42号土坑	D-13	I 214	I 212	I 215		
第43号土坑	C・D-13	I 214	I 213	I 215		I 図版39

遺構名	グリッド	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真
第44号土坑	D-12・13	I 214	I 213	I 215		
第45号土坑	欠番					
第46号土坑	欠番					
第47号土坑	C-13	I 214	I 213			
第48号土坑	D-17	I 214	I 213	I 215		
第49号土坑	C・D-16	I 214	I 212			
第50号土坑	D-17・18	I 214	I 213 237	I 215	I 図版22	I 図版39
第51号土坑	D・E-18	I 214	I 213	I 215		I 図版40
第52号土坑	D-17	I 214	I 213	I 215		
第53号土坑	E-17	I 216	I 213			
第54号土坑	D-17	I 216	I 213			
第55号土坑	D・E-17	I 216	I 213	I 215		
第56号土坑	D-17	I 216	I 213			
第57号土坑	第2号方形周溝墓に変更					
第58号土坑	E-17	I 216	I 213	I 215		
第59号土坑	欠番					
第60号土坑	E-17	I 216	I 213			
第61号土坑	第8号掘立柱建物跡P7に変更					
第62号土坑	E-18	I 216	I 213			
第63号土坑	D-18	I 216	I 222			
第64号土坑	E-18	I 216	I 222	I 215		
第65号土坑	E-18	I 216	I 222	I 215		
第66号土坑	E-18	I 217	I 222			
第67号土坑	D-16・17	I 217	I 222			
第68号土坑	D-16	I 217	I 222	I 215		
第69号土坑	D-18	I 217	I 222			
第70号土坑	D-18	I 217	I 222			
第71号土坑	E-18	I 217	I 222	I 226		I 図版40
第72号土坑	D-18	I 217	I 222			
第73号土坑	C-15	I 217	I 222			
第74号土坑	D-16	I 217	I 212			
第75号土坑	D-17	I 217	I 222			
第76号土坑	D-16	I 218	I 222			
第77号土坑	C-16	I 218	I 222			
第78号土坑	D-17	I 218	I 222	I 226		
第79号土坑	E-14	I 218	I 223	I 226		
第80号土坑	E-16	I 218	I 223	I 226		I 図版40
第81号土坑	D-14	I 218	I 223			
第82号土坑	E-16	I 218	I 223			
第83号土坑	第20号住居跡に変更					
第84号土坑	D-16	I 218	I 223			
第85号土坑	C-13	I 218	I 223			
第86号土坑	D-14	I 219	I 223			
第87号土坑	C-13	I 219	I 223	I 226		
第88号土坑	D-16	I 219	I 222			
第89号土坑	D-16	I 219	I 223	I 226		
第90号土坑	D-14	I 219	I 223	I 226		
第91号土坑	C-14	I 219	I 223	I 226		
第92号土坑	C-13	I 219	I 223	I 226		
第93号土坑	E-15	I 219	I 223			
第94号土坑	C-12	I 219	I 223	I 226		
第95号土坑	C-11・12	I 220	I 224			
第96号土坑	C-11	I 220	I 224			
第97号土坑	C-10	I 220	I 224			
第98号土坑	B-8	I 220	I 224			
第99号土坑	欠番					
第100号土坑	C-9	I 220	I 224			